

評価と一体化したプロジェクト重視の 小学校英語指導法の構築と普及

課題番号 21K13067

2021(令和3)年度~2024(令和6)年度

日本学術振興会科学研究費助成事業(科研費)若手研究

研究報告書



研究代表者 白土厚子

(東京学芸大学)

評価と一体化したプロジェクト重視の 小学校英語指導法の構築と普及

課題番号 21K13067

2021(令和3)年度~2024(令和6)年度

日本学術振興会科学研究費助成事業(科研費)若手研究

研究報告書



研究代表者 白土厚子

(東京学芸大学)

研究概略

- 研究代表者 白土 厚子 (東京学芸大学)

- 研究経費

	直接経費	間接経費	合計
2021(令和3)年度	500,000	150,000	650,000
2022(令和4)年度	400,000	120,000	520,000
2023(令和5)年度	600,000	180,000	780,000
2024(令和6)年度*			

*2021・2022年度コロナ禍で実践研究が十分ではなかったため、2024(令和6)年度まで延長

- 研究発表

【著書】

- ・白土厚子.(2022).「プロジェクト重視の指導—Project-Based Approach (PBA)」共著『創造的な学びを育む初等英語教育』. 朝日出版.

【論文】

- ・白土厚子.(2022).「小学校教員養成課程の学生の外国語に関する自己評価の変容—コアカリキュラムの視点から—」.『津田塾大学紀要』No. 54, 215-243.
- ・白土厚子.(2022).「小学校外国語科検定教科書 *We Can!*の比較分析—4 技能の言語活動の視点から—」.『津田塾大学言語文化研究所報』No. 37, 110-124.
- ・白土厚子.(2022).「小学校教員養成課程外国語(英語)の授業までのマイクロティーチングの有効性—受講生の視点から春学期と秋学期を比較する—」.『東京学芸大学英学論考』No. 50, 1-20.
- ・白土厚子.(2023).「中学1年生の外国語(英語)教科書分析—小中接続の視点から指導のポイントを探る」.『津田塾大学紀要』No. 55, 253-272.

- ・Shirado, Atsuko. (2023). Project-Oriented Instruction and Evaluation Using the Certified Textbook: Through Two-Year Practice for Sixth-Grade Students. *Tsuda Review, No. 68*, 101-131.
- ・白土厚子. (2024). 「活動と教科をつなぐプロジェクト重視の指導と評価—5年生の外国語科の実践から見えてきたもの—」. 『津田塾大学紀要』 No. 56, 115-136.

【口頭】

- ・「小学校教員養成課程の学生の外国語に関する自己評価の変容—コアカリキュラムの視点から—」
全国英語教育学会第46回長野研究大会 (信州大学) (2021年8月: オンライン)
- ・「小学校外国語科用検定教科書と *We Can!* の比較分析—4技能の言語活動の視点から—」
小学校英語教育学会第21回関東・埼玉大会 (埼玉大学) (2021年10月: オンライン)
- ・「小学校教員養成外国語(英語)の授業でのマイクロティーチングの有効性—受講生の視点から
春学期と秋学期を比較する—」JASTEC 第42回全国大会 (大阪成蹊大学) (2022年
6月: オンライン)
- ・「中学1年生の外国語(英語)教科書分析—小中接続の視点から指導のポイントを探る—」小学
校英語教育学会第22回四国・徳島大会 (四国大学) (2022年7月: オンライン)
- ・「小学校高学年の教科書を活用したプロジェクト重視の指導—実施可能な指導と評価の一体化を
目指して—」全国英語教育学会第47回北海道研究大会 (北海道科学大学) (2022年
8月: オンライン)
- ・「教科書を活用したプロジェクト重視の指導と評価—六年生への一年間の実施から—」小学校英
語教育学会第23回近畿・京都大会 (京都教育大学) (2023年7月)
- ・「小学校教員養成外国語(英語)の授業でのマイクロティーチングの活用—指導法の受講生の視
点からの比較・考察—」全国英語教育学会第48回香川研究大会 (香川大学) (2023年
8月)
- ・「教科書を活用したプロジェクト重視の指導年間計画—2年間の指導と評価の実践を裏付けに
—」小学校英語教育学会第24回中国・山口大会 (山口大学) (2024年7月)
- ・「台湾2都市4小学校の英語の授業から学ぶもの」全国英語教育学会第49回福岡研究大会
(福岡工業大学) (2024年8月)

目次

研究概略

目次

はじめに	1
研究編	
I 研究の理論的背景	3
II 小学校におけるプロジェクト重視の英語指導	5
1. プロジェクト重視の指導の基本的枠組み	5
2. プロジェクト重視の指導の手順	5
3. プロジェクト重視の指導の効果	6
III 研究計画と実施方法	8
1. 研究目的	8
2. 研究計画	8
3. 実践方法	9
IV 研究データの分析	11
1. 分析方法	11
2. 分析結果	12
V 研究の考察	43
実践編	
I 実践の概要と評価の枠組み	50
1. 実践の概要	50
2. 評価の枠組み	53
II 教科書を活用したプロジェクト重視の指導年間計画と指導概略	56
1. ONE WORLD と各教科書関連表	56
2. 5年生年間計画と概略	60
3. 6年生年間計画と概略	79
おわりに	100
付録	101

はじめに

本報告書は、2021(令和3)年度から2024(令和6)年度までの4年間に研究課題名「評価と一体化したプロジェクト重視の小学校英語指導法の構築と普及」(課題番号21K13067)として行った研究活動とその成果に関するものである。

小学校外国語教育においては、2020(令和2)年度より「外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成すること」(文部科学省, 2017, p. 11)を目標に、小学校中学年に外国語活動が導入され、さらに小学校高学年では外国語が教科となり、読むこと・書くことを加えた4技能による「実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける」ことを目指している(文部科学省, 2017, p. 69)。小学校中学年で外国語活動を土台とし、高学年で教科として外国語を指導するからには、小学校から高校までの長いスパンで英語力を育てることを前提に、全人教育の場である小学校段階に最もふさわしい方法で能力育成を行うことが大切である。そのため、現状に即しながら児童が「実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付け」(文部科学省, 2017, p. 69)、中学年から培ってきた「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」(文部科学省, 2017, p. 72)ための指導を継続していく中で、指導した内容を評価し、それをさらに次の指導につなげていく「指導と評価の一体化」(国立教育政策研究所, 2020)をどのように実現するのが、より一層重要となっている。

指導体制においては、学級担任(担任)や専科教員に加えて、2022年度から外国語科の教科担任制が進められている(文部科学省, 2021, 2023)。そのため、専科教員だけでなく、担任が自分のクラスを指導したり、交換授業により自分のクラス以外のクラスも(教科担任制のもと)外国語科担当として指導したりする可能性も十分ある(天笠, 2022)。その一方、高学年の担任が外国語科の指導に携わる場合、以前から外国語科の指導への負担と不安が指摘されている(折井, 2022; 國分, 2022; Fennelly, Fukuda, & Kaiser, 2023)。そのため、(教科担任を含む)担任がその長所である深い児童理解を活かしつつ、安心して外国語の指導に取り組める支援も必要となっている。

このような指導体制の中、2020年度から使用されている5,6年生の検定教科書を分析してみると、学期末等にプロジェクト型の活動を取り入れ、児童の統合的言語活動を促し、プロジェクトのプロセスやゴールでの児童の様子を評価に活かせるよう設定された教科書がいくつかあることも明らかになった(白土, 2022a)。プロジェクト型の活動は、児童の様々な知識を活用した言語活動につなげやすい。そのため、特に教科横断的に指導を行う担任にとっては、その特徴を活かした指導が行えるという利点があるが、ただ教科書に記載されているプロジェクト型の活動をそのまま行うのではあまり効果がない。児童がその活動を自分ごととして捉え、必然性や誰に伝えるのかといった相手意識を感じながら取り組むことが重要である(白土, 2022b)。これにより児童の学習意欲が高まり、その結果主体的学びを喚起し、プロジェクト後の満足感・達成感につながりやすい。さらに、著者のコロナ禍前のプロジェクト重視の実践(白土, 2019)を振り返ってみると、担任中心の指導体制で、担任の長所を活かしたプロジェクト重視の指導を行うことができたが、高学年の外国語活動から外国語科への移行期の実践であったため、共通教材(*We Can!*)の未習内容を補うためのタスク活動¹が必要であり、そのため多忙な担任にはかなりの指導準備が負担となっていた。また、指導と評価の一体化も十分とは言えなかった。

これらの現状を踏まえると、現行の学習指導要領の目標を達成するためのカギとなる「指導と評価の一体化」を実現するためには、学習のプロセスやゴールでの児童の様子を評価に活かせるプロジェクト型の活動を大いに活用すべきであるが、ただプロジェクトの型にはめ込むのではなく、児童が主体的に互いに高め合いながら「分かった!」という体験的理解を得て、満足感や達成感を感じられるプロジェクトを重視した指導を行うべきである。さらに、担任がその長所を活かしつつ ALT 等と協働することで、担任の負担感を軽減したプロジェクト重視の英語指導ができるのではないかと考えた。

そこで本研究は、2020 年に教科となった小学校外国語科の目標（4 技能による実践的コミュニケーションの基礎的技能と主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成）の達成に、評価と一体化したプロジェクト重視の英語指導法が有効かという課題に取り組むこととした。今までのプロジェクト重視の指導の知見（白土, 2015, 2019）をもとに、2021 年度から 2024 年度まで公立小学校の 5、6 年生への実践を通して、（教科担任を含む）担任中心の指導体制で担任と児童の負担感を軽減しつつ、外国語活動での児童の学びを活かした外国語科の指導と評価につなげることができるかを探った。

本研究報告では、まず研究編として、I 研究の理論的背景、II 小学校におけるプロジェクト重視の英語指導、III 研究計画と実施方法、IV 研究データの分析、そして V 研究の考察を述べる。実践編では、I 実践の概要と評価の枠組み、II 教科書を活用したプロジェクト重視の指導年間計画と指導概略の順に実践内容を述べ、最後に付録としてオリジナルワークシートと評価資料を提示する。

この研究成果にもとづくプロジェクト重視の英語指導法が、本報告書により広く多くの児童の学習を支える指導者の方々に役立てて頂ければ幸いである。活用していただけることを心から願っている。

最後に、本研究では、実践校である東京都小平市立小平第十五小学校の多大なるご理解とご協力を得て実施することができました。実践校の先生方と児童の皆さんに深く感謝の意を表します。また、本研究の指導計画や評価方法についてご助言くださった東京学芸大学の阿部始子准教授に感謝いたします。さらに、本報告書の作成にご助言頂いた鹿児島純心女子大学川上典子教授、跡見学園女子大学峰松和子准教授にお礼申し上げます。

2024 年 10 月

白土厚子

【研究編】

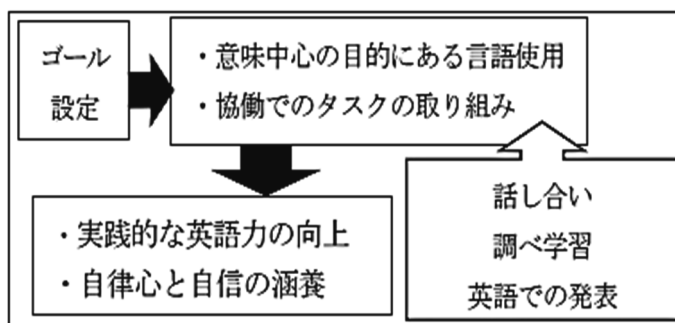
I. 研究の理論的背景

プロジェクト重視の指導は、プロジェクト・ベースド・アプローチ (Project-Based Approach: PBA) に基づく英語指導法である。PBA は、20 世紀初頭の思想家 John Dewey の経験主義教育を基盤とする理論である (Beckett, 2006)。Dewey は、経験学習 (experiential learning)²だけでなく、協働学習 (collaborative learning)³の大切さも主張していることから、この両者を重視するアプローチであると考えられる。さらに、Dewey の理論に基づき、弟子の Kilpatrick が PBA における「プロジェクト」の概念 (実際に様々な経験をしながら協働で身近にある課題を解決していく) を広めた。知識偏重ではなく汎用的な能力を重視する PISA (Programme for International Student Assessment) 調査でその優秀性が証明されたフィンランドの初等教育でも、PBA を取り入れたカリキュラムが実践されている (佐藤, 2005)。

次に英語教育の視点から PBA を概観する。English as a foreign language (EFL) に初めて PBA を導入した Fried-Booth (2002) は、PBA を用いて学習すると、EFL 学習者は最終成果物 (プロジェクトを構成する様々なタスクを達成することでプロジェクト全体が完了し、その結果得られるもの) をつくり出すという目標に向けて、自分たちで選択・決定する機会が与えられ、それにより学習者たちは意味中心の目的のある言語使用が可能になるため、タスクに協働で取り組む過程で言語スキルが向上し、自信や自律心が養われると唱えた。また Nunan (2004) は、コアとなるプロジェクトには達成すべき目標があるため、その目標に向けて連続的に配置されるタスクには一貫性があり、学習者がそれらのタスクを達成していくことで最終成果物の完成につながると、言語教育における PBA の構造的特徴を説明している。さらにタスクには様々な定義があるが、Cameron (2001) によると、外国語を学ぶ子どもたちにとってタスクとは、トピックから活動あるいは結果まで一貫性があり、取り組むべき明確なゴールと意味を持ち、認知的領域を含む課題達成を目指す活動である。その中で、現実世界の課題を達成するといったタスクと直接つながってなくても、学習者がプロジェクトを構成するタスクを達成する活動の中で質問したり、意味を確認したりすることで、理解を共有するための本物のやり取り (意味のあるやり取り)、つまり “interactional authenticity” (Ellis, 2003) が生まれる。EFL を学ぶ PBA 教室の児童は、このような意味のあるやりとり中心の活動を通して主体的に情報を交換し、気持ちを伝え合おうとすると推測される。特に日本のように実際に英語を使う機会が非常に少ない学習環境では、田中 (2009) は、PBA の実践には Discussion (話し合い)、Research (調べ学習)、Presentation (発表) の 3 つの要素を取り入れることが大切であると主張している。

これらの理論に基づき、日本の小学校における PBA の指導を図 1 のように捉える。まずプロジェクトのゴールを設定し、児童と共有することが何より重要である。これにより、ゴールに向けて意味中心の目的のある言語使用が可能になり、児童たちはタスクあるいはタスク活動に協働で取り組みやす

図 1. 日本の小学校での PBA 指導 (白土, 20022c)



くなる。プロジェクトの達成には、「話し合い」「調べ学習」「英語での発表」を組み入れる。その結果、英語の能力だけでなく、自信や自律心も養われる可能性が高まる。このように、日本の小学校における PAB を活用した英語指導でも、実践的な英語力の向上と主体的な取り組みにより、自律心や自信が養われることが期待できる。

この小学校における PBA の指導をもとに 2011 年から実践を重ね(白土, 2015)、改良を加えたプロジェクト重視の指導の基本的枠組みを次の II. 小学校におけるプロジェクト重視の英語指導 (p. 5 以降) で説明する。

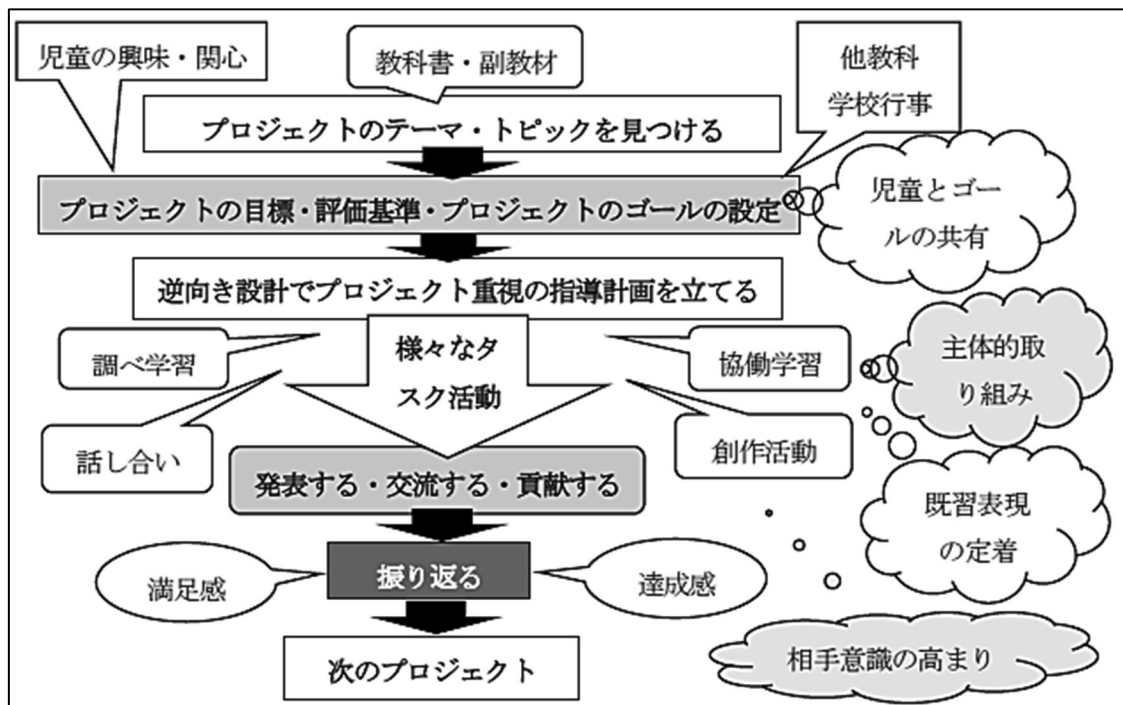
II. 小学校におけるプロジェクト重視の英語指導

1. プロジェクト重視の指導の基本的枠組み

I. 研究の理論的背景では、プロジェクト・ベースト・アプローチ (Project-Based Approach: PBA) の理論と、それに基づく日本の小学校での PBA 指導について説明した。では、実際にどのように取り組むべきか。日本の小学校英語における PBA 指導 (図 1: p. 3) をもとに、約10年の実践 (白土, 2015, 2019; Shirado, 2023; 白土, 2024) を通して改良を加えたプロジェクト重視の指導の基本的枠組み (図2: p. 5) を説明する (白土, 2022c)。具体例を示した実践編の実践の概要 (p. 68~) と併せて読んでいただきたい。

プロジェクト重視の指導を小学校英語教育で実践する場合、いわゆる「プロジェクト型」にすべてをはめ込むというより、むしろ「プロジェクト重視」であることを念頭に置き、可能な範囲でプロジェクトを意識した活動に取り組むべきである。つまり、きちんと最初から最後までプロジェクトにすべてをはめ込まなくては効果がないと考える必要はない。教科書や副教材を使いながら、図 2 に基づく (1)~(5) を基本的枠組みとしながら、柔軟に目の前の児童に合わせて「プロジェクトを重視した指導」を5領域 (聞くこと・話すこと [やり取り]・話すこと [発表]・読むこと・書くこと) 統合型の自己表現活動として学期末等に組み込んでいくことを提案する。

図 2. 小学校英語教育におけるプロジェクト重視の指導の枠組 (白土, 2022c)



2. プロジェクト重視の指導の手順

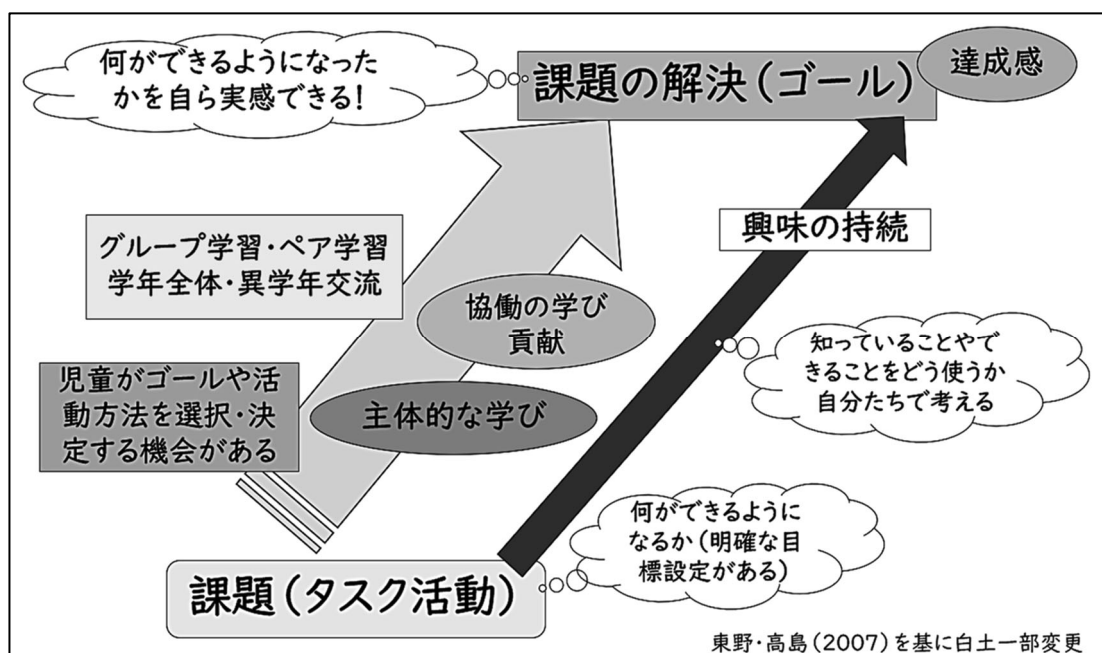
(1) プロジェクトに使用する教科書等の内容から児童の興味・関心を考慮したゴールを設定する。ゴール設定には、児童がその学習内容に興味を持ち、もっと知りたい、言語材料をもっと使いたいと思えるよう発展させられる題材であるかを検討する。教科書を活用すれば、新たなプロジェクトやそれに伴う様々なタスク活動を授業に組み込む必要がない。また、教科書の単元を組み合わせ、目の前の児童の興味・関心に合ったプロジェクトのゴールを設定することも可能である。

具体的には、実践の概要で示した6年生1学期のプロジェクトを例に挙げる。教科書の Lesson 1~ Lesson 3の単元の言語材料と学習内容をあわせ、留学生との交流会で班毎に「自分たちが住んでい

- る地域のおすすめの場所と好きな日本文化を紹介する」ことをプロジェクトのゴールとしている(p. 69)。
- (2) プロジェクトのゴールを設定したら、逆向き設計で指導計画と評価計画を立てる。その際重要なのは、学習内容と言語材料をつなぐプロジェクト内のタスク活動である。児童にとって興味を持って取り組み、どのタスク活動もそれを達成することでゴールを達成できるように構成する。
- 詳細は、教科書を活用したプロジェクト重視の指導案(概略)(p. 74～)を参照頂きたい。
- (3) プロジェクト開始時にゴールを児童と共有し、児童が主体的に目的意識や相手意識をもちながら、タスク活動に取り組めるように教員が支援する。教科書を活用する場合、教科書内の活動を目の前の児童に合わせアレンジしたり、取捨選択したりしながら進める。さらに、調べ学習や話し合いを組み入れ、児童が学習内容の理解を深め、一人ではできないことも児童間で学び合う協働学習を目指す。
- 特に、教科書の単元を組み合わせたプロジェクトの場合、それぞれの単元での学びをプロジェクトのゴールにつなげるため、単元末の発表等を振り返り、その成果と課題を基に、より相手に伝わる方法や工夫を児童に考えさせることが大切である(教科書を活用したプロジェクト重視の指導概略参照)。
- (4) ゴールでは、プロジェクトの成果を最終成果物としてクラスや学年、さらに下級生や児童の家族等に発表したり、その成果物を基に地域の人々や外国の人々と直接交流したり、インターネット等を使って発信したり、地域貢献(提案やボランティア活動等)をしたりすることが想定される。
- (5) ゴール達成後は、児童自身が振り返りを行うことで、満足感や達成感を得たり、次への課題を見つけたりする機会とする。また、授業中の教員やクラスメートからのフィードバック、さらに発表や交流、地域貢献によって得られる他者(6年生1学期のプロジェクト実践例では、留学生ら)からのフィードバックによって、児童一人一人のプロジェクトの内容や英語を含めた言語・非言語による伝達方法、さらにはプロジェクト内での他者とのコミュニケーションにより、児童の気づきが広がったり、深まったりすることで、より一層達成感を得られるようにする。

3. プロジェクト重視の指導の効果

図3. プロジェクト重視の指導の特徴



小学校英語教育でこうした教科書を活用したプロジェクト重視の指導を実践した場合、PABの理論(I. 研究の理論的背景参照)とその実践(白土, 2015, 2019; Shirado, 2023; 白土, 2024)に基づき、図3が示すプロジェクト重視の指導の特徴により、(1)~(5)の効果が期待できる。

- (1) 児童は、プロジェクトの内容やゴールまでの達成手段を自ら選択・決定する機会があるため、英語を使って主体的にタスク活動を行い、学習への意欲を高める。ゴール達成後には、満足感や達成感を得て、それが児童の自律心や自信の高まりにつながることを期待できる (Fried-Booth, 2002; Beckett, 2006)。
- (2) プロジェクト内のいくつものタスク活動が一つのトピックでつながることで、言語材料は初級レベルであっても扱うトピックの内容は深まり、認知的には児童のレベルに合った思考力・判断力を必要とする内容にすることができ、児童の興味・関心を持続させ、コミュニケーション意欲を高める可能性が高い (Fried-Booth, 2002; Beckett, 2006)。
- (3) タスク活動が多くても、プロジェクトのトピックでそれらのタスク活動をつなげることができるので、一貫性のある内容となり、繰り返しそのトピックに関連のある言語材料にスパイラル的に(プロジェクトが進むにつれてらせん階段を上るように異なる様々なタスク活動で)触れることができ、英単語や英語表現が児童の頭の中でつながり、児童の英語学習への理解や定着が促される (Haines, 1989)。インプットの量が少ない英語を外国語として学習している EFL の環境では、トピックや言語材料に関連性がないと、児童の知識が細切れになり記憶の定着や理解につながりにくく、コミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることは難しい (東野・高島, 2007)。
- (4) 話題シラバス・場面シラバスである小学校外国語科の教科書を活用したプロジェクト重視の指導では、教科書内の学習内容が児童の興味・関心に合った身近な題材や他教科の知識、学校行事等を利用するため、英語だけでは不安で曖昧な児童の理解をサポートしたり、英語以外の児童の得意な知識や技能(例えば、音楽、理科、社会等の得意分野の知識、絵を描くこと、自然観察、他者へのインタビュー、PCリテラシー、非言語コミュニケーション)を活かしたりできる。そのため、プロジェクト重視の指導に組み入れられる協働学習では、各児童が自分の貢献できる役割を担うことができ、児童の満足感や達成感を一層高め、自己肯定感につながることを期待できる。(Phillips et al., 1999; Ribé, & Vidal, 1993)。英語に苦手意識を持つ児童も、自分の得意な分野でゴール達成に貢献できるため、プロジェクトへの自己関与の度合いが高まり、その結果英語学習にも興味を持てるようになる。
- (5) 教科書を活用したプロジェクト重視の指導では、(教科担任を含む)担任が多くの教科を指導する小学校教育の特性にも適している。また担任は、プロジェクト重視の指導で重視される調べ学習や協働学習等で、「総合的な学習の時間」に培った探求的学習の手法を活かすこともできる。

III. 研究計画と実施方法

1. 研究目的

本研究の目的は、II.で説明したプロジェクト重視の指導が、検定教科書を活用した担任（教科担任を含む：以降これら指導者の代表として担任と表記）中心の指導体制で児童が主体的に取り組みながらコミュニケーションの基礎力を身につけられるかを検証し、実施可能な指導と評価を一体化した指導法を構築し、普及することである。そのため、「はじめに」「研究の理論的背景」で述べた先行研究や実践の分析を踏まえ、特に（1）児童がプロジェクトを通して満足感や達成感を得て英語学習への意欲や自信を高められるか、（2）基礎的な技能の定着とコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながるか、（3）担任と児童の負担感を軽減しつつ指導と評価の一体化を図り、継続的に指導の改善と児童の自己調整能力を養うことができるか、の3点を検証し、実施可能な評価と一体化したプロジェクト重視の指導法を目指した。

2. 研究計画

まず、2021（令和3）年度に外国語科全ての5、6年生用検定教科書（2020年度版）の言語材料与学習内容を比較・分析し、その傾向を調べ、指導計画作成の基礎資料とした。次に、*ONE WORD Smiles 5*（小泉・加賀田，2020a）、*ONE WORD Smiles 6*（小泉・加賀田，2020b）を中心にどの検定教科書でも導入可能な24回の授業で構成するプロジェクト重視の英語指導計画を各学年で1、2学期に1つずつ、計4つのプロジェクト重視の指導計画を作成し、それらの指導計画に基づく授業を2022・2023（令和4・5）年度、さらに2024年度版教科書での活用を検証するため2024年度1学期に実践校の5、6年生に行った。指導体制は、担任中心に著者が担当する日本人英語講師（JTE）または、実践校に派遣された外国人指導助手（ALT）とのチームティーチングと担任のみの指導の両方であった。しかも、英語で行う必然性を高め、児童がコミュニケーションの道具として英語を意識できるよう、6年生は、1・2学期の最終発表を、5年生は1学期の最終発表を実践校と交流のある津田塾大学の留学生に行った。当初研究期間は3年間であったが、コロナ禍で十分な実践と研究で得られた知見の還元ができなかったため、研究を2024（令和6）年度まで1年延長した。そのため、2020年度版教科書を活用した実践を2年間（2022・2023年度）に各プロジェクト（1学期用指導計画と2学期用指導計画）を2回ずつ、さらに2024年度版教科書を活用した実践（1学期用指導計画）を2024年度1学期に行い、同じ学年の異なる児童に複数回実施することにより、データ収集・評価分析の精度向上図った。

評価分析ツールは、①「聞くことクイズ」（聞く力）、②「個別インタビュー（パフォーマンス評価）」（話す力）、③「アルファベットクイズ」（読む・書く力）、④「英語学習アンケート」（4技能への意欲・自信）、⑤「Can-Do 自己評価アンケート」（できるという自己評価）、⑥「児童自由記述アンケート」、⑦「担任を含む英語担当教員の自由記述アンケート」の7種類で、④、⑤は事前事後で分析を行った。また、①から⑤の量的分析と⑥、⑦の質的分析の混合研究法で行った。倫理的教育的配慮から対照群を設定しなかった。ただし、半年以上英語使用国に在住していた児童は対象外とした。本来外国旅行経験や学外での私的英語学習経験の影響も考慮すべきであるが、実際には個人差が大きく範囲の限定が難しいため、今回は対象から排除しないで分析を行った。

以下に4年間の計画を記述する。

- (1) 2021年度前期:最新のPBA等の文献研究及び検定教科書の比較・分析研究
- (2) 2021年度後期:学期毎に各学年のプロジェクト重視の指導計画と評価方法の作成
→2011年度から蓄積してきた同種の分析ツールのデータを基に①から⑦を作成する。
- (3) 2022年度前期:各学年の1学期用指導計画の実施とデータ収集及び評価方法の検討
- (4) 2022年度後期:各学年の2学期用指導計画の実施とデータ収集及び評価方法の検討
→1・2学期用指導計画の分析結果を基に、指導と評価の方法やデータ収集、分析方法の修正
- (5) 2023年度前期:(3)で修正した各学年の1学期用指導計画の実施及びデータ収集と分析
- (6) 2023年度後期:(4)で修正した各学年の2学期用指導計画の実施及びデータ収集と分析
- (7) 2024年度前期:2024年度版教科書による1学期用指導計画の実施及びデータ収集と分析
- (8) 2024年度後期:2022~2024年度のデータ分析と検証
→2022~2024年度のデータ分析とそれに基づく総合的な考察とその普及

最終目標として、混合研究法により得られた量的結果を質的結果で補完しながら言語的・情意的両面から考察し、プロジェクト重視の英語指導法が検定教科書を活用した担任中心の指導体制で児童の4技能によるコミュニケーションの基礎育成が図れるか、さらにプロジェクト重視の枠組みで実施した評価(①~⑦)が児童の達成感や主体的態度の育成につながるかを検証し、実施可能な評価と一体化した指導法を構築し、国内外の学会等で発表するとともに、ワークショップや報告書を通して本研究で得られた知見を還元することを計画した。

3. 実施方法

(1) 参加者

本研究の参加者は、東京都の公立小学校の5,6年生である。2022年度の6年生は、3クラス83人、2023年度は3クラス93人、2024年度は2クラス、71人である。2022年4月の調査では、学校以外で英語学習を継続している児童は83人中21%で、平均学習時間は1週間で76分であった。それ以外自宅でDVDやCD、インターネット、テレビ等を使って英語に触れている児童は12%で、平均学習時間は1週間で34分だった。また、日本以外の国の在住経験者は3人で、いずれも英語を日常生活で使う国ではなかった。2023年度は、学校以外で英語学習を継続している児童は24人(26%)で、平均学習時間は1週間で69分であった。それ以外自宅で英語に触れている児童は10人(11%)で、平均学習時間は1週間で29分だった。また、日本以外の国の在住経験者は2人で、いずれも英語を日常生活で使う国ではなかった。2024年度は、学校以外で英語学習を継続している児童は16人(23%)で、平均学習時間は1週間で75分であった。それ以外自宅で英語に触れている児童は5人(7%)で、平均学習時間は1週間で57分だった。また、日本以外の国の在住経験者はいなかった。

5年生は、2022年度は3クラス93人、2023年度は2クラス74人、2024年度は3クラス97人である。2022年度の4月の調査では、学校以外で英語学習を継続している児童は21人(23%)で、平均学習時間は1週間で62分であった。それ以外自宅で英語に触れている児童は2人(2%)で、平均学習時間は1週間で35分だった。また、日本以外の国の在住経験者は2人で、いずれも英語を日常生活で使う国ではなかった。2023年度は、学校以外で英語学習を継続している児童は12

人(16%)で、平均学習時間は1週間で59分であった。それ以外自宅で英語に触れている児童は2人(3%)で、平均学習時間は1週間で42分だった。また、日本以外の国の在住経験者はいなかった。2024年度は、学校以外で英語学習を継続している児童は21人(21%)で、平均学習時間は1週間で81分であった。それ以外自宅で英語に触れている児童は1人(1%)で、平均学習時間は1週間で30分だった。また、日本以外の国の在住経験者は1人で、英語を日常生活で使う国ではなかった。

(2) 指導体制

5年生・6年生ともに2022年度年間70時間の指導体制別授業回数では、5年生は、担任とALTあるいはJTEとのチームティーチングが41回、担任のみが29回、6年生はチームティーチングが48回、担任のみが22回で、2023年度・2024年度もほとんど同数であった。なお本研究は、研究計画で示しているように、1学期・2学期の各プロジェクト重視の指導を調査分析対象としているため、1・2学期合計の指導体制別授業回数もここに明記する。2022年度は、5年生のチームティーチングが26回、担任のみが20回、6年生のチームティーチングが34回、担任のみが15回で、2023年度・2024年度もほぼ同数であった。

(3) 実施方法

研究計画に基づき、2022年度・2023年度学期毎に5,6年生に2020年度版教科書を活用したプロジェクトを実施した。これらの実践を開始するにあたり、実践校の学校長と対象学年の学級担任(外国語教科担任を含む)に実践研究の趣旨を十分に説明したうえで、授業の進め方やデータ収集に関して児童の利益を最優先に考え、担任と十分な打ち合わせと細心の注意を払って行い、個人情報には匿名化され、収集したデータは学術目的のみで使用され、著者が責任をもって適切にしかるべき期間管理することで同意を得た(実践内容については、実践編を参照)。2024年度は、2024年度版教科書を活用したプロジェクトを上記と同じ方法で実施した。

IV 研究データの分析

1. 分析方法

研究計画(p. 8)で述べたように、学期毎に以下 7 種類の方法で本実践を検証した。①から⑤は量的分析で、統計処理には SPSS Statistics Version 21 を使用し、因子分析は最尤法、プロマックス回転で行った。⑥と⑦は KJ 法(川喜田, 1967)をもとに、キーワードを抜き出し、カテゴリー化する手法で質的分析を行った。ただし、5 年生の 2022 年度 1 学期と2024年度1学期は、学校行事を最優先にしたため④は未実施となった。以下に各分析方法を説明する。

①英語学習アンケート(事前・事後)

児童の英語学習への関心・意欲と自信の変化を 5・6 年生共通の 10 項目で調べた。「とてもそう思う」「まあまあそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」のリッカート尺度の 4 件法で、「どちらでもない」を設けていないが、児童が 4 つの選択肢を連続体として捉えることができると考え、総計処理では 4・3・2・1 で数値化した(付録 1 参照)。

②Can-Do 自己評価アンケート(事前・事後)

15(あるいは16)項目で、学期毎に既習項目と新学習項目についての話すことへの自信(項目 1~11)と年間共通のアルファベット文字の読み書きへの自信(項目 12~15 あるいは16)を調べた。リッカート尺度による 2 件法で「できる」を 1「できない」を 0 で数値化した(付録 2 参照)。

③聞くことクイズ(事後のみ)(付録 3 参照)

聞くことクイズの所要時間は15~20分で、平均到達度(%)で調べた。

また、児童が学んだことを活かして文脈から情報を聞き取れるかを調べるため以下の4点で工夫をした。

- ①自己紹介として内容がつながっていて、しかも1つの問題に 2 文以上の英文で表現するものもあるため、周辺情報があり文脈の中で解答を考えられる。
- ②ゴールである児童の発表テーマと発表形式を活かしているため、児童は話の流れを推測できる。
- ③教科書の *Let's Listen* と類似の問題形式(線つなぎと内容記述)となっているため児童が解答方法を理解できる。
- ④ALT が目の前で話すので、緊張せずに安心して取り組める可能性が高い。

④個別インタビュー(事後のみ)

個別インタビューの所要時間は、各児童3分程度で、平均到達度(%)で調べた。

また、児童が学んだことを活かして、英語で自分の考えや気持ちを答えることができるかを調べるため、以下の4点で工夫をした。

- ①担任や ALT、JTE で事前に評価基準(表 1 参照)を決め、評価への共通認識を持って取り組んだ。
- ②児童のゴールで発表した内容中心にインタビューをし、指導と評価の一体化を目指した。
- ③児童が見通しをもって取り組めるよう、インタビューの質問ではなく、インタビューのトピックと評価基準を事前に児童に分かりやすく説明した。

④ALTとJTEが主にインタビューを担当し、担任はその場で観察評価を行い、児童は聞き慣れている英語で直接話かけられるため、担任にも児童にも負担感を軽減できる可能性が高い。

表1. 個別インタビュー共通評価基準(ルーブリック)

内容[やり取り] 知識・技能 + 思考・判断・表現	支援なしに意味のある文章*で内容を伝えることができる(3点)			
	少しの支援で意味のある文章で内容を伝えることができる(2点)			
	支援をもらっても文章にはならず、キーワードのみで伝える(1点)			
態度[やり取り] 主体的に学習に 取り組む態度	eye- contact	終始しっかり相手を見て話す(3点)	だいたい相手を見て話す(2点)	殆ど相手を見ずに話す(1点)
	clear voice	はっきりとした声で話す(3点)	だいたい聞こえる声で話す(2点)	聞き取りづらい(1点)

注)*複数形や冠詞の間違いがあっても文脈の中で意味がしっかり伝われば意味のある文章とする。

なお、3者(担任、JTE、ALT)の評価が異なる場合は評価基準を基に話し合い、評価が分かれた場合は最終的に平均値とした。

⑤アルファベットクイズ(事後のみ)(付録4参照)

学期毎に学習した内容をアルファベット文字認識(音・文字・意味の3要素のつながり)に基づく5種類の問題を通して、平均到達度(%)で調べた。

表2. アルファベットクイズ問題の種類

1.	アルファベットの名前読みから文字を選択する問題
2.	アルファベットの音読みから文字を選択する問題
3.	内容関連語の読みから選択式でつづりを答え、読みとつづりから意味を日本語で記入(あるいは選択)する問題
4.	内容関連文の読みとつづりから意味を書く問題
5.	ヘボン式ローマ字で名前を4線に書く問題

⑥児童の自由記述アンケート(事後のみ)

学期末にプロジェクトの振り返りとして、実施した。

⑦担任を含む外国語担当教員の自由記述アンケート(事後のみ)

学期末に授業改善を図る目的で意見を聞いた。

2. 分析結果

2022年度1・2学期、2023年度1・2学期、2024年度1学期の本実践を①～⑦で検証した結果について、5年生、6年生それぞれ分けて以下に述べていく。

5年生**①英語学習アンケート****【5年生：2022年度・1学期】**

4月と7月に実施した。因子分析の結果、①問1から問6の関心・意欲(Cronbach's alpha:0.86)と、②問7から問10の自信(Cronbach's alpha:0.88)の2因子に分れた。2要因分散分析の結果、交互作用に有意差がみられ、単純主効果検定では、①関心・意欲($F(1, 172) = 5.90, p < .05$)、②自信($F(1, 172) = 48.02, p < .01$)とどちらにも有意な差が見られた(付録1, 表3・4, 図4参照)。

表3. 2022年度1学期英語学習アンケート2因子の平均と標準偏差

N=87	4月		7月	
	平均(標準偏差)		平均(標準偏差)	
① 関心・意欲	3.24	(0.54)	3.33	(0.50)
② 自信	3.02	(0.67)	3.30	(0.57)

表4. 2022年度1学期英語学習アンケート2因子の単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F値	P値
① 関心・意欲	0.42	1	0.42	5.90*	0.02
② 自信	3.38	1	3.38	48.02**	0.00

注)* は事前事後の間の有意差(P値)が0.05より小さい($p < .05$)ことを示している。

** は事前事後の間の有意差(P値)が0.01より小さい($p < .01$)ことを示している。

【5年生：2022年度・2学期】

9月と12月に実施した。因子分析の結果、①問1から問6の関心・意欲(Cronbach's alpha:0.81)と、②問7から問10の自信(Cronbach's alpha:0.86)の2因子に分れた。2要因分散分析の結果、交互作用に有意差がみられ、単純主効果検定では、①関心・意欲($F(1, 146) = 7.98, p < .01$)と②自信($F(1, 146) = 25.45, p < .01$)の2因子どちらにも有意な差が見られた(表5, 6参照)。

表5. 2022年度2学期英語学習アンケート2因子の平均と標準偏差

N=87	4月		7月	
	平均(標準偏差)		平均(標準偏差)	
① 関心・意欲	3.21	(0.50)	3.37	(0.52)
② 自信	3.16	(0.61)	3.43	(0.56)

表6. 2022年度2学期英語学習アンケート2因子の単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F値	P値
① 関心・意欲	0.87	1	0.87	7.98**	0.00
② 自信	2.77	1	2.77	25.45**	0.00

注)** は事前事後の間の有意差(P値)が0.01より小さい($p < .01$)ことを示している。

【5年生：2023年度・1学期】

2022年度と同様に4月と7月に実施した。因子分析の結果、①問1から問6の関心・意欲 (Cronbach's alpha:0.87)と、②問7から問10の自信 (Cronbach's alpha:0.87)の2因子に分れた。2要因分散分析の結果、交互作用に有意差があり、単純主効果検定では、①関心・意欲 ($F(1, 134) = 94.38, p < .01$)と②自信 ($F(1, 134) = 310.34, p < .01$)の2因子どちらにも有意な差が見られた(表7, 8参照)。

表7. 2023年度1学期英語学習アンケート2因子の平均と標準偏差

N=68	4月		7月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 関心・意欲	2.86	(0.45)	3.40	(0.45)
② 自信	2.38	(0.51)	3.38	(0.50)

表8. 2023年度1学期英語学習アンケート2因子の単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F値	P値
① 関心・意欲	10.34	1	10.34	94.38**	0.00
② 自信	34.00	1	34.00	310.34**	0.00

注)** は事前事後の間の有意差 (P値) が0.01より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【5年生：2023年度・2学期】

やはり2022年度2学期同様、9月と12月に実施した。因子分析の結果、①問1から問6の関心・意欲 (Cronbach's alpha:0.86)と、②問7から問10の自信 (Cronbach's alpha:0.96)の2因子に分れた。2要因分散分析の結果、交互作用に有意差がみられ、単純主効果検定では、①関心・意欲 ($F(1, 134) = 132.52, p < .01$)と②自信 ($F(1, 134) = 293.08, p < .01$)の2因子どちらにも有意な差が見られた(表9, 10参照)。

表9. 2023年度2学期英語学習アンケート2因子の平均と標準偏差

N=68	4月		7月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 関心・意欲	2.98	(0.39)	3.55	(0.41)
② 自信	2.70	(0.50)	3.55	(0.49)

表10. 2023年度2学期英語学習アンケート2因子の単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F値	P値
① 関心・意欲	11.09	1	11.09	132.52**	0.00
② 自信	24.52	1	24.52	293.08**	0.00

注)** は事前事後の間の有意差 (P値) が0.01より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【5年生：2024年度・1学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトで授業を実施し、2022年度・2023年度と同様の英語学習アンケートを4月と7月に実施した。因子分析の結果、①問 1 から問 6 の関心・意欲 (Cronbach's alpha:0.87) と、②問 7 から問 10 の自信 (Cronbach's alpha:0.90) の2因子に分れた。2要因分散分析の結果、交互作用に有意差がみられ、単純主効果検定では、①関心・意欲 ($F(1, 186) = 12.87, p < .01$) と ②自信 ($F(1, 186) = 149.73, p < .01$) の2因子どちらにも有意な差が見られた(表11・12, 図5参照)。

表11. 2024年度1学期英語学習アンケート2因子の平均と標準偏差

N=94	4月		7月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 関心・意欲	3.20	(0.59)	3.41	(0.58)
② 自信	2.83	(0.75)	3.51	(0.54)

表12. 2024年度1学期英語学習アンケート2因子の単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F値	P値
① 関心・意欲	1.89	1	1.89	12.87**	0.00
② 自信	21.96	1	21.96	149.73**	0.00

注)** は事前事後の間の有意差 (P値) が0.01より小さい ($p < .01$) ことを示している

図4. 2022年度1学期英語学習アンケート

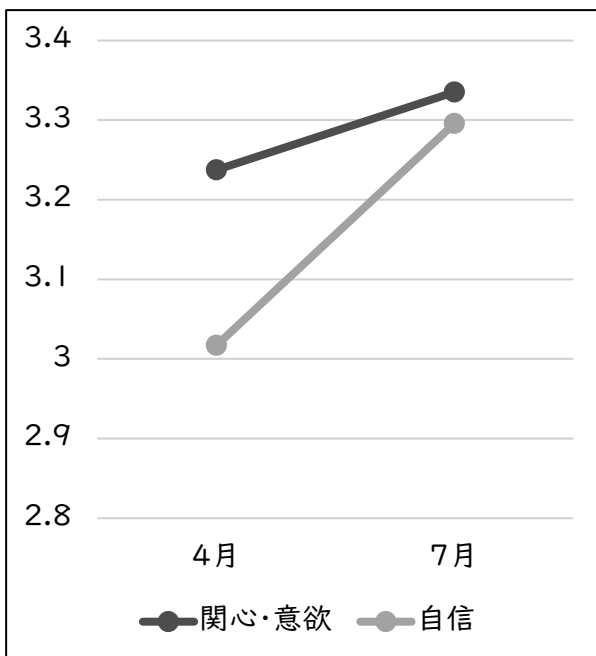
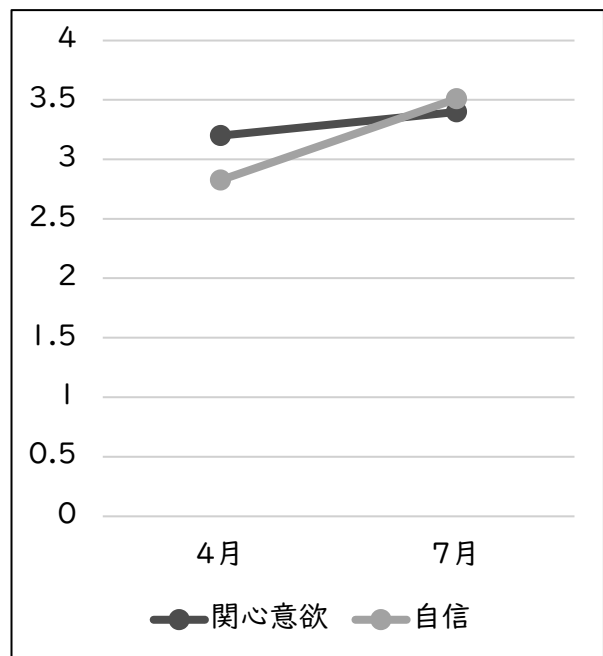


図5. 2024年度1学期英語学習アンケート



5年生の英語学習アンケート2022年1学期から2024年度1学期までの分析結果をまとめると、全ての学期でアンケートの意図通り、「関心・意欲」と「自信」の因子に分かれ、それらどれも有意差が

みられた。具体的に、5年生の2022年度と教科書が改訂版となった2024年度1学期の英語学習アンケートのグラフ(図4, 5)を比較しても、各因子の傾きは異なるが、どちらも4月に比べて7月が高まっていることが分かる。よって、5年生1, 2学期のプロジェクト重視の英語指導は、参加児童の「関心・意欲」「自信」とともに高めたと分析できる。

② Can-Do 自己評価アンケート

【5年生：2022年度・1学期】

英語学習アンケートと同じく、4月と7月に実施した。因子分析の結果3因子にまとまった(項目5, 6, 12は因子負荷量が小さいため削除)。①「既習項目」(項目1, 2, 3, 4, 7):0.75 Cronbach's alpha、②「新学習項目」(項目8, 9, 10, 11):0.73 Cronbach's alpha、③アルファベット文字(項目13, 14, 15):0.74 Cronbach's alpha。2 要因分散分析の結果、交互作用に有意差があり、単純主効果検定では、① $F(1, 258) = 13.42, p < .01$ 、② $F(1, 258) = 252.33, p < .01$ 、③ $F(1, 258) = 6.66, p < .05$ (表13, 14参照)と、どの因子にも有意な差が見られた(図6参照)。

表 13. 2022 年度 1 学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 87	4 月		7 月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 既習項目 (1, 2, 3, 4, 7)	0.82 (0.27)		0.95 (0.29)	
② 新学習項目 (8, 9, 10, 11)	0.24 (0.31)		0.81 (0.23)	
③ アルファベット文字 (13, 14, 15)	0.64 (0.37)		0.73 (0.34)	

表 14. 2022 年度 1 学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
① 既習項目	0.75	1	0.75	13.42**	0.00
② 新学習項目	13.94	1	13.94	252.33**	0.00
③ アルファベット文字	0.37	1	0.37	6.66*	0.01

注) * は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.05 より小さい ($p < .05$) ことを示している。

** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【5年生：2022年度・2学期】

表 15. 2022 年度 2 学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 87	4 月		7 月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 新学習項目 (6, 7, 8, 9, 10, 11)	0.12 (0.26)		0.85 (0.14)	
② 既習項目-1 (1, 3, 12, 14)	0.96 (0.14)		0.98 (0.08)	
③ 既習項目-2 (2, 4, 5, 13, 15)	0.79 (0.27)		0.91 (0.19)	

9月と12月に実施した。15項目で因子分析の結果3因子にまとまった。①「新学習項目」(項目6,

7, 8, 9, 10, 11):0.86 Cronbach's alpha、②「既習項目-1(アルファベット大文字を含む)」(項目 1, 3, 12, 14):0.70 Cronbach's alpha、③「既習項目-2(アルファベット小文字を含む)」(項目 2, 4, 5, 13, 15):0.72 Cronbach's alpha。2 要因分散分析の結果、交互作用に有意差があり、単純主効果検定では、①新学習項目:F(1, 225) = 662.58, $p < .01$ と、③既習項目-2(アルファベット小文字を含む):F(1, 225) = 25.57, $p < .01$ の因子で有意な差が見られた(表 15, 16 参照)。

表 16. 2022 年度 2 学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
① 新学習項目	19.76	1	19.76	662.58**	0.00
② 既習項目-1	0.02	1	0.02	0.50	0.48
③ 既習項目-2	0.46	1	0.46	25.57**	0.00

注) ** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【5 年生: 2023 年度・1 学期】

2022 年度 1 学期と同じアンケートで 4 月と 7 月に実施した。因子分析の結果 3 因子にまとまった(項目 4, 11, 12, 14 は因子負荷量が小さいため削除)。①「新学習項目」(項目 5, 6, 8, 9, 10):0.97 Cronbach's alpha、②「既習項目」(項目 1, 2, 3, 7):0.70 Cronbach's alpha、③アルファベット文字(書くこと)(項目 13, 15):0.68 Cronbach's alpha。単純主効果検定では、① $F(1, 198) = 294.84, p < .01$ 、② $F(1, 198) = 83.66, p < .01$ 、③ $F(1, 198) = 18.61, p < .01$ (表 17, 18 参照)と、どの因子にも有意な差が見られた(図 7 参照)。

表 17. 2023 年度 1 学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 67	4 月		7 月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 新学習項目 (5, 6, 8, 9, 10)	0.11 (0.29)		0.85 (0.19)	
② 既習項目 (1, 2, 3, 7)	0.53 (0.43)		0.93 (0.20)	
③アルファベット文字 (13,15)	0.55 (0.40)		0.74 (0.35)	

表 18. 2023 年度 1 学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
① 新学習項目	18.47	1	18.47	294.84**	0.00
② 既習項目	5.24	1	5.24	83.66**	0.00
③ アルファベット文字	1.17	1	1.17	18.61**	0.00

注) ** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

同じアンケートで実施した 2022 年度と 2023 年度を比べてみると、1 学期の学習内容をどちらの年度もしっかり学び自信をつけていることが分かる(図 6, 7)。さらに、既習内容であっても授業で復習したりプロジェクトのゴールで活用したりした内容(表 14, 18)は、定着につながっていることも明らかである。

図 6. 2022 年度 1 学期 Can-Do 自己評価

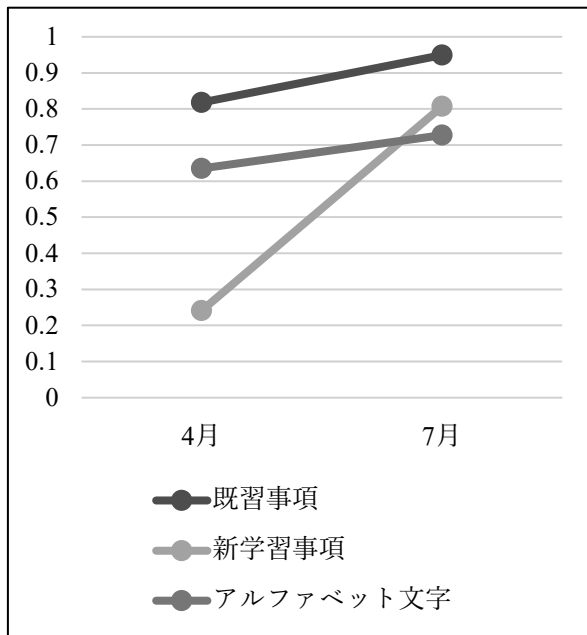
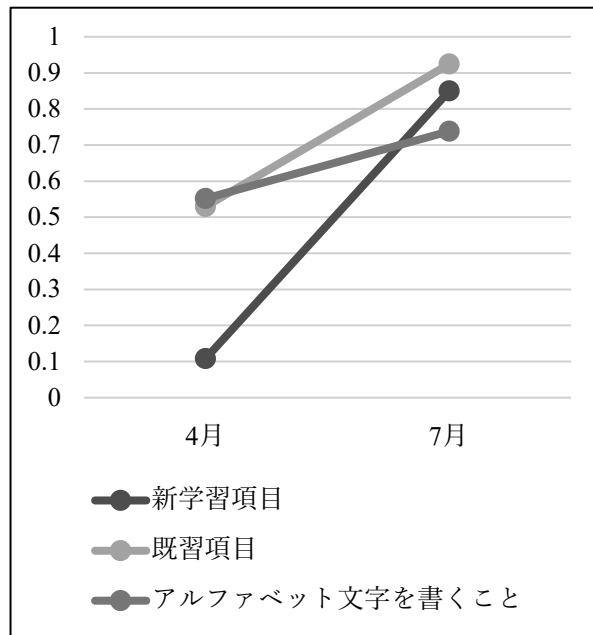


図 7. 2023 年度 1 学期 Can-Do 自己評価



【5年生:2023 年度・2 学期】

2022 年度 2 学期と同じアンケートを、9 月と 12 月に実施した。15 項目で因子分析の結果 3 因子にまとまった(項目 1, 2, 3, 4, 5 は因子負荷量が小さいため削除)。①「新学習項目」(項目 6, 7, 8, 9, 10, 11):0.96 Cronbach's alpha、②「アルファベット小文字」(項目 13, 15):0.69 Cronbach's alpha、③「アルファベット大文字」(項目 12, 14):0.70 Cronbach's alpha。2 要因分散分析の結果、交互作用に有意差があり、単純主効果検定では、新学習項目の① $F(1, 204) = 895.55, p < .01$ (表 19, 20 参照)に有意な差が見られた。

表 19. 2023 年度 2 学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 67	4 月	7 月
	平均 (標準偏差)	平均 (標準偏差)
① 新学習項目 (6, 7, 8, 9, 10)	0.09 (0.26)	0.91 (0.19)
② アルファベット小文字 (12, 14)	0.78 (0.31)	0.82 (0.31)
③ アルファベット大文字 (11, 13)	0.97 (0.17)	1.00 (0.00)

表 20. 2023 年度 2 学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
① 新学習項目	23.21	1	23.21	895.85**	0.00
② アルファベット小文字	0.04	1	0.04	1.52	0.22
③ アルファベット大文字	0.03	1	0.03	1.12	0.29

注) ** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【5年生：2024 年度・1 学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトを実施し、2022年度・2023年度1学期と同様の Can-Do 自己評価アンケートを4月と7月に実施した。15項目で因子分析の結果4因子にまとまった(項目 2, 10は因子負荷量が小さいため削除)。①「アルファベット文字」(項目 12, 13, 14, 15):0.80 Cronbach's alpha、②「新学習項目」(項目5, 8, 9, 11):0.69 Cronbach's alpha、③「発表で活用した既習項目」(項目1, 4, 6):0.70 Cronbach's alpha、④「7曜日」(項目3, 7):0.78 Cronbach's alpha。2 要因分散分析の結果、交互作用に有意差があり、単純主効果検定では、①「アルファベット文字」: $F(1, 376) = 15.23, p < .01$, ②「新学習項目」: $F(1, 376) = 231.10, p < .01$, ③「発表で活用した既習項目」: $F(1, 376) = 27.08, p < .01$, ④「7曜日」: $F(1, 376) = 28.53, p < .01$ (表21, 22 参照)の4因子すべてに有意な差が見られた。このことから、2024年度版教科書を活用した異なる5年生でも、同様の効果が期待できることが分かる。

表21. 2024 年度 1 学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 95	4 月		7 月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① アルファベット文字 (12, 13, 14, 15)	0.66	(0.35)	0.81	(0.24)
② 新学習項目 (5, 8, 9, 11)	0.22	(0.35)	0.80	(0.23)
③ 発表で活用した既習項目 (1, 4, 6)	0.78	(0.50)	0.96	(0.10)
④ 7曜日 (3, 7)	0.74	(0.40)	0.94	(0.22)

表 22. 2024 年度 1 学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
① アルファベット文字	1.07	1	1.07	15.23**	0.00
② 新学習項目	16.21	1	16.21	231.10**	0.00
③ 発表で活用した既習項目	1.90	1	1.90	27.08**	0.00
④ 7曜日	2.00	1	2.00	28.53**	0.00

注) ** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

③聞くことクイズ

【5年生：2022 年度・1 学期】

表 23. 2022 年度 1 学期聞くことクイズ分析

N=88	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	22.5 (24 点満点)	71* / 88 人
平均到達度	93.8%	83%

注) *内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に 3 文合計 9 文を目安とする。

5年生児童には初めての聞くことクイズであったが、分析結果から、線で結ぶ問題の平均到達度は高く(表 23参照)、正確に聞き取っていることが分かる。ただし、内容記述問題では、時間内に聞き取った内容を日本語にできる力がまだ十分でない児童も見られた。

【5年生：2022 年度・2 学期】

1 学期同様、分析結果から線で結ぶ問題の平均到達度は高く(表 24 参照)、正確に聞き取っていることが分かる。また、内容記述問題の平均到達度から、時間内に日本語での記述する力も徐々に上がってきていることが分かる。

表 24. 2022 年度 2 学期聞くことクイズ分析

N=88	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	22.8(24 点満点)	75* / 88 人
平均到達度	95.2%	85%

注) *内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に 3 文合計 9 文を目安とする。

【5年生：2023 年度・1 学期】

2022 年度 1・2 学期同様、線で結ぶ問題の平均到達度は非常に高く、正確に聞き取っていることが分かる。内容記述問題でも平均到達度はかなり伸びていることから、日本語で記述する力も 2022 年度児童よりついていることが分かる(表 25 参照)。

表 25. 2023 年度 1 学期聞くことクイズ分析

N=71	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	23.5(24 点満点)	63* / 71 人
平均到達度	97.9%	89.3%

注) *内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に 3 文合計 9 文を目安とする。

【5 年生：2023 年度・2 学期】

2022 年度 2 学期より 1 単元少なく 3 単元を学習したのでクイズの問題も 18 点満点とした。1 学期同様、線で結ぶ問題の平均到達度は非常に高く、正確に聞き取っていることが分かる。内容記述問題も 1 学期より平均到達度はさらに向上している。特に内容記述では、解答用紙の絵や文字を見返ただけではわからない文脈から聞き取った表現を書いている児童が 68 人中 63 人(92.0%)もいた。このように、多くの児童が文脈の中で内容を理解しようとしていることが分かる(表 26 参照)。

表 26. 2023 年度 2 学期聞くことクイズ分析

N=68	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	17.6(18 点満点)	66* / 68 人
平均到達度	97.6%	97.1%

注) *内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に 3 文合計 9 文を目安とする。

【5年生：2024年度・1学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトを実施し、2022年度・2023年度の1学期と同じ形式の聞くことクイズを7月に実施した。2022年度・2023年度1学期同様、線で結ぶ問題の平均到達度は非常に高く、正確に聞き取っていることが分かる。内容記述問題でも、ほとんどの児童がこのようなクイズを初めて受けたにもかかわらず、平均到達度は非常に伸びていることから、日本語での内容理解もしっかりできていることが分かる(表27参照)。

表 27. 2024年度1学期聞くことクイズ分析

N=100	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	23.0(24点満点)	97* / 100人
平均到達度	95.8%	97.0%

注)*内容に適した文章の数に個人差が大きいいため、各話し手に3文合計9文を目安とする。

④個別インタビュー

【5年生：2022年度・2学期】

参加児童は88人。1学期実施できなかったため、児童にとって初めての個別インタビューとなった。質問は、あいさつの後、ウォームアップとして名前を尋ね(What's your name?)、その後評価対象として、行きたい場所(Where do you want to go?)(Lesson 6)とできる事(What can you do?)(Lesson 5)を尋ねた。かなり緊張した様子であったが、分析の結果、88人中内容の平均到達度は85.9%、態度(eye-contact, clear voice)の平均到達度は89.8%とどちらもかなり高かった。

【5年生：2023年度・1学期】

参加児童は71人。インタビューでは、あいさつの後評価対象として、名前を尋ね(What's your name?)(Lesson 1)、その後誕生日(When is your birthday?)(Lesson 2)、好きな教科(What subject do you like?)(Lesson 3)を尋ねた。5年生になるまで個別インタビューの経験がないため、最初は緊張している児童も多かったが、分析の結果、71人中内容の平均到達度は89%、態度(eye-contact, clear voice)の平均到達度は92.3%とどちらも高い数値となった。

【5年生：2023年度・2学期】

参加児童は68人。質問項目は、2022年度2学期と同じであるが、評価対象は3項目。名前(What's your name?)を尋ね、その後行きたい場所(Where do you want to go?)(Lesson 6)とできる事(What can you do?)(Lesson 5)を尋ねた。分析の結果、68人中内容の平均到達度は91%、態度(eye-contact, clear voice)の平均到達度は96%とどちらも1学期よりさらに高い数値となった。

⑤アルファベットクイズ

【5年生：2022年度・1学期】

参加児童は88人。問題は3種類で、大問は4つ(問題1から問題4)であった。平均到達度はどの問題も高く、多くの児童が音と文字と意味のつながりを理解している。ただし、自分の名前をローマ字で4線に書く問題は、まだアルファベット文字を書くことに十分慣れていないことと、訓令式ローマ字とヘボン式ローマ字が混同している児童が見られたため、少し下がっている(表28参照)。2学期以降、指導者間で共通認識を持ちこの課題に取り組んだ。

【5年生：2023年度・1学期】

参加児童は71人。2022年度1学期と同じ問題で、平均到達度は2022年同様に高いが、やはり自分の名前をローマ字で書く問題の平均到達度が下がっている(表28参照)。2022年度の指導事例を基に、2学期以降もアルファベット文字の音とともに書く指導にも時間を割いた。

表28. 1学期のアルファベットクイズ文字認識比較(平均点と平均到達度%)

問題(点)	問題1(6)	問題2(5)	問題3(8)	問題4(4)	合計
内容	アルファベットの名前読み	曜日の音と文字と意味	教科の音と文字と意味(選択式)	名前をローマ字で4線に書く	23点
2022年度 (平均到達度)	5.9点 (98.3%)	4.8点 (96.0%)	7.9点 (98.8%)	3.4点 (85.0%)	22.0点 (95.7%)
2023年度 (平均到達度)	5.8点 (96.2%)	4.8点 (96.8%)	8.0点 (100%)	3.3点 (83.3%)	21.9点 (95.4%)

【5年生：2022年度・2学期】

参加児童は88人。1学期より問題の種類を1つ増やし、「アルファベットの音読み」の学習状況も調べた。2学期以降アルファベットジングルを取り入れているが、まだ十分ではなく平均到達度も他の問題と比べて低い。しかし、全体的に1学期同様平均到達度は高く、ローマ字で自分の名前を書く問題も、かなりできるようになっている(表29参照)。

【5年生：2023年度・2学期】

表29. 2学期のアルファベットクイズ文字認識比較(平均点と平均到達度%)

問題(点)	問題1(6)	問題2(3)	問題3(10)	問題4(8)	問題5(4)	合計
内容	アルファベット名前読み	アルファベット音読み	動作動詞の音と文字と意味	日課の音と文字と意味(選択)	ローマ字で名前を書く	31点
2022年度 (平均到達度)	5.6点 (96%)	2.6点 (87.2%)	9.6点 (95.6%)	7.8 (98.0%)	3.8点 (95.4%)	29.4点 (95.0%)
2023年度 (平均到達度)	5.9点 (97.8%)	2.9点 (95.0%)	9.8点 (97.5%)	7.9 (99.0%)	3.8点 (95.0%)	30.2点 (97.4%)

参加児童は68人。2022年度2学期と同じ問題で行った。昨年度の分析結果をもとに2023年度はア

ルファベットジングルを 1 学期から導入した結果、アルファベット音読みの問題は十分とは言えないが、かなり平均到達度が高まった。また、ローマ字で自分の名前を書くことも、1 学期に比べかなり得点が伸びていることから、各児童が自分の名前を正しく書く力をつけてきていることが分かる(表 29 参照)。

【5年生：2022年度と2023年度・1学期 児童のアルファベットクイズの感想】

児童が日頃様々な教科で経験している業者テストと異なる要素が多いため、初めてアルファベットクイズを経験した 5 年生 1 学期の児童の感想を 2022 年度と 2023 年度で比較分析し、児童のクイズに対する心理的傾向を探った(表 30 参照)。

表 30. 児童のアルファベットクイズの感想*

	2022 年度	2023 年度
肯定的	(できて)楽しかった、おもしろかった(27**) 簡単だった(12) 英語を覚えていた、できた(8) 自分の成長(理解度)が分かった(7) わかって(できて)うれしい(7) 先生の発音が良くわかりやすかった(5)	楽しかった、おもしろかった(14) 簡単だった(12) 英語を覚えていた、できた(7) 自分の成長(理解度)が分かった(5) わかって(できて)うれしい(2) 先生の発音が良くわかりやすかった(2)
中間的	アルファベットを練習する良い機会(5) 分からないところもあったけどできた(3) もっとしっかり復習したい(3) 書く問題があって良かった(3)	少し難しかったけど楽しかった(5) 書く問題があって良かった(1) アルファベットを練習する良い機会(1)
否定的	難しかった(7) 区別が難しい文字があった(2) 自分の名前を書くのが難しかった(2)	難しかった(6) 区別が難しい文字があった(4) 自分の名前を書くのが難しかった(4)

注) *感想は任意のためすべての児童が書いているわけではない。**カッコ内の数字は延べ人数。

どちらにも肯定的な感想がかなり多かった。中でも 2022 年度、2023 年度ともに「(できて)楽しかった、おもしろかった」「英語を覚えていた、できた」「自分の成長(理解度)が分かった」「わかって(できて)うれしい」と満足感や達成感を表現しているものが多い。また、JTE が文字を読んだため、「先生の発音がわかりやすかった」と児童が安心して取り組める環境を提供できたことも分かる。これらのコメントから「指導と評価の一体化」に関する肯定的評価ができる。一方、「難しかった」「区別が難しい文字があった」「自分の名前を書くのが難しかった」と否定的なコメントもあったことから、それぞれの原因を指導者間で話し合い、さらなる文字指導の改善に役立てた。

【5年生：2024年度・1学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトを実施し、2022年度・2023年度の1学期と同じアルファベットクイズを7月に実施した。参加児童は100人。2022年度・2023年度 1 学期と比較すると、平均到達度の傾向は、ほぼ同じくどの問題も高いが、やは

り自分の名前をローマ字で書く問題が、少し下がっている(表31参照)。2022・2023年度の指導事例を基に、2学期以降もアルファベット文字の音とともに書く指導にも時間を割いた。

表31. 1学期のアルファベットクイズ文字認識比較(平均点と平均到達度%)

問題(点)	問題 1 (6)	問題 2 (5)	問題 3 (8)	問題 4 (4)	合計
内容	アルファベットの 名前読み	曜日の音と 文字と意味	教科の音と文字と 意味(選択式)	名前をローマ字 で4線に書く	23点
2022年度 (平均到達度)	5.9点 (98.3%)	4.8点 (96.0%)	7.9点 (98.8%)	3.4点 (85.0%)	22.0点 (95.7%)
2023年度 (平均到達度)	5.8点 (96.2%)	4.8点 (96.8%)	8点 (100%)	3.3点 (83.3%)	21.9点 (95.4%)
2024年度 (平均到達度)	5.7点 (95.2%)	4.9点 (97.6%)	7.9点 (99.1%)	3.3点 (83.3%)	21.9点 (95.0%)

これらの異なる5年生児童への実践の分析結果から、プロジェクト重視の英語指導は、アルファベット文字認識(音・文字・意味の3要素のつながり)を高める効果が期待できることが分かる。

⑥児童の自由記述アンケート

【5年生：2022年度・1学期】

児童のプロジェクトのゴールとなる留学生との交流会の発表で準備したことが伝えられたか尋ね、その理由を児童の記述から探った。85人中約89.4%(とてもそう思う:52.9%、まあまあそう思う:36.5%)が「伝えられた」と肯定的回答で、その理由は主に3点に分析できた。最も多いのが自分の当日の発表の様子、次にそれまでの練習の成果と留学生の反応である。ただし、否定的な回答も約10.6%あったので、さらに指導者間で個々の児童の気づいた点を共有し、授業に活かすよう心掛けた。

【5年生：2023年度・1学期】

2022年度同様、児童のプロジェクトのゴールとなる留学生との交流会の発表で準備したことが伝えられたか尋ね、その理由を児童の記述から探った。71人中約85.7%(とてもそう思う:39.0%、まあまあそう思う:46.7%)が「伝えられた」と肯定的回答で、その理由は2022年度と同じく、主に3点に分析できた。最も多いのが自分の当日の発表の様子、次に留学生の反応、最後にそれまでの練習の成果である。やはり、否定的な回答も約15.5%あったので、個々の児童が達成感を持てる指導を心掛ける必要性が改めて示唆された。

【5年生：2024年度・1学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトのゴールとなる留学生との交流会の発表で準備したことが伝えられたか尋ね、その理由を児童の記述から探った。95人中約94.8%(とてもそう思う:49.5%、まあまあそう思う:45.3%)が「伝えられた」と肯定

的な回答で、その理由は 2022 年度・2023年度と同じく、主に 3 点に分析できた。最も多いのが自分の当日の発表の様子、次にそれまでの練習の成果、最後に留学生の反応だった。否定的な回答も約5.2%あり、個々の児童に適した支援を心掛けることが必要だが、過去2年間の1学期と比較すると、否定的な回答は最も少なく、肯定的にとらえている児童が多いことが分かる。

異なる3年間の5年生児童のプロジェクトのゴールの振り返りとなる自由記述アンケート分析から、多くの児童が満足感や達成感を得ていることが分かる。

⑦担任を含む外国語担当教員の自由記述アンケート

【5年生：2022年度・1学期】

A. プロジェクト重視の英語指導

・留学生との交流会で学習した表現を実際を使ってコミュニケーションが取れるという経験をすることで、子どもたちの自信につながった。

B. 学期毎のアンケートとクイズ

・1学期で指導したことが網羅されているので、評価に反映できる。

【5年生：2023年度・1学期】

A. プロジェクト重視の英語指導

・ゴールとなる留学生との交流会は、児童が本物のコミュニケーションをとる機会となり、児童が目的意識を持って学習に向かうことでより高い学習効果が得られる。

B. 学期毎のアンケートとクイズ

・学期で学習した内容に即したもので指導の改善に役立つ。

【5年生：2023年度・2学期】

A. プロジェクト重視の英語指導

・ゴールが明確に設定させているので、そこに向けて指導がしやすく、活動が進めやすい。

B. 学期毎のアンケートとクイズ

・学期毎に児童の成長の様子(変容)が見とれるので、とても良い。

【5年生：2024年度・1学期】

A. プロジェクト重視の英語指導

・ゴールが明確に設定されていて、それに向かって子どもたちが自分で考え工夫を凝らして繰り返し練習してきた表現を、ゴールとなる交流会で実際に外国の方に伝える経験は、とても貴重な機会だ。「英語が好きになった!」「いつか海外に行ってみたい!」という児童の素直な感想がそれを裏付けている。

B. 学期毎のアンケートとクイズ

・授業だけではわからない児童の成長を様々な角度から知ることができるので、評価の助けとなる。

6年生

①英語学習アンケート

【6年生：2022・1学期】

4月と7月に実施した(付録1参照)。因子分析の結果、①問1から問6の関心・意欲(Cronbach's alpha:0.86)と②問7から問10の自信(Cronbach's alpha:0.83)の2因子に分れた。2要因分散分析の結果、主効果に有意差がみられ、単純主効果検定では、①関心・意欲($F(1, 142) = 4.83, p < 0.05$)と②自信($F(1, 142) = 21.80, p < .01$)の2因子どちらにも有意な差が見られた(表32, 表33, 図8参照)。

表 32. 1 学期英語学習アンケート2因子の平均と標準偏差

N = 72	4月		7月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 関心・意欲	3.39	(0.54)	3.48	(0.53)
② 自信	3.14	(0.61)	3.32	(0.53)

表 33. 1 学期英語学習アンケート2因子の単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F値	P値
① 関心・意欲	0.25	1	0.25	4.83*	0.03
② 自信	1.13	1	1.13	21.80**	0.00

注)* は事前事後の間の有意差 (P値) が0.05より小さい ($p < .05$) ことを示している。

** は事前事後の間の有意差 (P値) が0.01より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【6年生：2022年・2学期】

9月と12月に実施した。参加児童は74人で、①問1から問6の関心・意欲(Cronbach's alpha:0.90)と②問7から問10の自信(Cronbach's alpha:0.89)の2要因分散分析の結果、1学期同様主効果に有意差がみられ、単純主効果検定では、①関心・意欲($F(1, 136) = 6.69, p < .05$)と②自信($F(1, 136) = 12.40, p < .01$)の2因子どちらにも有意な差が見られたことから、関心・意欲、自信ともに高まっていると読み取れる。

【6年生：2022年度3学期】

英語学習アンケートは質問項目が共通のため1年間の変化を調べることができる。そのため、本来の実施計画にはなかったが、3学期も実施した。ただし、2学期の事後のアンケート実施から2週間ほどしかたっていないため、児童の負担を考え事前アンケートは行わず、3月に事後アンケートのみ実施した。1年間の変化を調べると、関心・意欲、自信ともに平均値が高くなっていることが分かる(表34参照)。さらに、単純主効果分析では、1学期4月と3学期3月の間の自信の変化に有意な差が見られた($F(1, 144) = 25.59, p < .01$)。このことから、1年間かけて児童の英語学習への自信も高まっていると考えられる。

表 34. 英語学習アンケート 1 年間の平均値変化

2 因子 \ 学期	1 学期		2 学期		3 学期
	4 月	7 月	9 月	12 月	3 月
関心・意欲	3.39	3.48	3.42	3.54	3.63
自信	3.14	3.32	3.28	3.47	3.55

【6年生：2023・1 学期】

2022 年度 1 学期と同様、4 月と 7 月に実施した。因子分析の結果、①問 1 から問 6 の関心・意欲 (Cronbach's alpha:0.87) と②問 7 から問 10 の自信 (Cronbach's alpha:0.90) の 2 因子に分れた (付録 1, 表 35 参照)。2 要因分散分析の結果主効果に有意差がみられ、単純主効果検定では①関心・意欲 ($F(1, 164) = 30.99, p < .01$) と②自信 ($F(1, 164) = 67.90, p < .01$) の 2 因子どちらにも有意な差が見られた (表 36 参照)。

表 35. 1 学期英語学習アンケート 2 因子の平均と標準偏差

N = 86	4 月		7 月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 関心・意欲	3.04	(0.53)	3.35	(0.60)
② 自信	2.93	(0.59)	3.38	(0.66)

表 36. 1 学期英語学習アンケート 2 因子の単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
① 関心・意欲	3.87	1	3.87	30.99**	0.00
② 自信	8.47	1	8.47	67.90**	0.00

注)** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【6年生：2023年・2学期】

2022 年度 2 学期同様、9 月と 12 月に実施した。参加児童は 83 人で、①問 1 から問 6 の関心・意欲 (Cronbach's alpha:0.92) と②問 7 から問 10 の自信 (Cronbach's alpha:0.96) の 2 要因分散分析の結果、交互作用に有意差がみられた (表 37 参照)。単純主効果検定では、①関心・意欲 ($F(1, 156) = 116.91, p < .01$) と②自信 ($F(1, 156) = 221.31, p < .01$) の 2 因子どちらにも有意な差が見られたことから、1 学期に引き続き 2023 年度 6 年生児童でも、関心・意欲、自信ともに高まっていると読み取れる (表 38 参照)。

表 37. 2 学期英語学習アンケート 2 因子の平均と標準偏差

N = 83	4 月		7 月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 関心・意欲	2.81	(0.50)	3.45	(0.53)
② 自信	2.69	(0.61)	3.56	(0.57)

表 38. 2学期英語学習アンケート 2 因子の単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
① 関心・意欲	16.03	1	16.03	116.91**	0.00
② 自信	30.35	1	30.35	221.31**	0.00

注)** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【6年生: 2024・1 学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトで授業を実施し、2022年度・2023年度と同様の英語学習アンケートを4月と7月に実施した。因子分析の結果、①問 1 から問 6 の関心・意欲 (Cronbach's alpha:0.90)と②問 7 から問 10 の自信 (Cronbach's alpha:0.84)の 2 因子に分れた (表 39 参照)。2 要因分散分析の結果交互作用に有意差がみられ、単純主効果検定では①関心・意欲 ($F(1, 138) = 45.59, p < .01$)と②自信 ($F(1, 138) = 71.00, p < .01$)の 2 因子どちらにも有意な差が見られた (表 40, 図9参照)。

表 39. 1 学期英語学習アンケート 2 因子の平均と標準偏差

N = 69	4 月		7 月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 関心・意欲	3.13	(0.51)	3.45	(0.55)
② 自信	2.92	(0.43)	3.31	(0.51)

表 40. 1 学期英語学習アンケート 2 因子の単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
① 関心・意欲	3.45	1	3.45	45.59**	0.00
② 自信	5.38	1	5.38	71.00**	0.00

注)** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

図8. 2022年度1学期英語学習アンケート

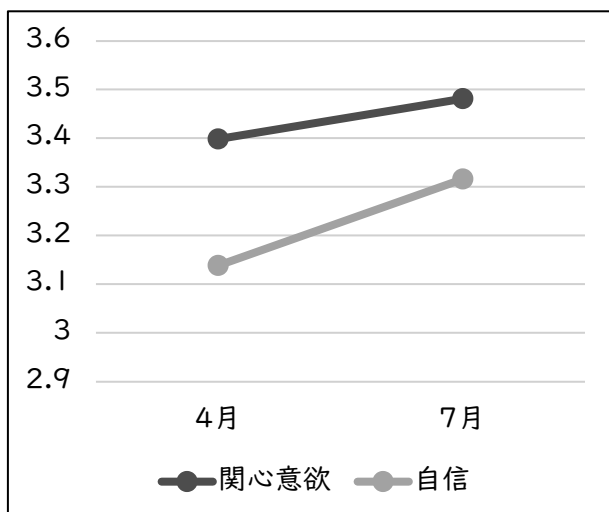
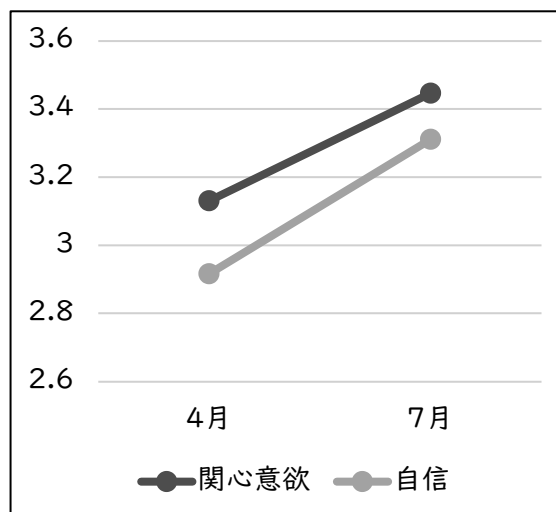


図9. 2024年度1学期英語学習アンケート



さらに、2022年度と2024年度の1学期のグラフ(図 8, 9 参照)を比べても、どちらの6年生も「関心・意欲」「自信」ともに伸びていることから、プロジェクト重視の英語指導の効果が期待できることが分かる。

②Can-Do 自己評価アンケート

【6年生：2022年度・1学期】

4月と7月に実施した(付録2参照)。16項目中、因子分析の結果4因子にまとまった(項目12は因子負荷量が小さいため削除)。**①「既習項目」**(項目1, 2, 6, 14):0.73 Cronbach's alpha、**②「既習項目+授業で復習」**(項目3, 13, 15, 16):0.71 Cronbach's alpha、**③既習項目+発表で使用**(項目4, 5):0.74 Cronbach's alpha、**④新学習項目**(項目7, 8, 9, 10, 11):0.68 Cronbach's alpha。2要因分散分析の結果交互作用があり、単純主効果検定では**①** $F(1, 280) = 4.18, p < .05$ 、**②** $F(1, 280) = 6.70, p < .05$ 、**③** $F(1, 280) = 6.02, p < .05$ 、**④** $F(1, 280) = 549.43, p < .01$ (表41, 42参照)とどの因子にも有意な差が見られた。

表 41. 1学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 72	4月	7月
	平均 (標準偏差)	平均 (標準偏差)
① 既習項目	0.91 (0.21)	0.96 (0.09)
② 既習項目+授業で復習	0.86 (0.25)	0.92 (0.16)
③ 既習項目+発表で使用	0.91 (0.26)	0.97 (0.14)
④ 新学習項目	0.22 (0.23)	0.82 (0.22)

表 42. 1学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
① 既習項目	0.10	1	0.10	4.18*	0.04
② 既習項目+授業で復習	0.16	1	0.16	6.70*	0.01
③ 既習項目+発表で使用	0.14	1	0.14	6.02*	0.02
④ 新学習項目	13.02	1	13.02	549.43**	0.00

注) * は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.05 より小さい ($p < .05$) ことを示している。

** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【6年生：2022年度・2学期】

9月と12月に実施した。16項目中(項目4, 5は因子負荷量が小さいため削除)因子分析で、**①「新学習項目」**(6項目):0.94 Cronbach's alpha、**②「既習項目(アルファベット小文字を含む)」**(6項目):0.76 Cronbach's alpha、**③既習項目(アルファベット大文字)**(2項目):0.69 Cronbach's alpha にまとまった。2要因分散分析の結果交互作用があり、単純主効果検定の結果は新学習項目に有意な差が見られた($F(1, 204) = 593.07, p < .01$) (表43, 44参照)

表 43. 2 学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 74	4 月	7 月
	平均 (標準偏差)	平均 (標準偏差)
①新学習項目	0.21 (0.36)	0.94 (0.14)
②既習項目 (アルファベット小文字含む)	0.91 (0.20)	0.94 (0.13)
③既習項目 (アルファベット大文字含む)	0.96 (0.17)	0.97 (0.16)

表 44. 2 学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
①新学習項目	18.36	1	18.36	593.07**	0.00
②既習項目 (小文字含)	0.02	1	0.02	0.76	0.38
③既習項目 (大文字含)	0.00	1	0.00	0.05	0.81

注) ** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

9 月の時点では、③のアルファベット大文字を含む既習項目が最も評価が高く、次に②のアルファベット小文字を含む既習項目だったが、12 月の時点では、①の新学習項目が当然のことながら、②と③の 1 学期の既習項目と同じ程度にまで伸びている。(図 10 参照)

【6年生：2022 年度・3 学期】

図 10. 2 学期 Can-Do 自己評価アンケート

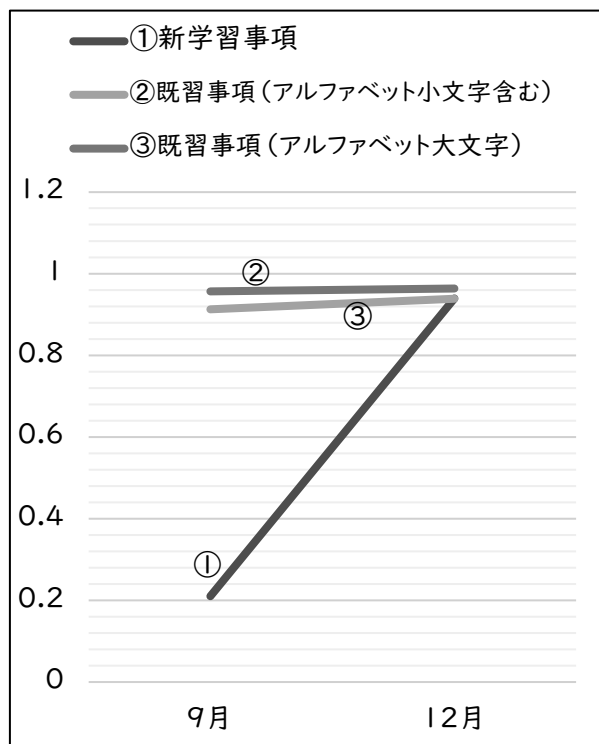
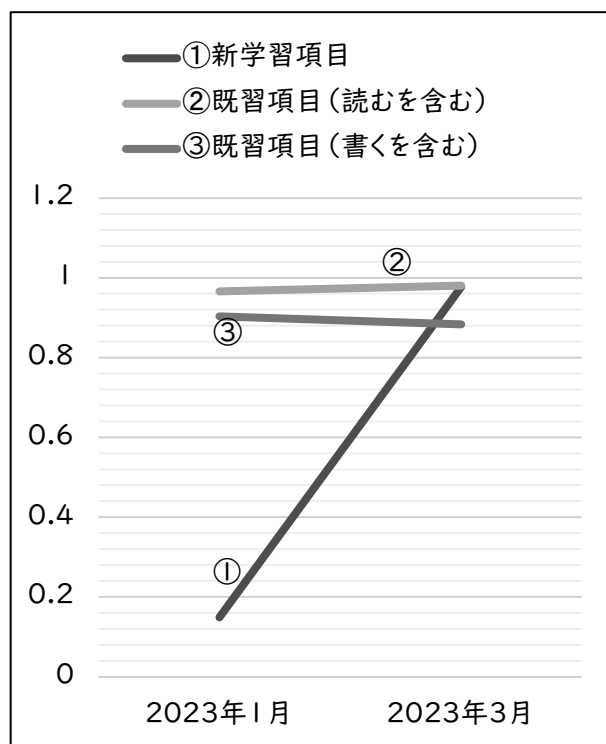


図 11. 3 学期 Can-Do 自己評価アンケート



本来の実施計画にはなかったが、1, 2 学期と学習を積み上げてきた 3 学期の状況を調べるため、1 月

と3月に実施した。16項目中(3項目は因子負荷量が小さいため削除)因子分析で、①「新学習項目」(6項目):0.85 Cronbach's alpha、②「読む活動を含む既習項目」(4項目):0.75 Cronbach's alpha、③「書く活動を含む既習項目」(3項目):0.75 Cronbach's alphaとなった。2要因分散分析の結果交互作用があり、単純主効果検定で、やはり①の新学習項目に有意な差が見られた($F(1, 195) = 978.26, p < .01$)。ただし、③の書く活動を含む既習項目は、書く活動が増えた学期末にやや下がっている(図11参照)。このことから、6年生3学期の書く活動は中学校の外国語学習への橋渡しとして大切であるが、児童の様子を丁寧に見取りながら指導をしていく必要があることが分かる。

【6年生：2023年度・1学期】

2022年度1学期と同じアンケート(付録2参照)で、4月と7月に実施した。16項目中(項目3, 12, 15は因子負荷量が小さいため削除)因子分析で、①「新学習項目」(6項目):0.93 Cronbach's alpha、②「既習項目」(5項目):0.82 Cronbach's alpha、③「既習項目+発表で使用」(2項目):0.71 Cronbach's alphaにまとまった。2要因分散分析の結果交互作用があり、単純主効果検定の結果では、①「新学習項目」($F(1, 252) = 557.41, p < .01$)と③「既習項目+発表で使用」($F(1, 252) = 10.61, p < .01$)に有意な差が見られた(表45, 46, 図12参照)。

表 45. 1学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 86	4月	7月
	平均 (標準偏差)	平均 (標準偏差)
① 新学習項目	0.16 (0.31)	0.84 (0.26)
② 既習項目	0.93 (0.16)	0.95 (0.15)
③既習項目+発表で使用	0.87 (0.29)	0.97 (0.19)

表 46. 1学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F値	P値
① 新学習項目	19.79	1	19.79	557.41**	0.01
②既習項目	0.01	1	0.01	0.17	0.69
③既習項目+発表で使用	0.38	1	0.38	10.61**	0.01

注) ** は事前事後の間の有意差 (P値) が0.01より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【6年生：2023年度・2学期】

2022年度2学期と同じアンケートで、9月と12月に実施した。16項目中(項目3, 8, 12は因子負荷量が小さいため削除)因子分析で、①「新学習項目」(5項目):0.92 Cronbach's alpha、②「既習項目+授業で復習」(3項目):0.72 Cronbach's alpha、③「既習項目」(3項目):0.88 Cronbach's alpha、④「アルファベット文字」2項目:0.68 Cronbach's alphaにまとまった。2要因分散分析の結果交互作用があり、単純主効果検定の結果では、①「新学習項目」($F(1, 316) = 361.69, p < .01$)に有意な差が見られた。(表47, 48参照)

表 47. 2 学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 83	4 月		7 月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
①新学習項目	0.15	(0.31)	0.82	(0.25)
②既習項目+授業で復習	0.92	(0.21)	0.96	(0.11)
③既習項目	0.53	(0.47)	0.48	(0.48)
④アルファベット文字	0.90	(0.26)	0.93	(0.21)

表 48. 2 学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
①新学習項目	17.76	1	17.96	361.69**	0.00
②既習項目+授業で復習	0.07	1	0.07	1.40	0.23
③既習項目	0.13	1	0.13	2.55	0.11
④アルファベット文字	0.04	1	0.04	0.79	0.38

注) ** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

【6年生：2024年度・1 学期】

表 49. 1 学期 Can-Do 自己評価アンケートの平均と標準偏差

N = 69	4 月		7 月	
	平均 (標準偏差)		平均 (標準偏差)	
① 新学習項目	0.05	(0.21)	0.93	(0.24)
② アルファベット読み中心	0.86	(0.56)	0.93	(0.16)
③ 既習項目+授業で復習	0.88	(0.18)	0.99	(0.10)
④ アルファベット書き中心	0.88	(0.18)	0.99	(0.09)

表 50. 1 学期 Can-Do 自己評価アンケートの単純主効果分析

因子	平方和	自由度	平均平方和	F 値	P 値
①新学習項目	26.47	1	24.47	466.21**	0.01
②アルファベット読み中心	0.16	1	0.16	2.82	0.09
③既習項目+授業で復習	0.26	1	0.26	4.66*	0.03
④ アルファベット書き中心	0.36	1	0.36	6.35*	0.01

注) * は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.05 より小さい ($p < .05$) ことを示している。

** は事前事後の間の有意差 (P 値) が 0.01 より小さい ($p < .01$) ことを示している。

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトを実施し、2022年度・2023年度1学期と同様の Can-Do 自己評価アンケートを4月と7月に実施した。16

項目中(項目12は全員ができると回答, 項目2, 4, 9, 10, 11は因子負荷量が小さいため削除) 因子分析で、①「新学習項目」(2項目):0.92 Cronbach's alpha、②「アルファベット読み中心」(3項目):0.70 Cronbach's alpha、③「既習項目+授業で復習」(2項目):0.65 Cronbach's alpha、④「アルファベット書き中心」(3項目):0.56 Cronbach's alpha にまとまった。2要因分散分析の結果交互作用があり、単純主効果検定の結果では、①「新学習項目」($F(1, 272) = 466.21, p < .01$)と③「既習項目+授業で復習」($F(1, 272) = 4.66, p < .05$)、④「アルファベット書き中心」($F(1, 272) = 6.35, p < .05$)に有意な差が見られた(付録2, 表49, 50, 図13参照)。

さらに、2023年度と2024年度の1学期を比べる(図12, 13参照)と、2024年度版教科書でも、新学習項目だけでなく、授業で復習したり、ゴールで活用したりした内容の自信が高まっているが分かる。

図12. 2023年度1学期

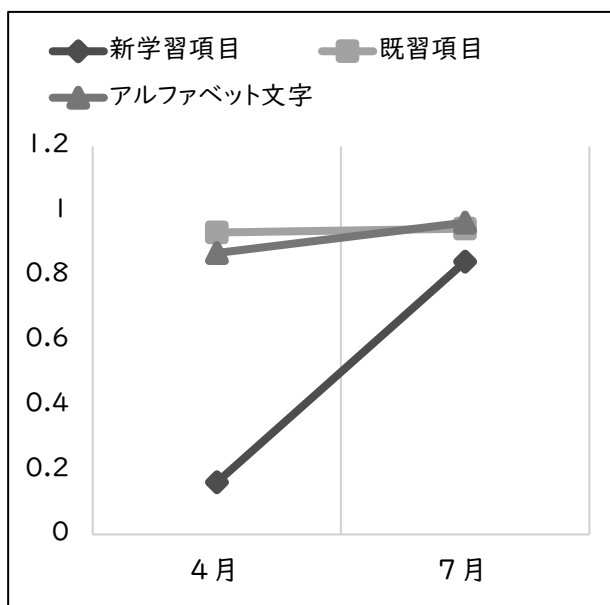
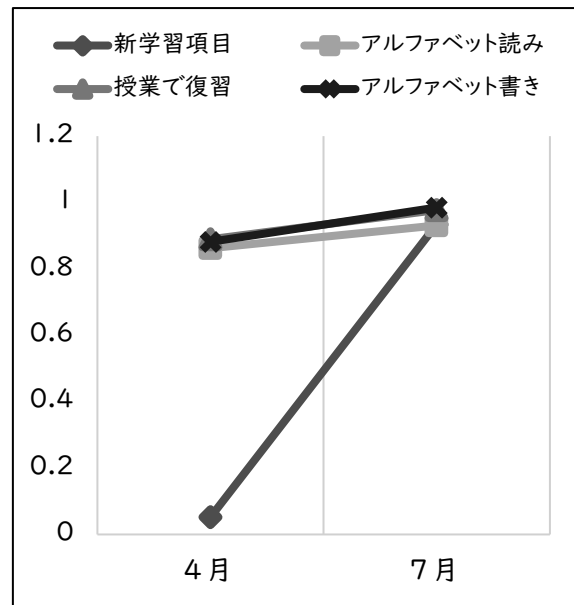


図13. 2024年度1学期



③聞くことクイズ

【6年生：2022年度・1学期】

表51. 1学期聞くことクイズ分析

N=77	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	23.0(24点)	64* / 77人
平均到達度	95.7%	83%

注) *内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に3文合計9文を目安とする。

分析結果から、線で結ぶ問題も内容記述の問題も、平均到達度は高く(表51参照)、しっかり聞き取っていることが分かる。内容記述では、解答用紙の絵や文字では分からない聞き取った内容を記述した児童は、64人中45人(70%)で、記述した表現を分析してみると、一番多かったのは、例えば、We have a

big department store.の「大きい」のような修飾語となっている形容詞(延べ79)であった。次に、文脈の中で追加情報として使われている文章の内容(延べ35)、例えば、library を説明するために使用した I like reading books there.を「本を読むのが好き」と記述している。このように、多くの児童が解答を見返すだけでは分からない内容も答えていることから、文脈の中で内容を理解しようとしていることが分かる(付録3参照)。

【6年生：2022年度・2学期】

2学期の平均到達度は73人中線で結ぶ問題が97.8%、内容記述問題が93.2%であった。また、解答用紙の絵や文字を見返しただけでは分からない内容を記述した児童が68人中60人(89%)と、単純比較はできないが、文脈から内容を聞き取れるようになってきた児童が増えている(表52参照)。

表 52. 2 学期間くことクイズ分析

N=73	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	17.6(18点)	68* / 73人
平均到達度	97.8%	93.2%

注)*内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に3文合計9文を目安とする。

【6年生：2022年度・3学期】

本来の実施計画にはなかったが、1,2学期と学習を積み上げてきた3学期の学習状況を調べるため、実施した。単純比較は難しいが、76人中線で結ぶ問題が97.2%、内容記述問題が90.8%で、2学期ほど到達度が高くないが、絵や文字ではふり返れない内容を記述した児童が69人中66人(95%)と、2学期より割合が高まり、一層文脈から詳細な内容を聞き取れるようになってきている(表53参照)。

表 53. 3 学期間くことクイズ分析

N=76	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	17.5(18点)	69* / 76人
平均到達度	97.2%	90.8%

注)*内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に3文合計9文を目安とする。

【6年生：2023年度・1学期】

2022年度1学期と同じ問題で実施した分析結果から、線で結ぶ問題も内容記述の問題も、平均到達度は高く(表54参照)、前年度同様、しっかり聞き取っていることが分かる。内容記述では、解答用紙の絵や文字では分からない聞き取った内容を記述した児童は、57人で9文以上内容を記述した児童78人の73%にもなった。また、児童の表現の分析で一番多かったのは、文脈から聞き取った周辺情報の記述である。例えば、department store や swimming pool の追加情報として用いた We enjoy shopping. や We enjoy swimming in all seasons.を「買い物ができる」「一年中泳ぐことができる」などと記述している(延べ115)。次に多かったのが2022年度同様、We have a big department store. の「大きい」のような修飾語となっている形容詞(延べ62)であった。2022年度と比較して、より多くの児童が

文脈から内容を推測していることがわかる(付録3参照)

表 54. 1 学期間くことクイズ分析

N=86	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	22.9(24点)	78* / 86人
平均到達度	95.4%	91%

注)*内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に3文合計9文を目安とする。

【6年生：2023年度・2学期】

2022年度2学期と同じ問題で実施した。2023年度1学期同様2学期も、線で結ぶ問題も内容記述の問題も平均到達度は高く、しっかり聞き取っていることが分かる。特に線で結ぶ問題の平均達成度は非常に高く、聞く力が高まっている。さらに、内容記述では、69人(全体の83%、9文以上記述した児童の93%)に解答用紙を見返しただけでは分からない文脈から聞き取った周辺情報が記述されていた。このことから、さらに多くの児童が文脈から聞き取れるようになっていることが分かる(表55参照)。

表 55. 2 学期間くことクイズ分析

N=83	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	17.9(18点)	74* / 83人
平均到達度	99.3%	89%

注)*内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に3文合計9文を目安とする。

【6年生：2024年度・1学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトを実施し、2022年度・2023年度の1学期と同じ間くことクイズを7月に実施した。2022年度・2023年度1学期同様、線で結ぶ問題も内容記述の問題も、平均到達度は高く(表56参照)、しっかり聞き取っていることが分かる。内容記述では、ほとんどの児童(97.2%)が9文以上正確に記述し、解答用紙の絵や文字では分からない聞き取った内容を記述した児童も、52人で9文以上内容を記述した児童の75.4%であった。また、児童の内容記述の表現分析で一番多かったのは、2022年度同様、修飾語となっている形容詞(延べ79)、次に名詞(延べ36)、そしてクイズの中で追加情報として使われている文章の内容(延べ33)の順であった。過年度同様、多くの児童が解答を見返すだけでは分からない内容も答えていることから、文脈の中で内容を理解しようとしていることが分かる(付録3参照)。

表 56. 1 学期間くことクイズ分析

N=71	線で結ぶ問題	内容記述問題
平均 / 人数	23.2(24点)	69* / 71人
平均到達度	96.7%	97.2%

注)*内容に適した文章の数に個人差が大きいため、各話し手に3文合計9文を目安とする。

④個別インタビュー

【6年生：2022年度・1学期】

5年時(2021年度)は未実施だったので、今回は6年生児童(76人)にとって初めての個別インタビューであった。そのため、質問は2つに留めた。あいさつの後、誕生日(Lesson 1)を尋ね、次に評価対象となる自分の町の好きな場所(What is your favorite place in this town?) (Lesson 2)と、好きな日本の食べ物か日本の遊び(What Japanese food do you like? What Japanese game do you like?) (Lesson 3)を尋ねた。分析の結果、76人中内容の平均到達度は94.5%、態度(eye-contact, clear voice)の平均到達度は91.5%でどちらも高い結果であった。態度では、かなりの児童が評価に含まないあいづちやジェスチャーも行っていった。

【6年生：2022年度・2学期】

質問は3つで、1学期同様あいさつをした後、日本の好きな食べ物、場所、人物のいずれかを尋ね(What Japanese food /place/person do you like?) (Lesson 4~6)、将来の夢とその理由を尋ねた(What do you want to be in the future? Why do you want to be ...?) (Lesson 8)。内容が異なるため単純比較はできないが、75人中内容の平均到達度は95.4%、態度(eye-contact, clear voice)は95.1%とどちらも3点評価(表1参照)の児童が増えている。これは、インタビューに慣れてきただけでなく、その場でのやりとりの力がついてきたことと関連していると分析できる。

【6年生：2022年度・3学期】

本来の実施計画にはなかったが、1, 2学期と学習を積み上げてきた3学期の学習状況を調べるため実施した。2学期同様質問は3つで、小学校で一番の思い出(What is your best memory?) (Lesson 7)、中学校で入りたい部活動(In junior high school, what club do you want to join?)、楽しい学校行事(In junior high school, what event do you want to enjoy?) (Lesson 9)である。77人中平均到達度は、内容が95.7%、態度が96.8%であった。多くの児童が2学期同様落ち着いてしっかり答える様子が観察できた。単純比較はできないが、態度(eye-contact, clear voice)でも1, 2学期より3点評価(表1参照)の児童が増えている。また、内容においても支援なしで自分の気持ちを答えられるようになった児童が増えた。

【2022年度6年生児童の1学期と3学期のインタビュー終了時の感想】

インタビューの情意的影響を調べるため、2022年度6年生の1学期と3学期に感想を任意で書かせた。1学期末は初めての経験だったため、「緊張した」「ドキドキした」という表現が多かった。3学期末には「1, 2学期よりすらすら答えられた。」「1, 2学期より自信をもって答えられた」など1, 2学期と比較してできるようになったというコメントが多く、自信をつけていることが分かる。次に「～ができた」と成長のポイントを挙げている。中間的評価では、難しい、緊張したと感じながらも頑張ったことを評価しているコメントや「～したい」と先の見通しや目標を持っているコメントもあり、現在の自分の到達状況を分析し次につなげようとしていることが分かる(表57参照)。

表57. 2022年度6年生児童のインタビュー後の自由記述* (1 学期末・3 学期末)

感想	1 学期末
肯定的	・緊張(ドキドキ)したけれど、楽しかった(面白かった、またやりたい)。(11)** ・答えられて、嬉しかった(楽しかった)。(4) 他
中間的	・緊張したけど、英語であまり話したことがないから、(復習の) 良い機会だ。(3) ・次はジェスチャーを入れて(相手を見て)話したい。(2) 他
否定的	・緊張して、すぐに答えられなかった。(5) 他
感想	3 学期末
肯定的	・1, 2 学期よりすらすら(しっかり) 答えられた。(～答えられて楽しかった。)(11) ・1, 2 学期より(6 年生の始めより) 自信をもって答えられた。(7) ・ジェスチャーをつけて(相手を見て) 話すことができた(～できてよかった)。(5) 他
中間的	・緊張したけど、前より落ち着いて答えることができた。(4) ・少し難しかったけど、最後まで答えられた。(3) ・英語は大人になった時に役立つから、しっかり答えられるようになりたい。(2) ・もっとたくさん英語を勉強して、外国の人と話し(交流し)たい。(2) 他
否定的	(なし)

注) *インタビュー後の記述は自由で全員が必ずしも記述しているわけではない。

** () は延べ人数。

【6年生：2023 年度・1 学期】

2023年度6年生児童(87人)で、すべに5年時より個別インタビューを行っていたため、質問3つを評価対象とした。あいさつの後、誕生日(Lesson 1)を尋ね、自分の町の好きな場所(What is your favorite place in this town?)(Lesson 2)と、好きな日本の食べ物か日本の遊び(What Japanese food do you like? What Japanese game do you like?)(Lesson 3)を尋ねた。分析の結果、87人中内容の平均到達度は92.2%、態度の平均到達度は89.5%でどちらも高い。多くの児童が自分の気持ちを相手に伝えようとする姿勢が観察できた。ただし、態度では、2022年度ほどジェスチャーやあいつちを即座に使う児童は多くなかった。

【6年生：2023 年度・2 学期】

2022年度同様質問は3つで、あいさつをした後、日本の好きな食べ物、場所、人物のいずれかを尋ね(What Japanese food /place/person do you like?)(Lesson 4~6)、将来の夢とその理由を尋ねた(What do you want to be in the future? Why do you want to be ...?)(Lesson 8)。分析結果としては、83人中内容の平均到達度は92.6%、態度は93.6%で、1学期同様高い平均到達度を示している。さらに、1学期より相手をしっかり見て伝えようとする姿が多く観察できた。

【6年生：2024年度・1 学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトを実施し、2022年度・2023年度の1学期と同じ形式で各クラス個別インタビューを7月に実施した。2023

年度同様、2024年度6年生児童も、すべに5年時よりに個別インタビューを行っていたため、質問3つを評価対象とした。あいさつの後、誕生日(Lesson 1)を尋ね、自分の町の好きな場所(What is your favorite place in this town?) (Lesson 2)と、好きな日本の食べ物か日本の遊び(What Japanese food do you like? What Japanese game do you like?) (Lesson 3)を尋ねた。分析の結果、67人中内容の平均到達度は90.0%、態度の平均到達度は95.0%でどちらも、高い。特に態度で、eye-contact, clear voiceで3点評価の児童が多く、自然なやり取りの姿勢が観察できた。ただし、2023年度同様、ジェスチャーを使う児童はあまり多くなかった。2学期以降は、さらにコミュニケーションを続けるストラテジーを身に着けることができるよう、相手への確認、あいづち、ジェスチャーも増えるように日ごろの授業の中で心掛けた。

⑤アルファベットクイズ

【6年生：2022年度・1学期】

参加児童は77人。大問が5つ([1]~[5])、問題は3種類であった(②④除く)。③の内容関連語は、[2]が季節、[3]が行事、[4]が施設名で、[4]のみ意味は選択式だった。平均到達度は高いが、[3]が少し下がっている(表58参照)。行事名を日本語で書けない児童がいたため、2学期は音と文字だけでなく意味ともしっかりつなげて定着を図れるよう、意味を児童から引き出し確認する場面を増やした。

【6年生：2022年度・2学期】

参加児童は74人。大問が7つ([1]~[7])で問題は5種類であった(表58参照)。③の内容関連語については、[3]がスポーツ、[4]が感情や様子を表す形容詞、[5]が職業で、[5]のみ意味は選択式で答えた。単純比較はできないが、2学期の平均到達度は1学期より高く、どの問題も90%以上であった。しかし、[4]の感情を表す形容詞は音と文字のつながりは良いが、意味の正確さに欠ける。抽象的な意味は絵だけでは分かりにくく、文脈によっても多少解釈が異なるため、基本的な意味を日本語で確認する必要性を痛感した。[7]の名前も良く書けているが、名前に「たろう」のように「う」を含む表記で訓令式とヘボン式を混同している児童も散見され、どちらも3学期の指導につなげた。

【6年生：2022年度・3学期】

表58. 2022年度6年生3学期間のアルファベットクイズ(平均到達度%)

学期	①アルファベットの名前読みから文字を選択	②アルファベットの音読みから文字を選択	③内容関連語の読みから選択式でつづりを答え、読みとつづりから意味を日本語で記入(あるいは選択)する			④内容関連語の読みとつづりから意味を書く	⑤名前のローマ字を4線に書く	合計
1	[1]95.5	(なし)	[2]92.2	[3]81.2	[4]96.7	(なし)	[5]92.5	92.2
2	[1]98.8	[2]96.3	[3]94.6	[4]91.9	[5]98.4	[6]98.9	[7]97.0	96.0
3	[1]97.8	[2]92.2	[3]91.1	[4]94.4	[5]99.3	[6]93.4	[7]98.2	95.2

本来の実施計画にはなかったが、1, 2学期と学習を積み上げてきた3学期の学習状況を調べるため、実施した。参加児童は77人。2学期同様大問が7つで問題は5種類である(表58参照)。③内容関連語では、[3]が学校行事、[4]が感情を表す形容詞、[5]が部活動で、[5]のみ意味を選択式で答えた。語彙や出題形式が難しくなっているにもかかわらず、全体の平均到達度は2学期とほぼ同じで、どの問題も90%以上だった。特に[5]の部活動の音と文字と意味の一致は、ほとんどの児童が正解だった。さらに、[4]や[7]の解答に改善が見られたため、2学期の分析後の指導が活かされたことが分かる。

【6年生：2023年度・1学期】

参加児童は87人。形式は2022年度1学期と同じだが、「②アルファベットの音読みから文字を選択」の問題が増えている。よって問題形式は4種類で大問は6つである(付録4参照)。③の内容関連語は、[3]が季節、[4]が行事、[5]が施設名で、[5]のみ意味は選択式で答えた。平均到達度は高いが、2022年度同様[4]が少し下がっている(表59参照)。行事名を日本語で書けない児童がいたため、2学期は音と文字だけでなく意味ともしっかりとつなげて定着を図れるよう、意味を児童から引き出し確認する場面を増やした。

【6年生：2023年度・2学期】

参加児童は83人。1学期よりさらに平均到達度は高くなっている。③の内容関連語は、2022年度2学期同様、[3]がスポーツ名、[4]が感情や様子を表す形容詞、[5]が職業名で、[5]のみ意味は選択式で答えた。児童が異なるため単純比較はできないが、2022年度2学期より①～③の問題の平均到達度は高い。しかし、やはり[4]の形容詞では意味の正確さに欠ける(表59参照)。昨年度の経験を活かし、日本語でも確認するよう注意していたが、さらに子供たちの学び方に気を付ける必要があることが分かる。

表 59. 2023年度6年生2学期間のアルファベットクイズ(平均到達度%)

学期	①アルファベットの名前読みから文字を選択	②アルファベットの音読みから文字を選択	③内容関連語の読みから選択式でつづりを答え、読みとつづりから意味を日本語で記入(あるいは選択)する			④内容関連語の読みとつづりから意味を書く	⑤名前のローマ字を4線に書く	合計
1	[1]97.0	[2]94.3	[3]95.4	[4]86.2	[5]97.1	(なし)	[6]93.4	94.4
2	[1]98.9	[2]99.3	[3]97.3	[4]94.6	[5]98.9	[6]97.5	[7]96.0	95.5

【6年生：2024年度・1学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトを実施し、2022年度・2023年度の1学期と同じアルファベットクイズを7月に実施した。参加児童は71人。形式は、2023度と同じで、「②アルファベットの音読みから文字を選択」の問題が増えている。よって問題形式は4種類で大問は6つである(付録4参照)。③の内容関連語は、[3]が季節、[4]が行事、[5]が施設名で、[5]のみ意味は選択式で答えた。平均到達度は2024年度も非常に高い。ただし、2023年度同様行事名を答える問題が少し下がっている(表60参照)。これは、2022年度1学期も同じ傾向があり、

過年度の指導事例を参考に、児童の定着を図かった。

表60. 2023年度と2024年度6年生1学期のアルファベットクイズ(平均到達度%)

年度	①アルファベット名前読みから文字選択	②アルファベット音読みから文字選択	③内容関連語の読みからつづりを 選択し、読みとつづりから意味を日 本語で記入(または選択)する			⑤名前のローマ字を4 線に書く	合計
2023	[1]97.0	[2]94.3	[3]95.4	[4]86.2	[5]97.1	[6]93.4	94.4
2024	[1]98.2	[2]97.7	[3]95.1	[4]82.0	[5]98.2	[7]95.5	94.6

これら3年間の異なる6年生へのアルファベットクイズの分析結果から、プロジェクト重視の英語指導は参加した6年生のアルファベット文字認識(音・文字・意味の3要素のつながり)を高める効果が期待できることが分かる。

⑥児童の自由記述アンケート

【6年生：2022年度・1学期】

児童のプロジェクトのゴールとなる留学生との交流会の発表で準備したことが伝えられたか尋ね、その理由を児童の記述から探った。78人中約95%(とてもそう思う:62.8%、まあまあそう思う:32.1%)が「伝えられた」と肯定的回答で、その理由は5年生同様主に3点に分析できた。最も多いのが自分の当日の発表の様子、次にそれまでの練習の成果、最後に留学生の反応である。ただし、否定的な回答も約5%あったので、さらに指導者間で気づいた点を授業に活かすよう心掛けた。

【6年生；2022年度・2学期】

1学期同様のアンケートを交流会後に実施したところ、81人中約94%(とてもそう思う:55.5%、まあまあそう思う:38.4%)が肯定的回答だった。一方その理由では、やはり自分の当日の発表の様子が最も多いが、次に留学生の反応だった。さらに、留学生の質問にも事前に留学生の自己紹介カードを読んで「留学生が好きそうな観光地を紹介した」と記述した児童もいる。これらのことから、児童が相手となる留学生をしっかりと観察し、相手に合わせて何とか気持ちを伝えようとする意識が高まっていると推測できる。

【6年生：2023年度・1学期】

2022年度同様、児童のプロジェクトのゴールとなる留学生との交流会の発表で準備したことが伝えられたか尋ね、その理由を児童の記述から探った。84人中約94%(とてもそう思う:48.8%、まあまあそう思う:45.2%)が「伝えられた」と肯定的回答で、その理由は、2022年度同様主に3点に分析できた。最も多いのが自分の当日の発表の様子、次にそれまでの練習の成果と留学生の反応であった。

【6年生：2023年度・2学期】

1学期同様のアンケートを交流会後に実施したところ、85人中約94%(とてもそう思う:46%、まあまあそう思う:48%)が肯定的回答だった。一方その理由では、やはり自分の当日の発表の様子(68人)が最

も多いが、次に留学生の反応（12人）だった。また、当日の自分の発表の様子の中にも「留学生に分るよう自分の名前をはっきり伝えた」「留学生の目を見て話した」「分かりにくいところはゆっくり強調して伝えた」「留学生が分かっているか表情を見ながら話した」等、1学期に比べ、さらに児童が相手となる留学生をしっかりと観察し、相手に合わせて何とか伝えようとする意識が一層高まっていることが分かる。

【6年生：2024年度・1学期】

2024年版教科書での結果を調べるため、2020年度版教科書と同じ枠組みで1学期のプロジェクトを実施し、ゴールとなる留学生との交流会の発表で準備したことが伝えられたか尋ね、その理由を児童の記述から探った。70人中約97.1%（とてもそう思う：47.1%、まあまあそう思う：50.0%）が「伝えられた」と肯定的回答で、その理由は2022年度・2023年度と同じく、主に3点に分析できた。最も多いのが自分の当日の発表の様子（44人）、次に留学生の反応（22人）、最後にそれまでの練習の成果（4人）だった。否定的な回答も約2.9%あり、個々の児童に適した支援を心掛けることが必要だが、過去2年間の1学期と比較すると、否定的な回答は最も少なく、肯定的にとらえている児童が多いことが分かる。

これら3年間の異なる6年生児童のプロジェクトのゴールの振り返りから、非常に多くの児童が満足感や達成感を得ていることが分かる。

⑦担任を含む外国語担当教員の自由記述アンケート

【6年生：2022年度・1学期】

A. プロジェクト重視の英語指導

・子どもたちが自分の成長を実感し、達成感を得ながら学ぶことができ、学習意欲向上につながっている。

B. 学期毎のアンケートとクイズ

・聞くことクイズはALTが直接言ってくれたので、子どもたちが緊張せずに集中して聞くことができた。

・聞くことクイズは子どもたちの発表の流れと同じなのでスピーチの展開を推測できたようだ。

・インタビューは初めてで、しかも個別だったが、質問は子どもたちが工夫して発表した内容だったので、落ち着いて、うれしそうに答えていた。

【6年生：2022年度・2学期】

A. プロジェクト重視の英語指導

・子どもたちが伝えたいという思いを持ち、その時の自信や実力に合わせて無理のない発表の規模（小から大）で「できた!」という思いを積みかさねることができた。

・留学生との交流は、子どもたちにとってゴールと相手意識が明確になり、教室で学んだことを実際に留学生の方に伝えるという経験を通して、コミュニケーションの大切さを実感することができた。

・インプット重視から徐々にアウトプット重視へと単元の型が毎回同じであることは、子どもたちにも教員にも安心して取り組めた。

B. 学期毎のアンケートとクイズ

・単元毎のワークテスト（業者テスト）は、基本的すぎたり教科書とずれていたり指導した箇所と合っていない

かったりするので、子どもたちが習熟を確認する点で自信を持つことができ、とても良い。

・指導者間で話し合っって年間計画に組み込むので、見通しを持って評価計画を立てることができた。

【6年生：2023年度・1学期】

A. プロジェクト重視の英語指導

・JTEとの協働によりより良い指導ができています。

・プロジェクトの終末で発表の機会があることで、児童が発表に向けて意欲的に取り組める。

B. 学期毎のアンケートとクイズ

・各児童の現在の学習状況を把握でき、指導改善に役立てられる。

【6年生：2023年度・2学期】

A. プロジェクト重視の英語指導

・プロジェクトの交流会で伝える場があることで、児童に日々の活動が実践できた（伝わった）という経験を積ませることができると実感した。

B. 学期毎のアンケートとクイズ

・インタビュークイズでは、6年生の2学期になると、多くの児童の「すらすら答えられている」姿が観察できた。日頃の授業でのやり取りの成果がでていと実感した。

【6年生：2024年度・1学期】

A. プロジェクト重視の英語指導

・既習内容を活かした発表をゴールとしているので、子供たちも学んだことを活かし、自分たちで工夫しながら自信と相手意識をもって伝えられるのでとても良い。

B. 学期毎のアンケートとクイズ

・各児童の取り組みの客観的結果を知ることができるので、しっかり理解し力がついてることを確信できる。また、児童にとってどこが難しいのか課題を知ることによって、授業改善につなげることができる。

以上が2022年度と2023年度、さらに2024年度1学期の5年生、6年生のプロジェクト重視の指導の実態を検証すべく行った分析の結果である。これらの結果をもとに、次章で考察を述べる。

VI. 研究の考察

本研究は、(1) 児童がプロジェクトを通して満足感や達成感を得て英語学習への意欲や自信を高められるか、(2) 基礎的な技能の定着とコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながるか、(3) 担任(教科担任を含む:以降これらの代表として担任と表記)と児童の負担感を軽減しつつ指導と評価の一体化を図り、継続的に指導の改善と児童の自己調整能力を養うことができるかの3点を調べた(III-1. 研究目的, p. 8 参照)。

まず、(1) 児童がプロジェクトを通して満足感や達成感を得て英語学習への意欲や自信を高められるかについて考察する。プロジェクトのゴールとなる留学生との交流会後の児童の自由記述アンケートでは、5年生の2022年度は約89%、2023年度は約86%、そして2024年度版教科書を活用した2024年度は約95%が「留学生に準備したことが伝えられた」と肯定的回答であった(IV-2. 分析結果, p. 24 参照)。6年生は、2022年度1学期は約95%、2学期は約94%が「準備したことが伝えられた」と肯定的回答であった。また、2023年度は1・2学期ともに約94%、さらに2024年度1学期は約97%の児童が肯定的回答だった(p. 40参照)このことから、プロジェクトを通して、同学年の複数年度児童だけでなく、異なる学年でも複数年度の多くの児童が満足感や達成感を得ていることが分かる。

また、児童の英語学習への関心・意欲と自信の変化を調べた英語学習アンケートの分析結果(pp. 13-16 参照)が示す通り、5年生の2022年度・2023年度1・2学期、さらに2024年度版教科書を活用した2024年度1学期の児童も、英語学習への「興味・関心」「自信」とともに高まり、単純主効果分析でも両因子ともに有意の差がみられた。6年生でも、2022年度1・2学期ともに児童の英語学習への「興味・関心」「自信」とともに高まり、1年間の変化でも英語学習への「自信」に有意差がみられた。さらに、2023年度の1・2学期、2024年度の1学期の調査でも「興味・関心」「自信」とともに有意の差が見られた(pp. 26-29 参照)。

学期毎に既習項目と新学習項目についての話すことへの自信と年間共通のアルファベット文字の読み書きへの自信を調べたCan-Do自己評価アンケートの分析結果(IV-2. 分析結果, pp. 16-19 参照)では、5年生2022年度、2023年度ともに1学期の変容を見ると、「新学習項目についての話すことへの自信」が7月の時点で高まり、英語学習アンケートの分析結果同様、新学習項目についての話すことへの自信に有意な差が認められた(p. 18, 図6, 7参照)。さらに、既習項目でも授業で復習したり発表で活用したりすることにより、有意差が認められることから、授業や発表準備で繰り返すことにより、定着につながり、自信が高まっていることが分かる(p. 17, 表16, 表18)。さらに2024年度版教科書を活用した2024年度1学期でも、新学習項目、発表で活用した既習項目や授業で復習した7曜日に有意差がみられ、自信につながっている(p. 19, 表22参照)。6年生のCan-Do自己評価アンケートの分析結果(IV-2. 分析結果, pp. 29-33 参照)でも、2022年度各学期の新学習項目についての話すことへの自信の高まりが認められた。さらに、異なる6年生となる2023年度、そして2024年度版教科書を活用した2024年度児童も2022年度の児童同様に、新学習項目について話すことへの自信の高まりが認められた(p. 29, 表42, p. 30, 表44, p. 31, 表46, p. 32, 表48, 表50)。さらに、5年生同様新学習項目だけでなく、授業で復習したり発表で使用したりした既習項目の中にも有意差がみられ、自信が高まっている(表42, 表46, 表50)。このことから、本プロジェクト重視の指導は、実践校の児童のゴール達成を支援し、満足感や達成感を高め、それが英語学習への意欲や自信につながり、英語の語彙や表現

の定着を促したといえる。

その根拠は、Fried-Booth (2002) の PBA の理論にある(I. 研究の理論的背景, 図 1 参照)。「意味のある言語使用」と「協働でのタスク活動の取り組み」が本実践にあったからこそ、参加児童の「実践的な英語力の向上」と「自律心と自信の涵養」につながったと考察できる。Fried-Booth (2002) の PBA の理論に基づく実践方法を示した「小学校英語教育におけるプロジェクト重視の指導の枠組」(p. 5, 図 2 参照)からも、本実践の有効性は明らかである。この指導の枠組に基づく本実践例からその理由を示す。実践の概要(V-1. 実践の概要参照)で述べる通り、本実践では学習した内容を覚えてただ伝えるのではなく、①「相手意識と必然性」と②「単元発表を活かす」ことを重視した。①「相手意識と必然性」に関しては、5 年生は児童が自分ごととして捉えられるような内容や伝え方を工夫できる自己紹介や夢の時間割紹介をすることを発表のゴールとし、しかも直接学校を訪問する留学生に伝えることで、相手意識や英語を使う必然性を感じられる設定を心掛けた。6 年生でも 1 学期は、小学校近郊の大学の留学生に、同じ地域に住んでいるからこそ知ってほしい情報を総合的な学習の時間の地域学習や調べ学習をヒントに発表内容を工夫したり、日本語や日本文化を学びに来ている留学生に、事前交流で知った留学生の好みも踏まえて児童の好きな日本文化や日本食を選び、留学生に伝わるように英語で紹介したりすることとした。2023年度 2 学期は、卒業文集作成の時期に将来の自分の姿を想像し、将来の夢について留学生と互いに発表し合った。また、②「単元発表を活かす」ことについては、5 年生・6 年生ともに、単元発表後の振り返りの成果と課題をもとに、プロジェクトのゴールでのより良い発表になるよう、ゴールまでの過程でペアや班内で互いにアドバイスし合い発表を改善し、児童同士で互いに高め合ってきたことが分析結果に反映されている。つまり、図3 (p. 6) のプロジェクト重視の指導の特徴で示した、「意味のある言語使用」と「協働でのタスク活動の取り組み」で生まれる「主体的な学び」や「協働の学び」が満足感や達成感を高め、英語学習への意欲や自信につながっていると考えられる。

次に (2) 基礎的な技能の定着やコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながるかについて、聞くことクイズ(聞くこと)、個別インタビュー(話すこと[やり取り])、アルファベットクイズ(読むこと・書くこと)の分析結果から考察する。5年生 2022 年度、2023 年度、さらに2024年度版教科書を活用した2024年度のいずれの聞くことクイズ(IV-2. 分析結果, pp. 19-21 参照)でも、線で結ぶ問題も内容記述の問題も平均到達度は高く、多くの児童が ALT の話す内容をしっかり聴き、文脈の中で内容を理解しようとしていたことが分かる。ただし、内容記述の問題は、聞くだけでなく日本語に変換する力も必要となるため、国語科の表現力等と合わせた総合的な力をつけられるよう指導していくことも求められる。6 年生では、2022 年度の学期毎の分析(pp. 33-34参照)を見ると、線で結ぶ問題も内容記述の問題も平均到達度は高く、文脈の中で内容を理解しようとしていたことが分かる。2023 年度(pp. 34-35参照)も同様に、どちらの問題も平均到達度は高く、同学年の異なる児童においても文脈から内容を理解しようとする力がついていることが分かる。さらに、2024年度版教科書を活用した2024年度1学期の分析(p. 35参照)でも、2022 年度・2023年度 1 学期同様、線で結ぶ問題も内容記述の問題も、平均到達度は高く、しっかり聞き取っていることが分析結果から示された。これらのデータ分析から、同学年の複数の異なる児童においても、プロジェクト重視の英語指導の効果が実証された。

個別インタビューでは、5 年生は、2022年度2学期、2023 年度1・2学期に実施した(IV-2. p. 21 参照)。内容(「知識・技能」+「思考・判断・表現」)と態度(「主体的に学習に取り組む態度」)どちらの平均到達度も高く、言語表現の定着だけでなく、少しずつではあるが日頃のやり取りで自らコミュニケーション

ンを図ろうとする態度が身に付いてきていると考えられる。これは、外国語活動から培ってきた「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」の素地があったからこそ、初めての個別インタビューであっても臆せず自分の気持ちを伝えようとしていると推測できる。また、学期を重ねるごとに内容・態度のどちらの平均到達度も高まっている。6年生を見ると、2022年度の学期毎の個別インタビューでは、内容と態度どちらの平均到達度も高く、態度では個別インタビューの評価基準に入れていないあいづちやジェスチャーもかなりの児童が行っていた。2023年度も同様に、内容・態度ともに平均到達度が高く、相手に伝えようとする意識から、自然とジェスチャーや相槌を行っていることが観察できた。さらに、2024年度版教科書を活用した2024年度1学期も、内容・態度ともに平均到達度が高い(p. 36参照)。さらに、インタビュー後の児童の感想では、1学期より3学期の方が自信をもって答えていることが分かる。よって、日頃のやり取りでコミュニケーションしようとする態度が自然に身に付いてきていると考えられる。

アルファベットクイズの分析結果では、2022年度・2023年度ともに5年生では、1学期は3種類、2学期は4種類のすべての問題で平均到達度は高く、多くの児童が新学習項目についての内容関連語の音と文字と意味の一致ができていていると考えられる。さらに、2024年度版教科書を活用した2024年度1学期も、どの問題も平均到達度が高く、アルファベットの音と文字と意味の一致が確認できる。しかし自分の名前を4線に書く力を高めるためには、アルファベットを書き始めた1学期間だけでなく、継続的指導が必要となることが分かる(IV-2, p. 21-24参照)。2022年度3~5種類の問題による1年間を通して同じ児童で実施した6年生の学期毎のアルファベットクイズ(表58参照)でも、同じプロジェクト後に同じクイズ問題を異なる児童に実施した2022年度・2023年度・2024年度それぞれの1学期を比較しても、どれも平均到達度は高く、多くの児童が学期毎の新学習項目についての内容関連語や文章の音と文字と意味の一致ができていていると考えられる(表60参照)。また、継続的に調査したアルファベット文字の名前読み・音読みと文字の結びつきや自分の名前を4線に書く力も、着実についていると分析できる(表58, 59参照)。よって、これらの聞くことクイズ、個別インタビュー、アルファベットクイズから、プロジェクト重視の指導は、基礎的な4技能の定着とコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながると考察できる。

最後に、(3) 担任と児童の負担感を軽減しつつ指導と評価の一体化を図り、指導の改善と児童の自己調整能力を養うことができるかを検証する。担任と児童の負担感軽減については、5年生・6年生ともに、聞くことクイズでALTが直接英文を読んだため、親しみのあるALTの音声に児童が落ち着いて取り組めた可能性が高い。また個別インタビューでは、主にALTとJTEがインタビューを担当し、担任はその場で観察評価のみを行い、児童は聞き慣れている英語で直接話かけられるため、担任にも児童にも負担が少ない方法だったと考える。アルファベットクイズでも音に関しては、JTEが文字を読んだため、5年生児童のアルファベットクイズの感想に「先生の発音がわかりやすかった」とあるように、児童に聞きなれた英語の発音を提供することで、安心して取り組める環境を提供できた。また、指導と評価の一体化を図るため、分析方法(pp. 11-12参照)で述べた通り、プロジェクトのゴールや学習内容を聞くことクイズ(聞くこと)、アルファベットクイズ(読むこと・書くこと)、個別インタビュー(話すこと[やり取り])で評価した。これらに単元毎のパフォーマンステスト(話すこと[発表][やり取り])を加え、4技能・5領域の評価を試みた。

さらに、2022年度から2024年度までの研究期間の自由記述アンケート(p. 25, pp. 41-42参照)で、異なる学年の複数の担任から、これらのクイズやインタビューを行うことで「学期で学習した内容に即したもので指導の改善に役立つ」「1学期で指導したことが網羅されているので、評価に反映できる」「授業だけではわからない児童の成長を様々な角度から知ることができるので、評価の助けとなる」「児童に

とってどこが難しいのか課題を知ることで、授業改善につなげることができる」とその活用方法が述べられた。また、指導と評価の一体化については「子どもたちが自分の習熟度を確認することで自信を持つことができた」とも述べている。さらに、「見通しを持って評価計画を立てることができ」「教えた内容を評価できるので具体的に子どもたちの理解度を知り指導に活かした」という意見も聞かれた。さらに、プロジェクト重視の英語指導に関しては「ゴールが明確に設定させているので、そこに向けて指導がしやすく、活動が進めやすい」「既習内容を活かした発表をゴールとしているので、子供たちも発表で学んだことを活かし、自分たちで工夫しながら自信と相手意識をもって伝えられる」「ゴールとなる留学生との交流会は、児童が本物のコミュニケーションをとる機会となり、児童が目的意識を持って学習に向かうことでより高い学習効果が得られる」と考えている。また、「留学生との交流会で学習した表現を実際に使ってコミュニケーションが取れるという経験をするので、子どもたちの自信につながった」と観察している。さらに、「ゴールとなる交流会で実際に外国の方に伝える経験は、とても貴重で、『英語が好きになった!』『いつか海外に行ってみよう!』という児童の素直な感想がそれを裏付けている」と評価している。よって、(1)から(3)の研究目的の結果からプロジェクト重視の英語指導は、実践に参加した小学校5・6年生にとって効果的であったと結論付けることができる。

このようにプロジェクトのゴールで教室の学びを外の世界とつなげることで、体験的な学びが児童の英語学習への自信につながっている。これを裏付けるように、5年生のアルファベットクイズ後の感想で、児童は「自分の成長(理解度)が分かった」「英語を覚えていた、できた」と書いている。また、「(できて)楽しかった」「簡単だった」と自信を感じさせるコメントが多い。さらに、「もっとしっかり復習したい」と次への目標を述べたり、「区別が難しい文字があった」「自分の名前を書くのが難しかった」と何が難しいかを分析したりしている児童もいる。これは、メタ認知的思考が高まり、徐々に自己調整力が備わってきているからではないかと考えられる。この結果は、今回の感想を書いた児童と同じ5年生の実践で、自己評価による自己調整学習意欲の向上の可能性を示唆している田山(2020)の結果を実証することとなった。また、十分に自己調整能力がついたとは言えないが、2学期以降も単元末やプロジェクト後の自己評価を継続していくことで、成果を実感し課題を意識し、見通しをもって次のプロジェクトで様々な工夫に取り組むことができるようになると思う。また、それが実現できるよう児童を支援していきたい。一方6年生では、2022年度1学期末の個別インタビュー後の児童の感想では「次はジェスチャーを入れて話したい。」とあるが、2022年度3学期末では「ジェスチャーをつけて話すことができた」や「1、2学期より自信をもって答えられた」と述べていることや成長のポイントやその理由を挙げていることから、単元毎のパフォーマンステスト迄の過程やパフォーマンステスト時の友だちや指導者の評価やコメントから自己の到達度を知り、振り返り等を通して自己調整能力を養いながら学習への意欲や自信を高めていったと推測できる。

よって、5年生・6年生それぞれ2022年度から2024年度1学期まで学期毎に同じプロジェクトを異なる児童に行った実践を通して、教科書の単元を活用したプロジェクト重視の指導の枠組みは、言語材料と学習内容を無理なく児童の自己表現活動へつなげることができると思う。2024年度1学期は、改訂された2024年度版教科書を活用したが、結果は同様であった。これらの結果から、プロジェクト重視の指導は、単元発表での学びを活かし、児童が自ら課題を見つけ思考を深め改善しながら、プロジェクトの発表へつなげることができ、単元で学んだ既習表現を活用する機会を増やすことができるため、語彙や表現の定着を促し、児童が自分ごととして主体的に取り組む達成感を得られる活動にすることができると思う。また、プロジェクトのゴールがあるため、伝える相手が明確になり、必然性のある活動になる。ゴールが明確な

め、ゴールやゴール達成につながるプロジェクト内の一連の体験的言語活動は、学習指導要領（文部科学省，2017）の「外国語を使って何ができるようになるのか」の視点を児童に分かりやすく示すことができ、児童の英語学習への関心・意欲、4技能に対する自信の高まりが期待できる。

さらに、ゴール達成を目指すプロジェクト重視の指導の中で評価をすることで、指導と評価の一体化と数値による具体的・客観的評価を実現できる可能性が高い。「聞くことクイズ」「個別インタビュー」「アルファベットクイズ」を活用し、学習内容を文脈の中で評価する手立てとすることで、児童の「知識・技能」を活用して目の前の課題を解決するために必要な「思考・判断・表現」力や「主体的に学習に取り組む態度」の評価につなげやすく、多角的な評価、4技能・5領域に関する言語的評価実現の一つの試みとなったと分析できる。さらに継続して「聞くことクイズ」「個別インタビュー」「アルファベットクイズ」を行えば、児童が目標を持って取り組み、自分の成長を実感し、学習への到達度を知り、達成感や課題を得て次につながる自己調整能力をさらに養うことができるであろう。（教科担任を含む）担任中心の指導体制でも、ティームティーチングを活用しALTやJTEと協働することで、担任と児童の負担感軽減の可能性は高まる。

今後の課題として3点挙げられる。今回のクイズやインタビューは、JTEが原案を作成提案し、児童と担任の負担感の少ない実施方法を心掛けたが、常にその状況が整うとは限らないため、作成や実施方法に課題が残る。今後、教科担任制が広がった場合、指導体制の変化に合わせた改善が必要となるであろう。また、本実践は限られた人数を対象としたもののため、結果の過度の一般化は慎重に論議すべきである。さらに、クイズの内容や評価基準等に関する信頼性・妥当性についても今後しっかり議論し、改善していく必要があると考えている。

注

1. 高島（2005）に基づき、タスク同様課題解決を目的とするが、目的に到達しやすいよう会話の進行等を段階的に示した活動とする。
2. 経験学習(experiential learning)は、「様々な相互作用による実践を通して互いの経験から学びが促進される」とするKohonen（2001）に基づく。
3. 協働学習(collaborative learning)は、Dooly（2008）やOxford（1997）を基に「共通のゴールに向かって自律的にかつ支援や協力をしあいながら作業後行う中で、互いの学びに責任を持ち、新しい価値を創造していく活動」とする。

謝辞

本実践は、実践校の先生方や児童の皆さんの協力を得ている。ここに感謝の意を表す。さらに、令和3年から6年度科研費（若手研究・21K13067）の助成を受けている。記して深謝したい。

引用文献

- 天笠茂（2022）。「現代における小学校教科担任制の意義と課題」『学校経営研究』第47巻，9-20。
Beckett, G. H. (2006). Project-based second and foreign language education: Theory, research, and practice. In G. H. Beckett and P. C. Miller (Eds.), *Project-based*

- second and foreign language education: Past, present, and future* (pp. 3-16). Greenwich, Connecticut: Information Age Publishing.
- Cameron, L. (2001). *Teaching languages to young learners*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Dooly, M. (2008). Constructing knowledge together. In M. Dooly (Ed.). *Extract from telecollaborative language learning* (pp. 21-45). Bern: Peter Lang.
- Ellis, R. (2003). *Task-based language learning and teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- Fennelly, G., Fukuda, T., & Kaiser, M. The current state and challenges of the teaching systems for elementary school foreign language education: A prefectural case study of teacher needs. *JASTEC*, Vol 42, 177-192.
- Fried-Booth, D. L. (2002). *Project work* (2nd ed.). Oxford: Oxford University Press.
- Haines, S. (1989). *Projects for the EFL classroom: Resource material for teachers*. Edinburgh: Thomas Nelson and Sons.
- 東野裕子・高島英幸. (2007). 『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』 高陵社書店.
- 川喜田二郎 (1967). 『発想法』中公新書.
- 小泉仁・加賀田哲也他 (2020a). 『One World Smiles 5』教育出版.
- 小泉仁・加賀田哲也他 (2020b). 『One World Smiles 6』教育出版.
- Kohonen, V. (2001). Towards experiential foreign language education. In V. Kohonen, R. Jaatinen, P. Kaikkonen, and J. Lehtovaara (Eds.). *Experiential learning in foreign language education* (pp. 8-60). Harlow: Pearson Education.
- 國分有穂. 「『外国語・外国語活動』指導力・英語力養成のための教員研修プログラム試案—小学校外国語活動の強化化に対する現職教員の意識調査—」『昭和女子大学現代教育研究所紀要』第7号 13-25.
- 国立教育政策研究所 (2020). 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_gaikokg.pdf
- 文部科学省 (2017). 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語活動・外国語編』開隆堂出版.
- 文部科学省 (2021). 『義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について(報告)』
https://www.mext.go.jp/content/20210729-mxt_zaimu-000015519_1.pdf
- 文部科学省 (2023). 『小学校高学年における教科担任制に関する事例集』
https://www.mext.go.jp/content/20230310-mext_zaimu-000027939_1.pdf
- Nunan, D. (2004). *Task-based language teaching*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.
- 折井麻美子 (2022). 「小学校外国語教科化に伴う課題と学級担任に必要な支援について—杉並区でのアンケート調査の結果から—」*JES Journal*, Vol. 22, 102-117.
- Oxford, R. (1997). Cooperative learning, collaborative learning & interaction: Three communicative strands in the language classroom. *Modern Language Journal*. 81,

443-456.

Phillips, D., Burwood, S., & Dunford, H. (1999). *Projects with young learners*. Oxford: Oxford University Press.

Ribé, R., & Vidal, N. (1993). *Project work: Step by step*. Oxford: Heinemann International.

佐藤学 (2005). 「フィンランドの教育の優秀性とその背景—PISA 調査の結果が示唆するもの—」『教育』6月号, 25-32.

白土厚子 (2015). 「小平市立十五小学校—担任と JTE の学習及び協働教育—」吉田真理子・田近裕子編著『生きる力を育む初等英語教育—津田塾大学からの提言—』(pp. 179-198) 朝日出版.

白土厚子 (2019). 「We Can! を使ったプロジェクト重視の英語学習の実践」*JES Journal*, Vol. 19, 4-19.

白土厚子 (2022a). 「小学校外国語科検定教科書と We Can! の比較分析—4 技能の言語活動の視点から—」『言語文化研究所報』第 37 号, 110-124.

白土厚子 (2022b). 「小学校高学年の教科書を活用したプロジェクト重視の指導—実施可能な指導と評価の一体化を目指して—」『全国英語教育学会第 47 回北海道研究大会発表予稿集』246-247.

白土厚子 (2022c). 「プロジェクト重視の指導」言語文化研究所早期英語教育研究会(編)『創造的な学びを育む初等英語教育—時代を超えて生き続ける理論と実践—』(pp. 92-101) 朝日出版.

Shirado, Atsuko. (2023). Project-Oriented Instruction and Evaluation Using the Certified Textbook: Through Two-Year Practice for Sixth-Grade Students. *Tsuda Review*, No. 68, 101-131.

白土厚子. (2024). 「活動と教科をつなぐプロジェクト重視の指導と評価—5年生の外国語科の実践から見えてきたもの—」『津田塾大学紀要』No. 56, 115-136.

高島英幸 (2005). 『英語のタスク活動とタスク-34 の実践と評価』大修館書籍.

田中茂範 (2009). 「小学校の英語教育を考える—プロジェクトとしての英語活動」『英語教育』6月号, 60-63.

田山享子 (2020). 「小学校高学年『教科』外国語に向けた自己評価改善の試み—新学習指導要領が育成を目指す資質・能力に基づいて」『共栄大学研究論集』185-199

【実践編】

I. 実践の概要と評価の枠組み

1. 実践の概要

プロジェクト重視の指導の基本的枠組み(研究編 II-1 参照)で説明したように、本プロジェクト重視の英語指導の特徴は2つある。まず、教科書の活用である。教科書を活用したプロジェクトを設定することで、新たなプロジェクトやそれに伴う様々なタスク活動を授業に組み込む必要がなく、学級担任(あるいは教科担任等の担任以外の指導者を含む:以降これらの指導者の代表として担任とする)が日頃の授業を進めながら目の前の児童に合わせて教科書の活動をアレンジしたり、活動を取捨選択したりしながらゴール達成を目指す。さらに、単元を組み合わせて一つのプロジェクトを設定すれば、児童の単元の学びを活用し、さらに学習を深めることができる。たとえば、担任は、単元のゴールでの言語活動(やり取りや発表)後に振り返りの時間を設け、児童に担任や友達からのフィードバックも参考にさせながら、やり取りや発表の内容や方法を児童自身で改善させたり、調べ学習や協働学習等でさらにプロジェクトの内容を深めさせたりして、学期末に児童がプロジェクトのゴールをしっかりと達成できるよう支援することができる。本実践では、ONE World Smilesを使用しているが、小学校外国語科5・6年生の検定教科書分析(白土, 2022a)を基に、他の教科書と共通性のある単元を選択しているため、他の教科書でも同様のプロジェクト重視の指導が可能である(実践編 II-1 ONE WORLDと各教科書関連表参照)。

次に、指導と評価の一体化である。プロジェクト重視の指導の基本的枠組み(研究編 II-1 参照)で述べたように、指導計画と評価計画を同時に立てることが大切である。本実践を学習状況の評価とつなげる手立てとして、単元毎にパフォーマンステスト(話すこと[やり取り][発表])を行い、その後児童が自分のできたことを認め、次への課題を見つけるための振り返りを行うことで、自己調整能力を養うことを目指す。学期末には児童が達成したプロジェクトまでの過程とそのゴールの内容にそって、「聞くことクイズ(聞くこと)」「(付録3参照)」「個別インタビュー(話すこと[やり取り])」「アルファベットクイズ(読むこと・書くこと)」「(付録4参照)を行う。「パフォーマンステスト」を加えたこれらの多角的評価においては、担任と児童の負担感を軽減し実施可能性を高めるため、「聞くことクイズ」「個別インタビュー」「アルファベットクイズ」においては、ALTやJTEとのチームティーチングを活用する。さらに、学期毎に児童の「英語学習アンケート」(付録1参照)と「Can-Do自己評価アンケート」(付録2参照)を実施し、必要に応じて児童と担任の「自由記述アンケート」も加えながら、児童の情意面での変化を調べ、その後の授業内容や指導の改善を指導者間で図っていく。

(1)教科書を活用した実践プロジェクト

【6年生】

ONE WORLD Smiles 6(小泉・加賀田, 2020b)を使用したプロジェクト重視の指導*(表61参照)では、どの学期でも①「相手意識と必然性」と②「単元発表を活かす」ことを重視した。

(*教科書を活用したプロジェクト重視の指導年間計画と指導概略に2024年度版 ONE WORLDと他5社の教科書の関連表を示している。)

【2022年度・2023年度】

表 61. 6年生学期毎のプロジェクトの単元とゴール

	組み合わせたプロジェクトの単元	プロジェクトのゴール
一学期	Lesson 1: Let's be friends. 自己しょうかい Lesson 2: My town is beautiful. おすすめの場所 Lesson 3: Welcome to Japan. 好きな日本の文化	留学生との交流会で毎毎に「地域のお勧めの場所と好きな日本文化」を紹介する
二学期	Lesson 4: My Summer Vacation 夏休みの思い出 Lesson 5: What country do you want to visit? 行きたい国 Lesson 6: Olympics and Paralympics 世界で活躍するスポーツ選手 Lesson 8: What do you want to be? 将来の夢	留学生との交流会で、自己紹介後、児童と留学生は互いに「将来の夢」を発表し合う
三学期	Lesson 7: My Best Memory 小学校の思い出 Lesson 9: Junior High School Life あこがれの中学校生活	学年で「小学校の思い出と中学校でしたいこと」を発表し合う

注) 本研究は、1学期と2学期を中心としている。

【6年生 1学期】

①「相手意識と必然性」

事前交流として留学生から自己紹介カードをもらい、児童から招待状を送り相手意識を高めた。また、児童たちは初めて会う留学生に英語で自己紹介する必然性を感じ、分かりやすい自己紹介を考えた(Lesson 1)。交流会に参加する小学校近郊の大学の留学生に、同じ地域に住んでいるからこそ知ってほしい情報を総合的な学習の時間の地域学習や調べ学習をヒントに選んだ(Lesson 2)。さらに、日本語や日本文化を学びに来ている留学生に、事前交流の自己紹介カードで知った留学生の好みも踏まえて、児童の好きな日本文化や日本食を選び(Lesson 3)、留学生に伝わるように英語で紹介した。

②「単元発表を活かす」

児童は、単元発表後の振り返りの成果と課題をもとに、プロジェクトのゴールでのより良い発表を考えた。ただし、2020年度、2021年度はコロナ禍で外部の人との交流の経験が全くなかったため、スモールステップで相手に伝える方法を工夫し練習できる機会を設けた。Lesson 1の個人発表では、4人班のメンバーを半分ずつ変えながら繰り返し互いにアドバイスし合い、聴き手に伝わる工夫を考えた。Lesson 2の班発表では、クラスで行った後公開授業でも発表を行い、クラスメート以外の聴衆のコメントも参考に少しずつ自信をつけていった。Lesson 3の個人発表では、Lesson 1同様班のメンバーを変えて発表を繰り返した後、クラスを2つに分けより大きな聴衆に向けて発表を行った。

【6年生 2学期】

①「相手意識と必然性」

12月の交流会では、1学期同様9月に来日した初めて会う留学生に自己紹介する必然性が生まれ、1学期の交流会の経験を活かした紹介を考えた。また、卒業文集作成時期と重ねることで、横断的に学習を進め、現在児童が考えている将来の夢をどのように伝えたら自分の気持ちが伝わるか、その工夫

を考えさせた。さらに、留学生のことを身近に感じ、コミュニケーションしたいという意欲が増すよう、Lesson 5・6で学習した国以外に留学生の出身地の国々も事前学習する機会を設けた。

②「単元発表を活かす」

Lesson 4 の個人発表では、Lesson 3 同様に小さな集団から大きな集団へと発表の聴衆を増やしていった。Lesson 5 では、班内で旅行会社の社員と客の役割を設定し、よりわかりやすいやり取りを目指した。Lesson 6・7 では、クラスを 2 つに分けて Lesson 4・5 より大きな聴衆に向けて個人発表を行い、児童が発表に慣れ様々な自己表現の工夫を試せるようにした。

【5 年生】

5 年生の検定教科書 *ONE WORLD Smiles 5* (小泉・加賀田, 2020a) を使用したプロジェクト重視の指導* (表 62 参照) でも、①「相手意識と必然性」と②「単元発表を活かす」ことを重視した。

(*教科書を活用したプロジェクト重視の指導年間計画と指導概略に2024年度版 *ONE WORLD* と他の 5 社の教科書の関連表を示している。)

【2022 年度・2023 年度】

表 62. 5 年生学期毎のプロジェクトの単元とゴール

	組み合わせたプロジェクトの単元名	プロジェクトのゴール
一学期	Lesson 1: Nice to meet you. 自己しょうかいしよう Lesson 2: When is your birthday? たんじょう日カレンダーをつくろう Lesson 3: I have P.E. on Monday. 夢の時間わりをつくろう	留学生との交流会で各児童が「自己紹介と夢の時間割の発表」をする
二学期	Lesson 4: This is my dream day. 自由な一日の過ごし方を伝えよう Lesson 5: I can run fast. みんなの「できること」を集めよう Lesson 6: Where do you want to go? 行ってみたい都道府県を伝えよう	学年交流会で各自の自由な一日の過ごしかたを紹介した後、都道府県クイズを出し、行ってみたい都道府県の魅力を伝える

注) 本研究は、1 学期と 2 学期を中心としている。

【5 年生 1 学期】

①「相手意識と必然性」: 6 年生同様事前交流として留学生から自己紹介カードをもらい、児童から招待状を送り相手意識を高めた。また、児童たちは初めて会う留学生に英語で自己紹介する必然性を感じ、1 学期に学習した誕生日を含めた表現を使って分かりやすい自己紹介を考えた (Lessons 1, 2)。また、留学生のことを身近に感じコミュニケーションしたいという意欲が増すよう、留学生の出身地の国々について事前学習する機会を設けた。

②「単元発表を活かす」: 児童は、単元発表後の振り返りの成果と課題をもとに、プロジェクトのゴールに向けて、より良い発表を考えた。ただし、多くの児童は外国語活動 (3, 4 年生) では個人発表の経験が

ほとんどなく、さらに 2020 年、2021 年はコロナ禍で外部の人との交流の経験も全くないため、スモールステップで相手に伝える方法を工夫し、練習できる機会を設けた。Lesson 1, Lesson 2 の単元末のやり取りでは、4 人班のメンバーを半分ずつ変えながら繰り返し互いにアドバイスし合い、聴き手に自分の気持ちを伝える工夫を考えた。Lesson 3 の個人発表では、小さな集団から大きな集団へと発表の聴衆を増やし、児童が発表に慣れ、少しずつ自信をつけていけるようにした。また、児童が言語活動に取り組む間に担任は、中間評価を入れたり、児童同士のアドバイスを活性化させたりしながら、児童が自己表現の工夫を少しずつ試せるようにした。さらに、児童は単元毎に振り返りを行い、担任とともに成果と課題を確認し、見通しをもって次の単元に取り組めるようにした。

【5年生 2 学期】

- ①「相手意識と必然性」：児童たちは、学習した内容を活かして「自由な一日の過ごし方」や「自分が選んだ都道府県の魅力」をクラスメートに伝えるには、どうしたらよいかを考えた。自由な一日にしたいことを伝えるための英語表現を辞書で調べたり、都道府県の魅力を社会の教材やインターネットで調べたりしながら、ただ調べたことを発表するのではなく、友達が知らない表現や内容をどう伝えるか工夫することで、相手意識が高まった。さらに、プロジェクトのゴールでは、単元の発表の内容をクイズ形式にすることで、ゴール達成への意欲が高まり、クイズを行うことで意味のあるやり取りが生まれた。
- ②「単元発表を活かす」：Lesson 4 の個人発表は、グループ内で発表後、ジェスチャーや話し方でアドバイスをもらい修正しながら、さらにクラスを 2 つに分けて発表を行った。Lesson 5 では、グループ内でできることを実演したりする児童も見られ、1 学期の経験をもとに自信をもって発表する姿が観察できた。Lesson 6 では、社会科等の知識を活かし、興味をもってクラス全体での発表に取り組めた。学期末のプロジェクトとして学年交流会で他のクラスの友達に、発表の内容を活かして都道府県クイズを出すことで、プロジェクトのゴール達成への意欲が一層高まった。

2. 評価の枠組み

研究計画と実施方法（研究編 III）や研究の考察（研究編 V）で述べた通り、指導と評価の一体化を図るため、プロジェクトのゴールや学習内容を「聞くことクイズ（聞くこと）」（付録3参照）「アルファベットクイズ（読むこと・書くこと）」（付録4参照）「個別インタビュー（話すこと[やり取り]）」で評価した。「聞くことクイズ」と「個別インタビュー」はどちらも、文脈の中で児童が理解しているかを評価するため、単語だけでなく目的、場面、状況などに応じて文脈全体から内容を理解しようとしているか、つまり「知識・技能」に基づく「思考・判断・表現」力の評価を目指した。また、プロジェクトのゴールを評価に活かすため、児童が学んだことを基に自分の考えや気持ちを伝えようとしているかという「主体的に学習に取り組む態度」につながるように作成し、平均到達度（%）で調べた。本プロジェクト重視の英語指導と評価の一体化では、これら「聞くことクイズ」「個別インタビュー」「アルファベットクイズ」に「単元毎のパフォーマンステスト（話すこと[発表][やり取り]）」を加えた 4 技能・5 領域の評価を目指した。（「聞くことクイズ」「個別インタビュー」「アルファベットクイズ」の評価の枠組みは、IV-1 分析方法で示した内容と一部重複する。）

【聞くことクイズ】

聞くことクイズは、3 人の話し手が児童のプロジェクトのゴールでの発表と同じテーマで自己紹介し、そ

れを聞きながら適切や絵や数字、ローマ字を線で結び、最後に各話し手の内容を日本語で記述する。所要時間は、約 15 分から 20 分であった。特徴として、①自己紹介として内容が繋がっていて、しかも1つの問題に 2 文以上の英文で表現するものもあるため、周辺情報があり文脈の中で考えられる。②ゴールである児童の発表テーマと発表形式を活かしているため、児童は話の流れを推測できる。③教科書の *Let's Listen* と類似の問題形式(線つなぎと内容記述)となっているため児童が解答方法を理解できる。④ALT が目の前で話すので、緊張せずに安心して取り組める可能性が高い。(付録 3 参照)

【個別インタビュー】

個別インタビューの所要時間は一人 3 分程度であった。特徴は、①担任や ALT、JTE で事前に評価基準(表 1 参照)を決め、評価への共通認識を持って取り組んだ。②児童のプロジェクトのゴールで発表した内容中心にインタビューをし、指導と評価の一体化を目指した。③児童が見通しをもって取り組めるよう、インタビューの質問ではなく、インタビューのトピックと評価基準を事前に児童に分かりやすく説明した。④ALT と JTE が主にインタビューを担当し、担任はその場で観察評価を行うため、担任の負担感が軽減され、児童は聞き慣れている英語で直接話かけられるため、児童にも負担感が少ない方法と考える。3 者の評価が異なる場合は評価基準を基に話し合い、評価が分かれた場合は最終的に平均値とした。

表 1 個別インタビュー評価基準(ルーブリック)*

内容[やり取り] 知識・技能 + 思考・判断・表現	支援なしに意味のある文章**で内容を伝えることができる(3点)			
	少しの支援で意味のある文章で内容を伝えることができる(2点)			
	支援をもらっても文章にはならず、キーワードのみで伝える(1点)			
態度[やり取り] 主体的に学習に 取り組む態度	eye- contact	終始しっかり相手を見て話す(3点)	だいたい相手を見て話す(2点)	殆ど相手を見ずに話す(1点)
	clear voice	はっきりとした声で話す(3点)	だいたい聞こえる声で話す(2点)	聞き取りづらい(1点)

注)*再掲: IV-1 と同じ

**複数形や冠詞の間違いがあっても文脈の中で意味がしっかり伝われば意味のある文章とする。

【アルファベットクイズ】

学習した内容を通してアルファベット文字認識を平均到達度(%)で調べた。外国語科の読むこと・書くこと目標を達成するため、帯学習として Alphabet Time の時間(約5分)を授業に取り入れた。アルファベットクイズ(付録 4 参照)で毎回出題しているアルファベット文字の名前読みと音読み、さらに自分の名前を 4 線にローマ字で書く問題(表 2 参照)は、年間を通してその学習状況の評価を行い、次の指導案の改善や指導計画の調整に活かした。さらに、プロジェクトの過程とゴールで必要となった内容関連語に関して、音から選択式でつづりを答える問題、音とつづりから意味を答える問題(意味は学習時間等により、選択式と自分で考えて書く形式の 2 種類を作成)と文章の音声と文字から意味を答える問題を出題し(研究編 IV-2. 分析結果 表 28, 29, 31, 58, 59, 60 参照)、音とつづり(文字)と意味の 3 要素のつながりから、アルファベット文字認識の定着状況調べた。

表2. アルファベットクイズ問題の種類*

1.	アルファベットの名前読みから文字を選択する問題
2.	アルファベットの音読みから文字を選択する問題
3.	内容関連語の読みから選択式でつづりを答え、読みとつづりから意味を日本語で記入(あるいは選択)する問題
4.	内容関連文の読みとつづりから意味を書く問題
5.	ヘボン式ローマ字で名前を4線に書く問題

注)*再掲: IV-1と同じ

このように、ゴール達成を目指すプロジェクト重視の指導の中で評価をすることで、指導と評価の一体化と数値による具体的・客観的評価を実現できる可能性が高くなる。「聞くことクイズ」「個別インタビュー」「アルファベットクイズ」を活用し、学習した内容を単なる断片的な知識としてではなく、文脈の中で活かせるかを評価する手立てとすることで、児童が「知識・技能」を活用して目の前の課題を解決するために必要な「思考・判断・表現」力や「主体的に学習に取り組む態度」を身に付けているかの評価につなげやすく、多角的な評価、4技能・5領域に関する言語的評価となりうる。

II 教科書を活用したプロジェクト重視の指導年間計画と指導概略

I-A. ONE WORLD と各教科書との関連表 [2024年度版]

5年生、6年生それぞれの2024年度版 ONE WORLD と他の5社の教科書単元関連表です。
お使いの教科書との関連をご確認頂けます。教科書を活用したプロジェクト重視の指導案の年間計画をご覧になる際、ぜひ参考にしてください。

【2024年度版・5年生】

	A	B	C	D	F
1 学期 ONE WORLD Smiles 5					
Lesson 1 あなたのことを友達に知ってもらおう 名前のつづり、好きのもの、自己紹介の表現	Pre Unit	L. 1, 2	Unit 1	L. 1	Unit 1
Lesson 2 クラスの誕生日カレンダーを作ろう 月名、序数、身のまわりの物、誕生日の表現	Unit 1	L. 1	Unit 2	L. 2	Unit 2
Lesson 3 夢の時間割をつくろう 教科、曜日、時間割の表現	Unit 2	L. 5	Unit 3	L. 3	[6] Unit 2
2 学期 ONE WORLD Smiles 5	A	B	C	D	F
Lesson 4 自由な一日があつたら何をしてみたいか伝えよう 時刻、日課・習慣・頻度、一日の過ごし方の表現	Unit 3	L. 5	[6] Unit 3	[6] L.3	[6] Unit 2
Lesson 5 クラスみんなの「できること」を集めよう he/she、動作動詞、副詞、できることの表現	Unit 4	L. 4, 5	Unit 4	L. 4	Unit 3
Lesson 6 海外の友だちと行ってみたい都道府県を伝えよう 四季、形容詞、どこに行きたいかと理由の表現	Unit 6	L. 6, 7	[6] Unit 6	[6] L. 5	[6] Unit 4

<注>

A: Blue Sky 5, B: Crown Jr. 5, C: Here We Go! 5, D: Junior Sunshine 5, F: New Horizon Elementary English Course 5

L: Lesson, G.R.: Get Ready, [6]: 6年生の教科書

【2024 年度版・6 年生】

	A	B	C	D	F
1 学期 ONE WORLD Smiles 6					
Lesson 1 友達のことを知って仲良くなろう 好きなこと、誕生日、できること、得意なこと、自己紹介	Unit 1	L. 1	Unit 1	L. 1	Unit 1
Lesson 2 町の魅力を海外の友達に伝えよう 場所(施設・建物)、自然、好きな場所、できること	Unit 3	L. 2	[5] Unit 8	[5] L. 7	[5] Unit 5
Lesson 3 日本の良さを紹介しよう 日本の伝統的文化・行事、四季、月、味覚(形容詞)	Unit 2	L. 2	Unit 2	L. 2	[5] Unit 7
2 学期 ONE WORLD Smiles 6	A	B	C	D	F
Lesson 4 夏休みにしたことを絵日記にして伝えよう 動詞の過去形、感想(形容詞)、月・日、語順	Unit 4	L. 3	Unit 4	L. 4	Unit 3
Lesson 5 夢の世界ツアーを紹介しよう 行きたい国(国・地域名)、したいこと、できること	[5] Unit 8	[5] L. 7	[5] Unit 6	L. 5	Unit 4, 5
Lesson 7 将来の夢を発表しよう 職業名、将来の夢の表現、応援の表現	Unit 7	L. 6	Unit 7	L. 7	Unit 8
3 学期 ONE WORLD Smiles 6	A	B	C	D	F
Lesson 6 クラスの「思い出アルバム」を作ろう 学校行事・生活、動詞の過去形、感謝の表現、形容詞	Unit 6	Unit 2 L. 5	Unit 8	L. 6	Unit 7
Lesson 8 中学校でしたいことを発表しよう 学校行事・部活動、既習表現の復習	Unit 8	L. 7	Unit 7	L. 8	Unit 8

<注>

A: Blue Sky 6, B: Crown Jr. 6, C: Here We Go! 6, D: Junior Sunshine 6, F: New Horizon Elementary English Course 6

L: Lesson, G.R.: Get Ready, [5]: 5 年生の教科書, Pre: Presentation, Pro.: Project, C.Y.S.: Check Your Steps

I-B. ONE WORLD と各教科書との関連表 [2020年度版]

参考に、本研究資料とした小学校外国語検定教科書比較分析(白土, 2020)に基づく、5年生、6年生それぞれの2020年度版 ONE WORLD と他の6社の教科書単元関連表を表示しています。

【2020年度版・5年生】

	A	B	C	D	E	F
1 学期 ONE WORLD Smiles 5						
Lesson 1 自己紹介しよう 名前のつづり、好きのもの、自己紹介の表現	Pre Unit	G.R. 1	Unit 1	L. 1	L. 1	Unit 1
Lesson 2 誕生日カレンダーを作ろう 季節、月名、序数、誕生日の表現	Unit 1	L. 1	Unit 2	L. 2	L. 7	Unit 2
Lesson 3 ゆめの時間割をつくろう 教科、曜日、職業、時間割の表現	Unit 2	L. 5	Unit 3	L. 3	L. 3	Unit 3
2 学期 ONE WORLD Smiles 5	A	B	C	D	E	F
Lesson 4 自由な一日の過ごし方を伝えよう 時刻、日課、頻度、一日の過ごし方の表現	Unit 3	L. 4	Unit 4	[6] L.2	L. 5	[6] Unit 2
Lesson 5 みんなの「できること」を集めよう he/she、動作動詞、できることの表現	Unit 4	L. 2	Unit 5	L. 4	L. 6	Unit 4
Lesson 6 行ってみたい都道府県を伝えよう どこに行きたいかとその理由の表現	Unit 6	L. 7	Unit 6	[6] L. 3	L. 9	[6] Unit 3

<注>

A: Blue Sky 5, B: Crown Jr. 5, C: Here We Go! 5, D: Junior Sunshine 5, E: Junior Total English 1, F: New Horizon Elementary English Course 5

L: Lesson, G.R.: Get Ready, [6]: 6年生の教科書

【2020 年度版・6 年生】

	A	B	C	D	E	F
1 学期 ONE WORLD Smiles 6						
Lesson 1 自己紹介 好きなこと、誕生日、できること、自己紹介(趣味)	Unit 1	L. 1	Unit 1	L. 1	L. 1	Unit 1
Lesson 2 おすすめの場所 町にあるもの(施設名・建物)、自然、好きな場所	Unit 3	L. 2	Unit 6	[5] L. 9	L. 5	C.Y.S. 2
Lesson 3 好きな日本の文化 日本の伝統的文化的、行事、食べ物(味覚)	Unit 2	L. 2 L. 7	Unit 2	L. 7	L. 3	[5] Unit 7 [5] C.Y.S. 3
2 学期 ONE WORLD Smiles 6	A	B	C	D	E	F
Lesson 4 夏休みの思い出 夏休みにしたこと、感想(形容詞)、過去形	Unit 4	L. 3	Unit 4	L. 6	L. 4	Unit 4
Lesson 5 行きたい国 行きたい国(国・地域名)、したいこと、できること	[5] Unit 6	[5] L. 7	[5] Unit 6	L. 3 L. 5	[5] L. 9	Unit 3
Lesson 6 世界で活躍するスポーツ選手 競技名、好きなスポーツ選手紹介	Unit 1 Did you know?		Unit 3 Unit 5	Pro. 1 L. 8	L2 Word Corner	
Lesson 8 将来の夢 職業名、将来の夢の表現、応援の表現	Unit 7	L. 6	Unit 8	L. 10	L. 8	Unit 8
3 学期 ONE WORLD Smiles 6	A	B	C	D	E	F
Lesson 7 小学校の思い出 学校行事・生活、思い出や感謝の表現、感想	Unit 6	Pre. 2	Unit 7	L. 9 Pro. 2	L. 7	Unit 7
Lesson 9 あこがれの中学校生活 中学校でしたい部活動、楽しみたい学校行事	Unit 8		Unit 9	L. 11	L. 10	Unit 8

<注>

A: Blue Sky 6, B: Crown Jr. 6, C: Here We Go! 6, D: Junior Sunshine 6, E: Junior Total English 2, F: New Horizon Elementary English Course 6

L: Lesson, G.R.: Get Ready, [5]: 5 年生の教科書, Pre: Presentation, Pro.: Project, C.Y.S.: Check Your Steps

II 教科書を活用したプロジェクト重視の指導年間計画と指導概略 (ONE WORLD Smiles)

2. 5年生年間計画と指導概略

【1学期】留学生に自己紹介をして、夢の時間割を発表しよう!

プロジェクトのゴール (22回)
初めて学校を訪問する同じ地域に住む大学の留学生との交流会で、PC を使いながら自己紹介の後、自分の夢の時間割を発表しその理由を説明できる。また、留学生にわかりやすく話そうとしたり、留学生の話をしっかり聞こうとしたりする。

Lesson 1: 友だちに自分のことを知ってもらい、友だちのことをよく知って、楽しいクラスにしよう!

Lesson 1 のゴール (6回)	
挨拶・名前・好きなものや好きなこと・欲しいものの既習表現を使って、自分のことをわかりやすく紹介できる。聞いている人にわかりやすく話そうとしたり、相手の話をよくこうとしたりする。	
学習内容	言語材料
<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・色・スポーツ・果物・野菜等 好きなものを伝え合う ・アルファベット大文字 ・ローマ字 (ヘボン式) ・リアクション・やりとりの表現 	<p>Hello, I'm (Aya). Nice to meet you. Please call me (Aya).</p> <p>My name is (Kosei). How do you spell your name? (M-I-K-A, Mika). Do you like blue? Yes, I do. No, I don't. I like (dogs). What (sport) do you like? I like (soccer). I have (a glove). What do you want? I don't have (a bat). I want (a ball). Oh. I see. Really? Great! Me, too. How about you?</p>

*太字は新出語句(表現)や重要表現

Lesson 1: 自分のことを友だちに知ってもらい、友だちのこともよく知って、楽しいクラスにしよう!

Lesson	活動項目	内容								
【1-1】 ゴール確認	【プロジェクトのゴール】 【単元のゴール】	テキストを開き、外国語の学び、1学期のプロジェクトのゴール、そのための本単元のゴールを確認する								
Watching Song/Game	Let's Watch①/Let's Sing (p. 14)+Missing Game	単元のゴールをイメージする→ABC Song を楽しく歌う→アルファベット大文字を使ってペア対抗								
Listening	Let's Listen-1 (p. 16)	I like... / I don't like ...の内容を聞き取る								
リアクション	Let's Think-2 (p. 18)	リアクションの大切さや様々なリアクションを知る								
Small talk (やり取り)	友だちの好きなものを知ろう! ① HRT/ALT 等のモデル ② HRT と Class でやりとり ③ ペアでやり取り	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>A/B: Hello!</td> <td>A: I like</td> </tr> <tr> <td colspan="2">B: Oh, I see./Me, too./Really?</td> </tr> <tr> <td colspan="2">A: How about you?</td> </tr> <tr> <td colspan="2">B: I like</td> </tr> </table>	A/B: Hello!	A: I like	B: Oh, I see./Me, too./Really?		A: How about you?		B: I like	
A/B: Hello!	A: I like									
B: Oh, I see./Me, too./Really?										
A: How about you?										
B: I like										

Alphabet (大文字)	④ 良かった点を評価 The Alphabet-I 3 5 (p. 22-23)	A: Oh, I see./Me, too./Really? A/B: Bye. アルファベットの大き文字を読みながら線つなぎ アルファベットの大き文字のなぞり書き
【1-2】 Review Small talk へボン式ローマ 字 自分の名前	Let's Sing (p. 14) Let's Listen-I の語句 I like/I don't like (前時同様①②③④の順) The Alphabet-I 1 2 (p. 21) 巻末ローマ字表	歌わない文字を加え ABC Song を楽しく歌う 語句(色・スポーツ・果物等)の復習(p. 16) Hello, I'm (Kana). I like (pink). I don't like (onions). How about you? 身近なローマ字→へボン式ローマ字 自分の名前をへボン式ローマ字表で確認→名前 のアルファベットを指しながら読む→異なるペアで 確認
【1-3】 Chant Small Talk (やり取り) Small Talk	Let's Sing (p. 14) Let's Say It Together (p. 17) What color do you like? (前時同様①②③④の順) I have/I want の復習 (HRT/ALT/JTE がジェスチ ャーをしたり、実物を見せたり しながら聞かせる)	歌わない文字に拍手をし、ABC Song を楽しく歌う ゆっくりで聞かせどんな言葉が聞こえてきたか引き 出す→意味の確認→言えるところから言ってみる A/B: Hello. A: What color/food/sport do you like? B: I like ... A: I see./Me, too./ Really?等 B: What color/food/sport do you like? A: I like ... B: I see./Me, too./Really?等 I like... I have..., I want ...を思い出させる A: Hi, I like (tennis). I have (a racket). I want (new balls). How about you? B: I like (basketball). I have (shoes). I want (a new uniform).
Listening	Let's Listen-2 (p. 17)	語句の確認→2-3 回聞かせる→ペアで答えを確 認→Key sentences を使い児童の気持ちで言う I like (baseball). I have (a bat). I want (new shoes).
Alphabet	アルファベット大文字	巻末のアルファベットカードを順番に並べる
【1-4】Chant Watching やり取り	Let's Say It Together (p. 17)+ Let's Watch②③ Activity-I (p. 18) (①②③の順)	普通の速さで繰り返しのところをしっかりと言う Key sentences の意味を児童から引き出し確認 事前に相手の好みを予想し、必然性を高める A/B: Hello. A: What color do you like? B: I like (blue). A: I see./Me, too./Really?等

やり取り	<p>④予想が当たっていたか確認し、良かった点を評価する</p> <p>Activity-2 (p. 19)前半</p> <p>・動画を見てやり取りの内容を知る</p> <p>(①②③④の順)</p>	<p>*ABを交代して同様のやり取りをする</p> <p>*colorの後 sport, animal, vegetableを尋ねる</p> <p>動画を見て、聞き取れた内容を児童から引き出す</p> <p>→How do you spell your name?の確認→自分の名前のアルファベットを確認(ローマ字表)</p> <p>A: Hello, I'm (Mika)</p> <p>B: How do you spell your name?</p> <p>A: (M-I-K-A, Mika).</p> <p>B: I see. I'm (Junji)</p> <p>A: How do you spell your name?</p> <p>B: (J-U-N-J-I, Junji).</p> <p>A: Oh, I see. Nice to meet you, (Junji).</p> <p>A: Nice to meet you, too, (Mika).</p>
Alphabet	アルファベット大文字	ABC Songを歌ってアルファベットカードを並べる
【1-5】Chant Watching Listening 発表準備	<p>Let's Say It Together (p. 17)/Let's Watch④</p> <p>Activity-2 (p. 19)後半</p> <p>・キーボードの配列を確認</p> <p>・教科書の①～④の名前をキーボードでタッチする</p> <p>Final Activity (p. 20)準備</p> <p>発表の目的とやり方の確認</p> <p>HRT/ALT/JTEモデル提示</p> <p>児童が伝えたいことを考える</p> <p>発表練習</p>	<p>最初から普通の速さで一緒に言う</p> <p>聞き取れた表現を児童から引き出す</p> <p>アルファベット順に教科書のキーボードをタッチする</p> <p>個人差に注意し、デジタル音声以外HRT等が読みながら、書画カメラ等でキーボードを映し、確認する</p> <p>Final Activityの目的(Lesson 1のゴール)を確認し動画を見て発表に大切なことを引き出す</p> <p>(clear voice, smile, gesture, eye-contact)</p> <p>教科書(p. 20)を使って伝えたいことをメモする</p> <p>個人→ペア→グループ等で発表しあい、より良くなるようアドバイスし合う</p>
<p>SI: Hello.</p> <p>Class: Hello.</p> <p>SI: I'm (Mika). (M-I-K-A, Mika). Please call me (Mika).</p> <p>I like (colors/sports/animals/fruits等). I want (a new bag). Thank you.</p> <p>Class: Nice!/Good!/ Great!/Me, too.等</p>		
Alphabet	アルファベット大文字	アルファベット表を読みながらZからカードを並べる
【1-6】 Chant	Let's Say It Together (p. 17)	クラスを質問と答えの2つのグループに分けやり取りさせる→カラオケで自分の好きな答え言う

発表	Final Activity (p. 20) 大切なポイントの確認→事前練習→発表→友だちの良かった点をクラスで共有→児童の良かった点を評価→各児童の振り返り(教科書 p. 23や振り返りシート等を活用)	やり取りの練習をたっぷり行う 児童の実態により、グループや全体で発表を行う *評価基準を決めルーブリック(実践の概要参照)を作成して、パフォーマンス評価を行う。 *児童の振り返りでは、「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる
振り返り		
Alphabet	アルファベット大文字	アルファベット表を読みながらZからカードを並べる

Lesson 2 クラスの誕生日カレンダーを作ろう!

Lesson 2 のゴール (6 回)	
自分の誕生日や誕生日に欲しいものを伝え合い、クラスの誕生日カレンダーを作ることができる。また、相手にわかりやすく話そうとしたり、言葉で人とかがわる楽しさを感じ、相手の話を聞こうとしたりする。	
学習内容	言語材料
<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日の伝え方や尋ね方 ・12 か月、季節、序数 ・大きな数 ・世界の祭りや行事 ・アルファベット小文字 	<p>My birthday is (January 8th). When is your birthday? January ~December. 季節 (spring, summer, autumn/fall, winter).序数(first, second, third, fourth...). What season do you like? I like (summer). How many (monkeys) do you see? (Twelve).</p>

*太字は新出語句(表現)や重要表現

【2-1】	【単元のゴール】	単元のゴールを共有する
Watching	Let's Watch①⑧	12 か月の行事で1月・8月の日本の説明を視聴
Song	Let's Sing	January~Decemberの表現を導入
Game-1	Keywrod Game	巻末の12か月の月名カードで行う
Game-2	Bingo Game	巻末カードを机上に3x3で並べ班毎に代表が言う
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Class: What month do you like? Group 1: I like (April). Class: (Aprilがあつたら)Me, too.(裏返す)</p> </div>
Listening	Let's Listen-1 (p. 26)	季節の表現を児童から引き出す→視聴し答えをペアで確認→答え合わせ→季節と関連表現を確認
Alphabet (小文字)	The Alphabet-1 ③⑤ (p. 32-33)	Aから順番に言いながらゆっくり小文字の線つなぎ4線の位置に注意させながら小文字のなぞり書き

<p>【2-2】</p> <p>Watching</p> <p>Song/Review</p> <p>やり取り</p> <p>Review</p> <p>Listening</p> <p>Alphabet</p>	<p>Let's Watch (2 つ)</p> <p>Let's Sing</p> <p>12 か月と季節の語の復習</p> <p>Activity-1 (p. 26)</p> <p>① HRT/ALT 等のモデル</p> <p>② HRT と Class でやりとり</p> <p>③ ペアでやり取り</p> <p>④ どの季節が人気か確認</p> <p>Numbers 復習</p> <p>11 以降 31 までをしっかりと確認する</p> <p>Let's Listen-2 (p. 28)</p> <p>Alphabet 小文字</p>	<p>児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有</p> <p>歌いながら児童の誕生日で立たせる</p> <p>絵文字カードで確認</p> <p>児童に好きな季節を決めさせる・このクラスで人気の季節を予想させる→AB を交代してやり取り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello</p> <p>A: What season do you like?</p> <p>B: I like (spring).</p> <p>A: I see./Nice!/Good!/Me, too.等</p> </div> <p>1-31 の言い方と How many?の表現を復習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>HRT: How many pencils do you have? (児童に数えさせる)</p> <p>SI: (Seven. Seven pencils.)</p> </div> <p>教科書の絵の表現を確認→一問ずつ聞かせ、一緒に数えて答え合わせ</p> <p>ABC Song を歌いながら、小文字カードを並べる</p>
<p>【2-3】</p> <p>Song 他</p> <p>Listening</p> <p>Chant</p> <p>Listening</p> <p>やり取り</p> <p>Alphabet</p>	<p>Let's Watch (2 つ)</p> <p>Let's Sing ・12か月復習</p> <p>Let's Listen-3 (序数) (p. 29)</p> <p>Let's Say It Together (p. 25)</p> <p>Let's Listen-4 (p. 29)</p> <p>日付の言い方導入</p> <p>誕生日を尋ね合う</p> <p>①HRT/ALT 等のモデル</p> <p>②HRT と Class でやりとり</p> <p>アルファベット小文字</p>	<p>児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有</p> <p>歌いながら誕生日で立つ・絵文字カードで確認</p> <p>1st~10th, 11th~20th, 21st~31st に分けて練習→自分の誕生日の日づけに印をつけて、練習</p> <p>ゆっくりのスピードで繰り返しの箇所を言ってみる→</p> <p>Key sentence の確認</p> <p>絵の偉人の情報を児童から引き出す→日付を読む→視聴し解答→ペアで答えを確認→答え合せ→各偉人になって自分の誕生日を言う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: When is your birthday?</p> <p>B: My birthday is (January 10th).</p> </div> <p>*再度序数の確認をする→自分の誕生日を確認</p> <p>ABC Song を歌いながら、小文字カードを並べる</p>
<p>【2-4】</p> <p>Song 他</p> <p>Review</p> <p>Chant</p>	<p>Let's Watch (2 つ)</p> <p>Let's Sing ・12 か月復習</p> <p>季節・序数の復習</p> <p>Let's Say It Together</p>	<p>児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有</p> <p>歌いながら誕生日で立つ・絵文字カードで確認</p> <p>実物のカレンダーで確認→自分の誕生日を言う</p> <p>普通の速さで繰り返しの箇所をしっかりと言う</p>

<p>やり取り-1</p> <p>Small Talk (やり取り-2)</p> <p>やり取り-3</p> <p>Alphabet</p>	<p>誕生日のやり取り-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HRTとClassでやりとり <p>誕生日に欲しいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HRT/ALT等のモデル ・内容を確認→例を挙げて児童が欲しいものを考えさせる <p>誕生日のやり取り-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Final Activityにつなげる <ol style="list-style-type: none"> ① HRT/ALT等のモデル ② HRTとClassでやりとり ③ 児童同士のやり取り <p>The Alphabet-1 4(p. 32) アルファベット小文字</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: When is your birthday? B: My birthday is (January 10th).</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: What do you want for your birthday? B: I want (a bag). A: I see. / Me, too 等</p> </div> <p>・HRTとClassでやりとり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello. A: When is your birthday? B: My birthday is (January 10th). A: (January 10th). Thank you. B: When is your birthday? A: My birthday is (December 27th). B: (December 27th). Thank you. A/B: Bye.</p> </div> <p>アルファベット順に言いながら線結び ABC Songを歌いながら小文字のカードを並べる</p>
<p>【2-5】</p> <p>Song 他</p> <p>Review</p> <p>Chant</p> <p>やり取り</p> <p>Alphabet</p>	<p>Let's Watch (2つ)</p> <p>Let's Sing ・12 か月復習 季節・序数の復習</p> <p>Let's Say It Together</p> <p>Final Activity (p. 30)準備</p> <p>*①②③の順</p> <p>*③は異なるペアでやり取りし アドバイスし合う</p> <p>*ABが交代し、やり取りする</p> <p>*中間評価(良い点を共有)</p> <p>*評価基準を決めルーブリックを作成して、5時6時でパフォーマンス評価を行う</p> <p>アルファベット小文字</p>	<p>児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有 歌いながら誕生月で立つ・絵文字カードで確認 実物のカレンダーで確認→自分の誕生日を言う 普通の速さで最初から言う</p> <p>動画を見せやり取りのイメージを持たせ、誕生日に 欲しいものを考えさせる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello. A: When is your birthday? B: My birthday is (January 10th). A: (January 10th). Thank you. What do you want for your birthday? B: I want (a bag). A: I see. / Good! / Nice! / Me, too. 等</p> </div> <p>アルファベット表で読みながら逆からカードを置く</p>
<p>【2-6】</p> <p>Song 他</p> <p>Review</p>	<p>Let's Watch (2つ)</p> <p>Let's Sing ・12 か月復習 季節・序数の復習</p>	<p>残りの動画視聴→聞こえたことを引き出し共有 歌いながら誕生月で立つ・絵文字カードで確認 実物のカレンダーで確認→自分の誕生日を言う</p>

Chant やり取り	Let's Say It Together Final Activity (p. 30) ・HRTとClassで確認 ・活動の手順を確認 ・クラスの誕生日カレンダー ・友だちの良かった点を発表 ・HRT/ALT等の全体評価	質問と答えのグループに2つに分けて言い合う ゴール「クラスの誕生日カレンダーを作ろう」確認 前時のABのやり取りを練習→5時と異なるペアでやり取りをし、表に誕生日とほしいものをメモする 終了後児童が集めた情報をまとめ作成する *評価基準を決めルーブリックを作成して、5時と6時でパフォーマンス評価を行う
振り返り	・各児童の振り返り	教科書 p. 33 や振り返りシートに記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる
Alphabet	アルファベット小文字	アルファベット表で読みながら逆からカードを置く

Lesson 3 夢の時間割を作り発表しよう!

Lesson 3 のゴール (6回)	
様々な国の子供たちの学校生活の様子や違いを知り、世界共通の学ぶ大切さに気づき、児童が自分の将来の職業と現在の学びを結びつけながら、夢の時間割を考え発表できる。また、友だちの夢の時間割をしっかりと聞いて、友だちの新しい一面に気づいたり共感しようとしたりする。	
学習内容	言語材料
・教科・曜日・職業 ・時間割の表現 ・アルファベット大文字と小文字	I have (math) on (Tuesday). What do you have on (Monday)? I have (Japanese, math, and P.E.) with (Otani Shohei). Good idea!

*太字は新出語句(表現)や重要表現

【3-1】	【単元のゴール】	単元のゴールを共有する
Song	Song (p. 36)	7曜日の復習 (The Seven days of the Week)
New words	教科名の導入(p. 34-35) ・Do you like?でやり取り	児童から日本語で教科名を引き出す→英語導入 HRT: Do you like (math)? Class: Yes. /No
Watching	Let's Watch (1つ)	児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有
国際理解	Let's Think-I	共通点や相違点を話し合う
Chant	Let's Say It Together (p. 34)	繰り返しの箇所を言ってみる→意味を確認→Key sentencesを確認
Game	Keyword Game	教科と曜日でおこなう
Listening	Let's Listen-I	名前と教科名を確認→聞いて解答→ペアで相談

Alphabet	大文字小文字のセット	→答え合わせ→どの時間割が好きか児童に尋ねる 巻末カード大文字と小文字を机上に広げ ABC Song を歌いながらセットにしていく
【3-2】 Song Watching Review Chant Game	Song (p. 36) Let's Watch (1つ) 教科名の復習 Let's Say It Together ・本日の時間割を尋ねる 教科 Bingo	7 曜日の復習 (The Seven days of the Week) 児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有 絵文字カード 繰り返しの箇所をしっかりと言う→Key sentences HRT: What do you have on (Tuesday)? Class: We have (math, English, and P.E.) 巻末の教科カードを3 x 3で並べ班ごとに代表が好きな教科を言う Class: What subject do you like? Group 1: I like (music).
Listening	Let's Listen-2 (p. 37)	曜日を読み絵から人物や内容を推測させる→聞いて解答→ペアで相談→答え合わせ→Key sentences の意味を確認
Alphabet	The Alphabet-3 ① ② アルファベットジングル-前半	大文字小文字のグループ分け アルファベットジングル(前半)を言ってみる
【3-3】 Song Watching Review Chant New words Listening キャリア学習 Alphabet	Song (p. 36) Let's Watch (1つ) 教科名の復習 Let's Say It Together ・本日の時間割を尋ねる 職業名の導入 Let's Listen-3 (p. 38) Let's Think-2 (p. 38) Review ① ② (p. 43) アルファベットジングル-後半	7 曜日の復習 (The Seven days of the Week) 児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有 絵文字カード 繰り返しの箇所をしっかりと言う→Key sentences HRT: What do you have on (Tuesday)? Class: We have (math, English, and P.E.) 絵文字カード 教科名を確認・写真の職業を推測→聞いて解答→ペアで相談→答え合わせ それぞれの職業に大切や教科を考える 大文字小文字のセットと単語のアクセント アルファベットジングル(後半)を言ってみる
【3-4】 Chant Watching Review	Let's Say It Together ・本時の時間割を言う Let's Watch (1つ) 教科名・職業名の復習	普通の速さで最初から一緒に言う →Class で本時の時間割を言う 最後の動画を視聴→聞こえたことを引き出し共有 絵文字カード

やり取り	Activity-2 (p. 37)	A: I study (P.E.) with (Otani Shohei). B: Great!/Wonderful!/I see.等
Listening	①HRT/ALT 等のモデル ②HRTと Class でやりとり Let's Listen-4 (p. 39)	*①で多くの例を挙げ児童がイメージしやすくする 教科名を確認・絵の人物の職業を推測→聞いて解答→ペアで確認→答え合わせ→Key sentencesの確認 (I want to be a doctor.)
発表準備	Final Activity(p. 40)準備 ・次回までに各自夢の時間を考えておく	動画を見て発表のイメージを持つ 夢の時間割のルールをクラスで決める (同じ教科は2時間まで等)
Alphabet	Let's Think-3 (p. 40) アルファベットジングル 大文字と小文字のセット	発表の良い聴き方を児童から引き出す アルファベットジングルを一緒に言う 大文字と小文字のセットを4線に書く→読む
【3-5】 Chant	Let's Say It Together	普通の速さで最初から一緒に言う
Review	・本時の時間割を言う 教科名・職業名の復習	→Classで本時の時間割を言う 絵文字カード+Key sentences
発表準備	Final Activity(p. 40)準備 ① HRT/ALT 等のモデル ・様々な例を提示	各児童に発表内容を考えさせる →オリジナルワークシート**に記入 (**付録5参照) →児童間で練習しアドバイスし合う
Alphabet	① モデルで練習 ② ワークシート 作成 ③ 練習・アドバイス	Hello. I'm (Mika). This is my dream schedule. I have (math, math, English, science, and science). I study (science) with (Dr. Yamanaka Shinya). I want to be (a scientist). Thank you.
Phonics	アルファベットジングル Sounds and Letters 1~4	アルファベットジングルを一緒に言う b and p (p. 42)
【3-6】 Chant	Let's Say It Together	普通の速さで最初から一緒に言う
発表	・本時の時間割を言う Final Activity(p. 40) ・発表のポイント確認 ・発表前練習 ・発表(グループやクラスで) ・発表後、児童から良かった点を発表させる ・HRT/ALT等の全体評価	→Classで本時の時間割を言う 発表の大切なポイントを確認 (eye-contact, clear voice, smile, gesture) *評価基準を決めルーブリックを作成して、パフォーマンス評価を行う *各児童終了後 HRT が短かく良かった点を伝える

振り返り	児童の振り返り	教科書 p. 43 や振り返りシートに記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる
Alphabet	アルファベットジングル	アルファベットジングルを一緒に言う

【19回目】 交流会準備	【プロジェクトのゴール】 留学生への発表内容 ・どんな工夫が必要か ・留学生のことを知る ・留学生と一緒にやる活動 ・留学生への招待状	プロジェクトのゴールを再確認する 交流会で自己紹介と夢の時間割を発表する Lesson 1, 2, & 3の振り返りをもとに留学生への発表の工夫を話し合う 留学生の自己紹介を読んで、留学生の出身地をグループごとに調べ、クラスで共有する 留学生に紹介して一緒にやりたい活動を考える 留学生との交流会の内容をもとに招待状を作成 *次回までに自己紹介と時間割発表を練習しておく
【20回目】 交流会準備	発表練習 留学生と行う活動 留学生への質問	個人→ペア→グループでPCを使って練習し、留学生にわかりやすくなるよう、アドバイスし合う 日本の伝統的な遊び(折り紙、けん玉、コマ等)の準備と留学生の自己紹介や出身地の調べ学習をもとに留学生への質問を考える
【21・22回目】 (2時間) 交流会 (帰りの会)	【発表と交流】 交流会後振り返り	・児童が自己紹介し、夢の時間割を発表する ・留学生の自己紹介(英語・母語・日本語)と出身地紹介を聞く→Q & A Time ・留学生と行う活動(留学生が教えてくれる出身地の遊び→児童が教える日本の遊びで交流) ・最後に感想を伝え合う ゴールの発表や交流内容について振り返る
【23回目】	1学期のまとめ	聞くことクイズ・アルファベットクイズ・個別インタビュー、英語学習アンケート、Can-Do 自己評価アンケート他

【2学期】行ってみたい都道府県の魅力をクイズで伝えよう!

プロジェクトのゴール (22回)
学年交流会で、単元の学びを活かし自由な一日の過ごし方を紹介した後、都道府県クイズを出し、行ってみたい都道府県の魅力を伝えることができる。また、相手に配慮しながら一日の過ごし方

を紹介したり、クイズを出そうとしたり、さらに相手の話をよく聞こうとしたりする。

Lesson 4 のゴール (6 回)

日課や時刻、習慣的に行う動作、頻度などについて友だちに伝えたり、尋ね合ったりできる。また、これらの学習をもとに、自由な一日があつたらどのように過ごしたいか、伝えることができる。さらに、相手にわかりやすく話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりする。

学習内容	言語材料
・日課・習慣の表現 ・頻度を表す副詞 ・時刻・時間を尋ねる表現	I (get up) at (six in the morning). What time do you (get up)? What time is it in your town? It's (six o'clock in the morning). I (always) (wash the dishes after dinner).

*太字は新出語句(表現)や重要表現

Lesson 4 自由な一日があつたら何をしたいか伝えよう!

Lesson	活動項目	内容
【4-1】 Watching 興味・関心 Listening New word Song Alphabet	【プロジェクトのゴール】 【単元のゴール】 Let's Watch-1 (2つ) Let's Think (p. 47) Let's Listen-1 (p. 46) 日課の表現 Let's Sing (p. 48) Keyword Game アルファベットジングル アルファベット大小文字	プロジェクトのゴールを共有 「自由な一日があつたら何をしたいか伝えよう!」 児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有 自由な一日にしたいことを話し合う 3都市の時刻・天気・曜日を聞き取る→世界の様々な気候やその表現等への気づき 絵文字カード 聞かせる→繰り返しの箇所を歌う 日課の表現で行う アルファベットジングルを一緒に言う A~Dまで読みながらなぞり書きをする
【4-2】Song Watching Listening やり取り Game Alphabet	Let's Sing (p. 48) Let's Watch-2 (2つ) Let's Listen-2 (p. 49) <u>やり取り</u> ① HRT等のモデル ② HRTとClass Missing Game アルファベットジングル アルファベット大文字	繰り返しの箇所を一緒に歌う 児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有 絵から何をしているか推測させる→英語を読む→聞いて解答→ペアで確認→答え合わせ→表現を確認→児童が家でやっていることを言う(やり取り) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> A: What do you do on Sunday? B: I (play the piano). </div> Let's SingとLet's Listenの語句で行う アルファベットジングルを一緒に言う E~Iまで読みながらなぞり書きをする

【4-3】Song	Let's Sing (p. 48)	最初から一緒に歌う
Watching	Let's Watch-3 (2つ)	児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有
Listening	Let's Listen-3 (p. 50)	時刻と絵を確認→英語表現を読む→聞いて解答→ペアで確認→答え合わせ→語彙と時刻の表現を確認→児童に自分なら何時に行くか尋ね、比べてみる
やり取り	Activity-1 (p. 50) ① HRT 等のモデル ② HRT と Class ③ ペアでやりとり	比べてみた内容を英語で尋ね合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">A/B: Hello. A: What time do you (get up)? B: I (get up) at (6: 30). A: O, I see. *AB を交代</div>
Alphabet	アルファベットジングル アルファベット大文字	アルファベットジングルを一緒に言う J~Nまで読みながらなぞり書きをする
【4-4】Song	Let's Sing (p. 48)	最初から一緒に歌う
Watching	Let's Watch-4 (2つ)	児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有
Listening	Let's Listen-4 (頻度の副詞) (p. 51)	絵の習慣を児童から引き出す→音声を聞かせ書いてある表現を言ってみる→頻度の意味をカレンダーを見て推測させる→視聴し解答→ペアで確認→答え合わせ→Key sentencesの確認→自分たちはどうか感想を言わせる
Small Talk	Activity-2 (p. 51) ① HRT 等のモデル ② HRT と Class ③ ペアで伝え合う	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">I always (play video games). I usually (watch TV). I sometimes (wash the dishes). I never (drink coffee).</div>
Listening	Let's Listen-5 (p. 52)	絵の内容を児童から引き出す→音声を聞いて書いてある英語を言わせる→聞いて解答→ペアで確認→答え合わせ→語句の確認→自分がしたいことを言ってみる
Alphabet	次回の課題 アルファベットジングル アルファベット大文字	自由な一日があつたら何がしたいか考えてくる アルファベットジングルを一緒に言う O~Sまで読みながらなぞり書きをする
【4-5】Song	Let's Sing (p. 48)	最初から一緒に歌う
Listening	Final Activity 準備 ・発表内容を考える ・ワークシートを作成	動画のみせイメージを持たせる→自由な一日を考えオリジナルワークシート** (付録6) にメモする(難しい英語表現は友だちが分かるよう工夫)→教科書や巻末 Word

Speaking	・発表練習 個人→ペアでアドバイス PCで動画を取り合い視聴 してアドバイスし合う	Bankを参照 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">Hello. I'm (Maki). This is my dream day. I get up at (7 o'clock). In the morning I (go to the zoo). In the afternoon I (watch TV). Thank you.</div>
Phonics	Sounds and Letters	t and d (p. 54)
【4-6】Song Speaking 振り返り Alphabet	Let's Sing Final Activity 発表 ・発表中:HRTは児童の良 かった点を一言 ・発表後:児童から友だち の良かった点を発表 ・HRT/ALT等:全体評価 児童の振り返りをする Review	最初から一緒に歌う 良い聞き手・話し手や評価のポイントを児童に伝える (eye-contact, clear voice, gesture, smile等) 事前練習→児童の実態に応じて発表の形態を決める *評価基準を決めルーブリックを作成して、パフォーマンス評価を行う 教科書 p. 55や振り返りシートに記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目 を設けて振り返らせ、次回につなげる アルファベット大文字と意味とつづりをつなげる問題

Less 5 クラスのみんなの「できること」を集めよう!

Lesson 5 のゴール (6回)	
「できること」「どのようにできるか」の様々な表現を知り、それをもとに自分のできる事をワークシートに表現して、友だちと伝え合い、クラスのワークシートを集めて「できることの木」を作成できる。また、他者に配慮しながら積極的に話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりする	
学習内容	言語材料
・できることの語彙 ・どのようにできるかの語彙 ・he/she, who	I can (play the recorder). What can you do? He/She can (swim well). Who can (ski)? What...do you like? Do you like...? I like.... Who am I?

*太字は新出語句(表現)や重要表現

【5-1】 Watching	【単元のゴールの確認】 Let's Watch (動画1) (pp. 56-57)	ゴールを児童と共有する 視聴しながら表現している絵の中の人物を指す→意味を推測させる→英語で言ってみる
-------------------	---	--

Chant	Let's Say It Together (p. 56)	聞こえてきた言葉を引き出す→Key sentencesの確認 →ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う
Review	スポーツ表現の確認	HRT: What sports do you like? S1: I like (soccer). HRT: Oh, I see.
やり取り	「できる」表現の導入 ① HRT 等のモデル ② HRT と Class ③ ペアで伝え合う	A: What can you do? B: I can (play soccer). A: Great!/Super!/Fantastic!/Cool!/Me, too.等 *AB 交代
Listening	Let's Listen-1 (p. 58)	絵の状況を見童から引き出す→聞いて解答・答え合わせ→語句をジェスチャーしながら言う(I can jump rope. I can play <i>kendama</i> well. I can play the recorder. I can do magic.)
Game	Gesture Game ・HRT 等が最初は出題者 ・実態に応じて希望する見童が出題者でも良い	HRT 等がジェスチャーをして見童が当てる Class: What can you do? HRT: I can (ジェスチャー). Class: cook, dance, play soccer, jump rope...? HRT: I can (cook).
Alphabet	アルファベットジングル	アルファベットジングルを一緒に言う
【5-2】 Chant	Let's Watch (動画2) Let's Say It Together	視聴し絵の中の人物を指す→意味を推測→英語で言う ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う
Small Talk	できないことの表現導入 ・意味を推測させる	できること、できないことをジェスチャー付きで聞かせる HRT: I can (play basketball), but I can't (ski).
Listening	Let's Listen-2(p. 58)	絵の様子を見童から引き出す→視聴し解答→答え合わせ→語句の確認(I can I can't...)
Listening 表現活用	Let's Listen-3(p. 59) Let's Think (p. 59) ・どのようにできるか伝える 方法を知る	写真の動物を確認→Who am I?クイズを伝える→聞いて解答→答え合わせ→語句の確認(副詞表現に注目させる:very well, very fast, high 等)
Alphabet	アルファベットジングル	アルファベットジングルを一緒に言う
Phonics	Sounds and Letters	c and g (p. 64)
【5-3】 Chant	Let's Watch (動画3) Let's Say It Together	視聴し絵の中の人物を指す→意味を推測→英語で言う ゆっくりの速さで最初から一緒に言う
Song	Let's Sing (p. 58)	聞こえた表現を引き出す→Who can ...?の意味を確認

<p>Small Talk</p> <p>Activity</p> <p>Alphabet</p>	<p>HRT が尋ね、できる児童はジェスチャーをする</p> <p>Activity-1 (p. 59)</p> <p>「動物なりきりゲーム」</p> <p>・HRT 等が出題する</p> <p>アルファベットジングル</p> <p>アルファベット大文字</p>	<p>→巻末の I can カードから聞こえた順にその表現を選ぶ</p> <p>→選んだカードを確認しながら歌えるところから歌う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>HRT: Who can (dance)? Class: I can (dance).</p> </div> <p>*完璧にできなくてもよいと声掛け、積極的参加を促す</p> <p>前時の Let's Listen の動物のできることの英語表現確認→それ以外の動物のできることを児童から引き出す</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: I can (run very fast). Who am I?</p> <p>B: Are you a cheetah?</p> <p>A: Yes, I am/No, I'm not.</p> </div> <p>アルファベットジングルを一緒に言う</p> <p>T~W まで読みながらなぞり書きをする</p>
<p>【5-4】</p> <p>Chant</p> <p>Song</p> <p>Listening</p> <p>Small Talk</p> <p>やり取り</p> <p>Alphabet</p>	<p>Let's Watch (動画4)</p> <p>Let's Say It Together</p> <p>Let's Sing (p. 58)</p> <p>Let's Listen-4(p. 60)</p> <p>He/she の導入</p> <p>He/She can 導入</p> <p>Activity-2(p. 61)</p> <p>①HRT 等のモデル</p> <p>②HRT と Class</p> <p>③ペアで伝え合う</p> <p>アルファベットジングル</p> <p>アルファベット大文字</p>	<p>視聴し絵の中の人物を指す→意味を推測→英語で言う</p> <p>ふつうの速さで最初から一緒に言う</p> <p>一緒に歌う</p> <p>写真の人物を推測させる→やり方説明→he/she 導入</p> <p>先生の名前 (He is Mr. ○○. She is Ms. ××.) を聞いて he/she の意味を推測→答え合わせ→意味の確認</p> <p>先生のできる・できない事を聞かせ he/she で言わせる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>HRT: ○○sensei can (play the piano).</p> <p>Class: I see. She can (play the piano)</p> </div> <p>絵の動作を確認し英語を聞いて言う→児童はできることを3つまで選ぶ(なければ空欄に自分で描く)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello. A: What can you do?</p> <p>B: I can (play Kendama). *できること3つまで OK!</p> <p>A: That's nice!/ Good!/Great!/Wonderful!等 *AB 交代</p> </div> <p>*HRT は児童の自己肯定感が高まるよう支援</p> <p>アルファベットジングルを一緒に言う</p> <p>X~Z まで読みながらなぞり書きをする</p>
<p>【5-5】</p> <p>Chant</p> <p>Song</p> <p>発表準備</p>	<p>Let's Watch (動画5)</p> <p>Let's Say It Together</p> <p>Let's Sing (p. 58)</p> <p>Final Activity 準備</p> <p>(p. 62)</p>	<p>視聴し絵の中の人物を指す→意味を推測→英語で言う</p> <p>ふつうの速さで最初から一緒に言う</p> <p>一緒に歌う</p> <p>動画を視聴し良い点を引き出す→みんなに伝えたい「できること」を考えさせ、巻末ワークシートを作成させる→</p>

	・伝える工夫を考えさせる (ジェスチャーや実物を使う、声や顔の表情の工夫等)	完成後伝える練習(個人・ペア・グループで行う・PCで動画をとってアドバイスし合ってもよい) 次回の発表方法と評価について説明する
		SI: Hello. Class: What can you do? SI: I can (play Kendama). *できること3つまで Class: That's nice!/ Good!/Great!/Wonderful!等
Alphabet	アルファベットジングル Review (p. 65)	アルファベットジングルを一緒に言う ①~③を行う
【5-6】Song	Let's Sing (p. 58) Final Activity 発表	一緒に歌う 良い聞き手・話し手の確認、発表のポイント(eye-contact, smile, gesture, clear voice 等)→発表前練習→発表(各児童の良い点をコメント) *評価基準を決めルーブリックを作成して、パフォーマンス評価を行う
振り返り	・発表後: 児童から友だちの良かった点を発表 ・HRT/ALT 等: 全体評価 児童の振り返りをする	教科書 p. 65や振り返りシートに記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる
alphabet	アルファベットジングル	アルファベットジングルを一緒に言う

Lesson 6 外国の友だちと一緒に行ってみたい都道府県を伝えよう!

Lesson 6 のゴール (7 回)	
社会科の知識を活かし、行ってみたい都道府県を考えて、相手にわかりやすく伝えることができる。また、外国の友だちと行ってみたい都道府県とその理由の伝え方を知って、工夫しながらその場所の魅力を発表することができる。さらに、相手にわかりやすく話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりする。	
学習内容	言語材料
<ul style="list-style-type: none"> ・行きたい場所の尋ね方と答え方 ・いつ行きたいか尋ね方 ・理由の表現 ・魅力を伝える形容詞 	<p>Where do you want to go? I want to go to (Akita). Why? I want to (see the Kanto Festival). When do you want to go to (Hokkaido)? In summer. You can (eat fresh seafood) in (Hokkaido). I can (enjoy hot spring). Do you want to go to (Hokkaido)? It's (beautiful).</p>

*太字は新出語句(表現)や重要表現

【6-1】	【単元のゴール】	単元のゴールを共有する
-------	----------	-------------

<p>Watching Chant</p> <p>興味・関心</p> <p>Listening</p> <p>Small Talk (やり取り)</p> <p>Alphabet</p>	<p>Let's Watch-1 (p. 66) Let's Say It Together</p> <p>Let's Think (p. 67)</p> <p>Let's Listen-1 (p. 68)</p> <p>Key sentences を使って ① HRT/ALT 等モデル ② HRT と Class ③ ペアでやりとり</p> <p>アルファベットジングル アルファベット小文字</p>	<p>児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有 聞かせ表現を聞き出す→Key sentences の意味を確認→ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う 外国人にお勧めの場所について日本地図を見ながら児童の意見を聞く 絵や写真の場所や動作を引き出す→英語を読む→視聴し解答→答え合わせ→Key sentences の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello A: Where do you want to go? B: I want to go to (Hokkaido). A: Great! / Nice! / I see. / Me, too.等 *AB 交代 * 教科書の日本地図等を参照</p> </div> <p>アルファベットジングルを一緒に言う a~d まで読みながらかなぞり書きをする</p>
<p>【6-2】</p> <p>Chant</p> <p>Game</p> <p>Listening</p> <p>Small Talk (やり取り)</p> <p>Alphabet</p>	<p>Let's Watch-2(p. 66) Let's Say It Together Pointing Game</p> <p>①地域限定 ②範囲を広げる</p> <p>Let's Listen-2 (p.69)</p> <p>理由を加えたやり取り ①HRT/ALT 等のモデル ②HRT と Class * 教科書の日本地図等を参照</p> <p>アルファベットジングル アルファベット小文字</p>	<p>児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有 ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う 地図をペアで共有し聞いた場所を早く指した方が勝ち</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>HRT: Where is (Oita)? S I: 指しながら It's here.</p> </div> <p>絵の内容を推測→聞いて解答→答え合わせ→理由の表現と形容詞の確認→再度視聴→形容詞答え合わせ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello A: Where do you want to go? B: I want to go to (Hokkaido). A: (Hokkaido)? Why? B: I want to (eat/buy/see/enjoy …). A: Great! / Nice! / I see. / Me, too.等</p> </div> <p>アルファベットジングルを一緒に言う e~i まで読みながらかなぞり書きをする</p>
<p>【6-3】</p> <p>Chant やり取り</p>	<p>Let's Watch-3(p. 66) Let's Say It Together Activity-1 (p. 70)</p> <p>前時の Small Talk を思い出させる+形容詞の復習 *クラスの人気のある都道府県</p>	<p>児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有 普通の速さで繰り返しの箇所を一緒に言う * 教科書の日本地図等を参照</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello A: Where do you want to go? B: I want to go to (Hokkaido). A: (Hokkaido)? Why?</p> </div>

<p>Hint Quiz</p>	<p>を調べよう!</p> <p>①HRT/ALT モデル</p> <p>②HRT と Class</p> <p>③児童同士やり取り</p> <p>Activity-2 (p. 71)</p> <p>・HRT/ALT 等が</p> <p>いくつか出題</p> <p>(児童はペアで解答)</p> <p>・希望の児童には出題</p>	<p>B: I want to (eat Sapporo ramen). (It's delicious.)</p> <p>A: Great!/Nice!/I see./ Me, too.等 *AB 交代</p> <p>プロジェクトのゴールの見通しが持てるよう HRT が出題</p>
<p>Alphabet</p>	<p>アルファベットジングル</p> <p>アルファベット小文字</p>	<p>Hint 1: We can (enjoy onsen).</p> <p>Hint 2: We can (eat ramen). (It's delicious.)</p> <p>Hint 3: We can (see <i>tancho</i> cranes). (ジェスチャー)</p> <p>Please guess (Discussion Time).</p> <p>・正解なら: That's right.</p> <p>・不正解なら: No, sorry./Nice challenge. 惜しい場合は: Close.</p> <p>・正解が出なければ児童に Hint, please と言わせヒントを加える</p> <p>アルファベットジングルを一緒に言う</p> <p>j~n まで読みながらなぞり書きをする</p>
<p>【6-4】</p> <p>Chant</p> <p>Reading</p> <p>Writing</p>	<p>Let's Watch-4(p. 66)</p> <p>Let's Say It Together</p> <p>Let's Read and Write</p> <p>(p. 76)</p> <p>Final Activity 準備-1</p> <p>(p. 77) ・HRT/ALT 等が</p> <p>モデルを提示</p> <p>アルファベットジングル</p>	<p>児童に選ばせ視聴→聞こえたことを引き出し共有</p> <p>普通の速さで繰り返しの箇所を一緒に言う</p> <p>写真の場所を地図で確認→音声を聞き英語を一緒に言う→英文を読み意味を確認→英文をなぞり空いているところに好きな旅行先をローマ字で書く→書いた英文を読ませる→英文のルールを引き出す。</p> <p>・文の最初は大文字にする</p> <p>・文の終わりはピリオドを付ける</p> <p>・単語の中のアルファベットは離さずに一塊で書く</p> <p>・単語と単語の間は一文字分くらい空ける</p> <p>動画を視聴し発表イメージを持たせる→外国の友だちと一緒に行ってみたい都道府県とその理由を考えさせる</p> <p>→相手意識・目的意識を持たせる</p> <p>アルファベットジングルを一緒に言う</p>
<p>【6-5】</p> <p>発表準備</p>	<p>Let's Say It Together</p> <p>Final Activity 準備-2</p> <p>(p. 77)</p> <p>・HRT 等は各児童の</p> <p>Worksheet を確認</p>	<p>普通の速さで最初から言う</p> <p>調べ学習→オリジナルワークシート**(付録7)を作成</p> <p>→PC で写真など魅力が伝わる視覚情報を準備→発表</p> <p>Hello. I want to go to (Shizuoka) in (spring).</p> <p>[Class: Why?]</p>

Phonics	<ul style="list-style-type: none"> 練習時中間評価を入れてクラス全体がより良い発表を目指せるよう指導 次回発表を予告 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>We can (see Mt. Fuji).</p> <p>We can (eat Fujinomiya <i>yakisoba</i>).</p> <p>[Class: I see./Great!/Sounds nice!...]</p> </div> <p>練習(個人・ペア・グループでアドバイスし合う)→PCで動画を取り合い改善に役立てる</p> <p>s and z (p. 78)</p> <p>アルファベット大文字と単元の単語</p>
【6-6】 発表	<p>Let's Say It Together Final Activity 発表 (p. 77)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表後: 児童から友だちの良かった点を発表 HRT/ALT 等: 全体評価 <p>児童の振り返りをする</p>	<p>普通の速さでやり取りの2グループに分かれて言う</p> <p>良い聞き手・話し手の確認、発表のポイント (eye-contact, smile, gesture, clear voice 等) → 発表前練習 → 発表 (各児童の良い点をコメント)</p> <p>*評価基準を決めルーブリックを作成して、パフォーマンス評価を行う</p> <p>教科書 p. 79 や振り返りシートに記入</p> <p>*「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる</p>
振り返り	<p>児童の振り返りをする</p>	<p>教科書 p. 79 や振り返りシートに記入</p> <p>*「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる</p>
Alphabet	アルファベットジングル	アルファベットジングルを一緒に言う

【20回目】	【プロジェクトのゴール】	プロジェクトのゴールを再確認する
プロジェクト準備	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学年交流会で、自由な一日の過ごし方を紹介し、ペアで都道府県クイズを出し合い、行ってみたい都道府県の魅力を伝える。</p> </div> <p>プロジェクトの発表準備</p> <ul style="list-style-type: none"> Worksheet を作成 	<ul style="list-style-type: none"> 児童はペアで都道府県クイズの出題準備 <p>p. 71 のヒントクイズをペアで作成する(調べ学習)</p>
Alphabet	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Hint 1: We can (enjoy onsen).</p> <p>Hint 2: We can (eat ramen). (It's delicious.)</p> <p>Hint 3: We can (see <i>tancho</i> cranes). (ジェスチャー)</p> <p>Please guess (Discussion Time).</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 相手が Hint 3 で解答できるよう工夫を支援する <p>アルファベットジングル</p> <p>アルファベット小文字</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童は視覚情報を PC で準備する → ペアで動画をとり合い HRT 等からアドバイスをもらう <p>アルファベットジングルを一緒に言う</p> <p>o~s まで読みながらかなぞり書きをする</p>
【21回目】 プロジェクト	<p>プロジェクトの発表準備</p> <ul style="list-style-type: none"> HRT 等は児童の練習を 	<ul style="list-style-type: none"> 児童はペアで都道府県クイズの出題準備と練習 各児童は、自由な一日の単元発表を振り返り(振り返り)

準備	見てアドバイスする (必要に応じて中間評価)	シートを見返す)、もっと良くなる工夫を考え、練習する
Alphabet	アルファベットジングル アルファベット小文字	アルファベットジングルを一緒に言う t~wまで読みながらなぞり書きをする
【22回目】 学年交流会	プロジェクトのゴール 【学年交流会】	学年交流会で各児童が自由な一日の紹介とペアで都道府県クイズを出し合う *1学年3クラスある場合、1クラスを3グループに分け、1クラスに3クラスの児童が混ざるよう配置して、行う *終了後、良かったところを発表し合う
振り返り	プロジェクトの振り返り	児童は自分のクラスに戻り、振り返りを行う
23回目	2学期のまとめ	聞くことクイズ・アルファベットクイズ・個別インタビュー、英語学習アンケート、Can-Do 自己評価アンケート他

2. 6年生年間計画と概略

【1学期】留学生に日本と地域の良さを伝えよう!

プロジェクトのゴール (23回)
初めて小学校を訪問する同じ地域に住む留学生との交流会で、日本と地域の良いところの情報を集め、PC を使い、班でお勧めの場所と好きな日本文化を工夫しながら紹介できる。留学生にわかりやすく情報を伝えようとしたり、留学生の話をしっかり聞こうとしたりする。

Lesson 1 This is me シートを作って自己紹介しよう!

Lesson 1 のゴール (6回)	
自己紹介に関する表現を使って、出身地、誕生日、好きなこと、できること等を他者に配慮しながらわかりやすく伝え合うことができる。自分のことを知ってもらおうとしたり、友だちのことを知ろうとしたりする。	
学習内容	言語材料
・自己紹介 (好きなこと、出身地、誕生日、できること) ・教科、スポーツ、動物、食べ物、できること、月名、序数	Let's (be friends). Where are you from? I'm from (America). What(sport) do you like? I like (basketball). I can (jump high). When is your birthday? My birthday is (February 12 th). I'm good at (cooking). My favorite place is (the gym).

*太字は新出語句(表現)や重要表現

Lesson	活動項目	内容
【1-1】	【プロジェクトのゴール】 【単元のゴール】	1学期のプロジェクトのゴールを共有する 5年生までの学習を活かして自己紹介をする
Small Talk	HRT が自己紹介する	・児童に5年時の学習を思い出させる

	<p>①HRT 等モデル ②HRT と Class ③児童同士</p> <p>Let's Watch-1 Let's Say It Together (p. 12) Let's Listen-1 (p. 14) Let's Think-1 アルファベットジングル アルファベット大文字</p>	<p>HRT: Hello. My name is (Aya). (A-Y-A, Aya). Please call me Aya. *How about you?</p> <p>*How about you? と尋ね、自己紹介させる どんな自己紹介か予測させる→視聴し内容を引き出す 聞かせ聞こえた表現を引き出す→key sentences 確認 →ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う 絵の内容を確認→聞いて解答→ペアで相談→答え合わせ→再度聞かせ名前のつづりを書かせ確認 自己紹介にどんなことを入れたいか話し合う アルファベットジングルを一緒に言う A~D を言いながらなぞる</p>
<p>【1-2】 Watching Listening やり取り</p>	<p>Let's Say It Together Let's Watch-2 Let's Listen-2 (p. 15)</p> <p>①HRT 等モデル ②HRT と Class ③児童同士</p> <p>Activity-1 (p. 16) ①HRT 等モデル ②HRT と Class ③児童同士</p> <p>(1)好きなもの (2)できること</p>	<p>ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う どんな自己紹介か予測させる→視聴し内容を引き出す 絵の単語を確認→聞いて解答ペアで相談→答え合わせ →語句や表現の確認</p> <p>A/B: Hello. A: What subject/sport do you like? B: I like (English/tennis). A: I see./Good!/Me, too./Really?等 *AB 交代</p> <p>例を聞かせやり方を確認→自分の好きなものできることをメモする(巻末 Word Bank 等参照)→英語表現を練習 →動画を視聴しイメージを持たせる→児童のゴール「自分と同じものが好きな人や同じことができる人はいるかな?」</p> <p>A/B: Hello. A: What sport/subject/animal/food do you like? B: I like (soccer). A: I see./Good!/Great!/Me, too.等 *AB 交代</p> <p>A/B: Hello. A: What can you do? B: I can (play basketball). I'm good at (jumping high). A: I see./Good!/Great!/Me, too.等 *AB 交代</p>
<p>Alphabet</p>	<p>アルファベットジングル アルファベット大文字</p>	<p>アルファベットジングルを一緒に言う E~I を言いながらなぞる</p>

<p>【1-3】</p> <p>Watching Review やり取り</p> <p>Game やり取り</p> <p>Alphabet</p>	<p>Let's Say It Together</p> <p>Let's Watch-3</p> <p>教科名の復習</p> <p>前時のやり取り</p> <p>②HRTとClass</p> <p>③児童同士</p> <p>月名 Keyword Game</p> <p>Activity-3 (p. 17)</p> <p>①HRT等モデル</p> <p>②HRTとClass</p> <p>③児童同士</p> <p>Activity-4</p> <p>自由に尋ね合う</p> <p>アルファベットジングル</p> <p>アルファベット大文字</p>	<p>ゆっくりの速さで最初から一緒に言う</p> <p>どんな自己紹介か予測させる→視聴し内容を引き出す</p> <p>絵文字カード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello.</p> <p>A: What subject do you like?</p> <p>B: I like (Japanese).</p> <p>A: I see. / Me, too.等 *AB交代</p> </div> <p>月名・季節名復習→Keyword Game→序数復習</p> <p>誕生日のやり取りの動画を視聴→表現の練習→やり取り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello. A: When is your birthday?</p> <p>B: My birthday is (January 10th).</p> <p>A: Oh, it's in (winter). *AB交代</p> </div> <p>やり取りの例を聞いてイメージを持たせる→①②③の順</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello.</p> <p>A What manga/TV programs/music do you like?</p> <p>B: I like (Doraemon).</p> <p>A: I see./Good!/Me, too./Really?等 *AB交代</p> </div> <p>アルファベットジングルと一緒に言う</p> <p>J~Nを言いながらなぞる</p>
<p>【1-4】</p> <p>Watching Reading</p> <p>Writing</p> <p>Alphabet</p>	<p>Let's Say It Together</p> <p>Let's Watch-4</p> <p>Let's Read and Write (p. 18)</p> <p>・HRT等モデル提示</p> <p>・HRT等の個別支援</p> <p>・未習表現の使用は友だちにわかるように伝えられるか考えさせる</p> <p>・英文のルールを指導</p> <p>アルファベットジングル</p> <p>アルファベット大文字</p>	<p>普通の速さで最初から一緒に言う</p> <p>どんな自己紹介か予測させる→視聴し内容を引き出す</p> <p>文章を見ながら音声を聞かせる→意味を引き出す→一文ずつ音声の後に読ませる→HRT等について読ませる→児童のみで読ませる→効果的な構成順を児童から引き出す</p> <p>書く内容をペアで話し合う→各自で内容を考え、巻末ワークシートに書く(未習表現はWord bankやPCで調べる)</p> <p>→HRT等が作成した各児童のワークシートを確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>This is me. Birthday: (October 15th).</p> <p>I like (basketball). I can (jump high).</p> <p>(Let's be friends). Thank you.</p> </div> <p>アルファベットジングルと一緒に言う</p> <p>O~Sを言いながらなぞる</p>
<p>【1-5】</p>	<p>Let's Say It Together</p>	<p>普通の速さで最初から一緒に言う</p>

Watching 発表準備	Let's Watch-5 Final Activity 準備 (p. 19) 練習しアドバイスし合う	どんな自己紹介か予測させる→視聴し内容を引き出す 目的(新しい友だちに自分のことをよく知ってもらう)確認 動画視聴→良いところを確認→練習 ・話し手: clear voice, smile, eye-contact, gesture ・聞き手: しっかり聞く、リアクション
	②HRTとClass ③児童同士 (PCで動画を撮る等工夫して練習)	SI: Hello. I'm (Michael). Please call me (Mike). Class: Hello, (Mike). SI: My birthday is (October 15th). *以下ワークシートに沿って発表 Thank you. Class: Nice!/ Cool!/Great!等
Phonics	Sounds and Letters, Review	f and h (p. 20) 単元の単語の復習 (p. 21)
【1-6】 発表	Let's Say It Together Final Activity 発表 ・発表中: HRTは児童の良かった点を一言 ・発表後: 友だちの良かった点を発表 ・HRT等: 全体評価 児童の振り返りをする	普通の速さで最初から一緒に言う 事前練習→話し手・聞き手の大切な点を確認→評価のポイントを説明→各児童発表 *評価基準を決めルーブリックを作成して、パフォーマンス評価を行う 教科書 p. 21や巻末ワークシート裏面に記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる
Alphabet	アルファベットジングル	アルファベットジングルを一緒に言う

Lesson 2 町のおすすめの場所を留学生に紹介しよう!

Unit 2 のゴール (6回)	
町にあるものやできる事の表現を知り、総合の時間等で学習した内容をもとに、さらに調べ学習や協働学習を通して自分たちの地域のおすすめの場所を留学生に紹介できる。また、留学生に配慮しながら、グループの友だちと協力してわかりやすく伝えようとする。	
学習内容	言語材料
・施設・建物・自然 ・町にある物できる事、町の良さ紹介	Welcome to (my town). We have (a cake shop). We can (enjoy fishing). What is your favorite place in (our town)? Why do you like it? We can (play badminton).

*太字は新出語句(表現)や重要表現

【2-1】	【単元のゴール】	町のおすすめの場所を同じ地域の留学生に紹介する!
Watching	Let's Watch-1 (pp. 22-23)	写真や絵から内容や状況を推測させる→視聴し聞こえてきたことを児童から引き出す→Key sentences 確認
Chant	Let's Say It Together (p.22)	聞かせどんな言葉が聞こえたか引き出す→意味確認→繰り返しの箇所を一緒にゆっくりの速さで言う
興味・関心	Let's Think-1	町の良いところを話し合う
Vocabulary	New Words	絵文字カード(施設・建物・自然の表現)
Game	Keywords Game	施設・建物・自然の表現を使って行う
Small Talk	町にあるものを尋ねる ・HRT-Class	We have/don't have (a library). の表現で自分たちの町にあるものかないものを分ける
Phonics	Sounds and Letters	a (p. 30)
Alphabet	アルファベットジングル アルファベット大文字	アルファベットジングルを一緒に言う T~X を言いながらなぞる
【2-2】	Let's Say It Together	繰り返しの箇所を一緒にゆっくりの速さで言う
Watching	Let's Watch-2	国旗の国名確認→英単語を読んでもみる(意味確認)→地図記号の意味を推測→視聴・解答→答え合わせ
Listening	Let's Listen-1	相違点等の気づきを共有
国際理解	Let's Think-2	巻末施設カードで BINGO (前時の Small Talk から町にほしいものを言っていく)
Activity	Activity-1 (p. 26)	Class: What do you want in our town? S I: I want (an aquarium) in our town. Class: (カードがあれば)Me, too. (裏返えす)
Alphabet	アルファベットジングル アルファベット大文字	アルファベットジングルを一緒に言う Y~Z を言いながらなぞる
【2-3】	Let's Say It Together	繰り返しの箇所を一緒に普通の速さで言う
Listening	Let's Listen-2 (p. 25)	絵の単語を音声について言う→聞き方のポイント説明→視聴し解答する→ペアで確認→答え合わせ→Key sentences の確認
Game	単語の復習(かるた)	巻末カードをペアで 1 組広げ、かるたの方法でペア内でカードを取り合う
やり取り	Activity-2 *児童がわからない表現は PC で調べる	動画を視聴→内容を引き出す→お勧めの場所とその理由を発表させる→理由の英語表現(We can enjoy...) 共有→各児童がおすすめ場所を考える(HRT/ALT 支援)

	①HRT 等モデル ②HRT と Class ③児童同士	A/B: Hello. A: What is your favorite place in your town? B: My favorite place is (the Rainbow Hall). A: I see./Good./Me, too 等 Why do you like it? B: We can enjoy (listening to music). A: I see./Good./Great!/Me, too 等 *AB 交代
Alphabet	アルファベットジングル アルファベット大文字	アルファベットジングルを一緒に言う A～M を言いながらなぞる
【2-4】 Read 調べ学習 協働学習 Alphabet	Let's Say It Together Let's Read and Write (p. 28) Final Activity 準備 (p. 29) アルファベットジングル アルファベット大文字	最初から一緒に普通の速さで言う 町のおすすめの文章の音声を聞いて意味を推測→音声について読む→意味確認→HRT/ALT の後について読む→児童だけで読む→どの文章が発表に使えるか尋ねる 動画を視聴し発表のイメージを持たせる→単元のゴール確認→班で調べ学習を進め、紹介する場所を話し合う→魅力が伝わるよう英語表現を考える アルファベットジングルを一緒に言う N～Z を言いながらなぞる
【2-5】 Writing 発表練習 Alphabet	Let's Say It Together Final Activity 準備 ・巻末ワークシート作成 ・発表練習(PCで動画撮影・アドバイス) Review (p. 31)	最初から一緒に普通の速さで言う 前時班で決めた内容を巻末ワークシートに各児童が英語で書く→HRT/ALT 等が支援・確認→発表で大切なことを児童と共有(留学生に分かりやすく伝わるよう工夫する) 単元の単語のつづり
【2-6】 発表	Let's Say It Together Final Activity 発表 ・事前練習 ・話し手聞き手の注意 ・評価のポイント説明 ・発表中:HRT は児童の良かった点を一言 ・発表後:友だちの良かった点を発表 ・HRT 等:全体評価	最初から一緒に普通の速さで言う All (A, B, C, D)*: Hello. *4 人班 A: My town is (great/beautiful/nice/wonderful). First, we have (). We can () B: Second, we have (). We can (). C: Third, we have (). We can (). D: Last, we have (). We can (). We like our town. Thank you. *評価基準を決めルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を行う

振り返り	児童の振り返りをする	教科書 p. 31 や巻末ワークシート裏面に記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる
Alphabet	アルファベットジングル	アルファベットジングルを一緒に言う

Lesson 3 好きな日本文化を留学生に紹介しよう!

Lesson 3 のゴール (6 回)	
日本の行事や食べ物、味の表現を知り、自分たちの好きな日本文化を留学生に紹介できる。留学生に配慮してわかりやすく伝えようとしたり、留学生の様々な文化を知ろうしたりする	
学習内容	言語材料
・日本の行事・食物 ・文化紹介の表現 ・味覚の形容詞	You can (enjoy <i>hanami</i>) in (April). What do you like about Japan in (August)? I like (<i>tsukimi</i>). It's (sweet/bitter/sour/salty). 日本の行事 (New Year's Day 等) 日本の伝統的文化 (<i>kabuki</i> 等)

*太字は新出語句(表現)や重要表現

【3-1】	【単元目標確認】	好きな日本文化を留学生に紹介しよう!
Watching	Let's Watch-1 (pp. 32-33)	写真や絵から内容や状況を推測させる→視聴し聞こえてきたことを児童から引き出す→Key sentences 確認
興味・関心	Let's Think (p. 33)	どんなことを紹介したいか話し合う
Chant	Let's Say It Together (p. 32)	どんな言葉が聞こえたか引き出す→繰り返しの箇所を一緒に言う→意味確認→Key sentences 確認
New Words	12 か月の行事	絵文字カード
Listening	Let's Listen-1 (p. 34)	名前や絵の確認→聞いて解答→ペアで確認→答え合わせ→Key sentences 確認→出てきた日本の文化 (<i>kabuki, onsen, kimono, sumo</i>)について話し合う
Alphabet	アルファベットジングル アルファベット小文字	アルファベットジングルを一緒に言う a~d を言いながらなぞる
【3-2】	Let's Say It Together	繰り返しの箇所をゆっくりの速さで一緒に言う
Watching	Let's Watch-2 (pp. 32-33)	写真や絵から内容や状況を推測させる→視聴し聞こえてきたことを児童から引き出す→Key sentences 確認
Listening	Let's Listen-2	写真の食べ物を確認し英語の表現を想像させる→味の表現を音声について言う→聞いて解答→ペアで相談→答え合わせ→Key sentences 確認

<p>Small Talk</p> <p>日本の食べ物の話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HRT/ALT 等 ・Class→代表児童 <p>Activity</p> <p>Activity-1 (p. 36)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻末の行事カード ・ペア・グループで行う <p>Alphabet</p> <p>アルファベットジングル</p> <p>アルファベット小文字</p>		<p>写真の食べ物の好き嫌いを表現する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I like (<i>matcha</i>). It's bitter, but it's delicious. I don't like (<i>umeboshi</i>).</p> </div> <p>*味覚には個人差があることを伝えておく</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>HRT: (August) Class: (Summer festival) *そのカードをとる</p> </div> <p>アルファベットジングルを一緒に言う</p> <p>e~i を言いながらなぞる</p>
<p>【3-3】</p> <p>Watching</p> <p>Let's Watch-3</p> <p>(pp. 32-33)</p> <p>やり取り</p> <p>Activity-2</p> <p>(p. 37)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①HRT 等モデル ②HRT と Class ③児童同士 <p>Read</p> <p>Let's Read and Write</p> <p>(p. 38)</p> <p>次回予告</p> <p>Alphabet</p> <p>アルファベットジングル</p> <p>アルファベット小文字</p>	<p>Let's Say It Together</p> <p>Let's Watch-3</p> <p>(pp. 32-33)</p> <p>Activity-2</p> <p>(p. 37)</p> <p>Let's Read and Write</p> <p>(p. 38)</p> <p>次回予告</p> <p>アルファベットジングル</p> <p>アルファベット小文字</p>	<p>最初からをゆっくりの速さで一緒に言う</p> <p>写真や絵から内容や状況を推測させる→視聴し聞こえてきたことを児童から引き出す→Key sentences 確認</p> <p>動画を視聴し児童から表現を引き出す→意味を確認→クラスで人気の日本の行事を調べよう(活動の目的)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello. A: What do you like about Japan in (spring)? B: I like (<i>hanami</i>) in (spring). I like (cheery blossoms). A: I see./Great!/Sound nice!/ Wonderful! *AB 交代 A/B: Thank you, bye.</p> </div> <p>音声を聞いてどんな意味か児童から引き出す→音声について文字を指しながら読む→意味確認→HRT/ALT 等の後について指しながら読む→児童だけで読む</p> <p>*留学生に紹介したい日本文化を考えてくる</p> <p>アルファベットジングルを一緒に言う</p> <p>j~n を言いながらなぞる</p>
<p>【3-4】</p> <p>発表準備</p>	<p>Let's Say It Together</p> <p>Final Activity準備</p> <p>(p. 39)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HRT 等モデル提示 ・児童は班で協力して巻末ワークシート作成 ・HRT/ALT 等は児童のワークシート作成を支 	<p>最初からを普通の速さで一緒に言う</p> <p>動画を視聴し見通しを持たせる→PC 等で情報を集め班で発表内容を考える(協働学習・調べ学習)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>All (A, B, C, D): Welcome to Japan. A: In Japan, you can (ワークシートの内容). Please try it! *B, C, D も同様に紹介 All: Thank you for listening. Class: Sounds nice!/Great!/Wonderful!等</p> </div>

	援・表現確認	
Alphabet	アルファベットジングル アルファベット小文字	アルファベットジングルを一緒に言う o~s を言いながらなぞる
【3-5】 発表練習	Let's Say It Together Final Activity 準備 ・HRT/ALT 等は発表方法をアドバイスする	最初からを普通の速さで一緒に言う ワークシートを作成→工夫して発表練習する(PC で動画を撮りアドバイスし合う等)
Phonics Alphabet	Sounds and Letters Review (p. 41)	e (p. 40) 単元の単語のつづり
【3-6】 発表	Let's Say It Together Final Activity 発表 ・発表後:友だちの良かった点を発表 ・HRT 等:全体評価	最初からを普通の速さで一緒に言う 事前練習→話し手聞き手の注意→評価のポイント説明→発表(各児童の発表後 HRT は良かった点を伝える) *評価基準を決めルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を行う
振り返り	児童の振り返り	教科書 p. 41 や巻末ワークシート裏面に記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる
Alphabet	アルファベットジングル アルファベット小文字	アルファベットジングルを一緒に言う t~wを言いながらなぞる

【19回目】 ゴール共有 交流会準備 (昼休みの時間等も活用)	プロジェクトのゴールを確認 留学生への発表内容 ・どんな工夫が必要か ・留学生のことを知る ・留学生と行う活動 ・留学生への招待状	留学生との交流会で班毎に「おすすめの場所と好きな日本文化」を紹介する ・班毎に Lesson 2 と3の単元発表の振り返りをもとに改善を考える。(グループ内→グループ間でアドバイス) ・Lesson 1 の自己紹介の振り返りから、留学生にわかりやすい工夫を考える ・留学生の自己紹介を読んで、留学生の出身地をグループごとに調べ、クラスで共有する 留学生に紹介して一緒にやりたい活動を考える 留学生との交流会の内容をもとに招待状を作成 *次回までに自己紹介を練習しておく
Alphabet	アルファベットジングル アルファベット小文字	アルファベットジングルを一緒に言う x~zを言いながらなぞる

【20 回目】 交流会準備	発表練習 留学生と行う活動 留学生への質問	個人→ペア→グループで PC を使って練習し、留学生にわかりやすくなるよう、アドバイスし合う 日本の伝統的遊び(お手玉、かるた、折り紙等)の準備と留学生の自己紹介や出身地の調べ学習をもとに留学生への質問を考える
【21・22 回目】 (2 時間) 交流会 (帰りの会)	【発表と交流】 交流会後振り返り	・児童が自己紹介し、留学生にわかりやすくおすすめの場所と好きな日本文化を紹介する ・留学生の自己紹介(英語・母語・日本語)と出身地紹介を聞く→Q & A Time ・留学生と行う活動(留学生が教えてくれる出身地の遊び→児童が教える日本の遊びで交流) 最後に感想を伝え合う ゴールの発表や交流内容について振り返る
【23 回目】	1 学期のまとめ	聞くことクイズ・アルファベットクイズ・個別インタビュー、英語学習アンケート、Can-Do 自己評価アンケート他

【2 学期】将来の夢を話そう!

プロジェクトのゴール (22 回)	
留学生との交流会で、自己紹介後お互いに自分の将来の夢について話すことができる。特に 6 年生は卒業を前に文集作成の時期と重なり、自分の将来について考え始めている。英語で発表することで、より客観的にしかも自分の気持ちに素直に発表しようとしたり、留学生の夢をしっかり聞こうとしたりする。	

Lesson 4 夏休みの思い出を絵日記にして伝えよう

Lesson 4 のゴール (6 回)	
夏休みに行った場所や食べ物、楽しんだこと、感想などを絵日記にして、友達に伝えることができる。また、英語の語順を意識しながら、相手にわかりやすく絵日記を作ろうとする。	
学習内容	言語材料
・夏休みに行った場所、食べ物、楽しんだことと感想 ・過去形の表現	What did you do in (your summer vacation)? 動詞の過去形 (went, saw, ate, was, enjoyed)、語順、形容詞 (fun, delicious, big, exciting, cool)

*太字は新出語句(表現)や重要表現

Lesson	活動項目	内容
【4-1】	【プロジェクトのゴール】	2 学期のプロジェクトのゴールを共有する

<p>Watching</p> <p>興味・関心</p> <p>Chant</p>	<p>【単元のゴール】</p> <p>Let's Watch-1 (3つ) (pp. 44-45)</p> <p>Let's Think-1 (p. 45)</p> <p>Let's Say It Together (p. 44)</p> <p>Let's Listen-1 (p. 46)</p>	<p>夏休みの思い出を絵日記にして伝えよう!</p> <p>視聴しながら、カウントダウンの間にその場所を探す→再度視聴し答えを確認→key sentences の確認</p> <p>夏休みで印象に残っていることを話し合う</p> <p>聞こえてきたことを引き出す→意味確認→繰り返しの箇所を一緒にゆっくりの速さで言う</p> <p>絵の意味を確認し、音声を聞いて英語表現の練習(過去形注意) ボンゴゲーム→答えの確認時に必ず発音</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ex. I enjoyed a summer festival / at a shrine. I ate a big steak / at a restaurant.</p> </div> <p>a(apple/ant/cat)~c(cat/cap/car)</p>
<p>Watching</p> <p>Listening</p> <p>語順</p> <p>語順</p> <p>Alphabet</p>	<p>【4-2】</p> <p>Let's Say It Together</p> <p>Let's Watch-1 (3つ) (pp. 44-45)</p> <p>Let's Listen-2</p> <p>Key sentences 練習</p> <p>Activity-1 (p. 48)</p> <p>Let's Think-2 (p. 51)</p> <p>Phonics と単語</p>	<p>繰り返しの箇所を一緒にゆっくりの速さで言う</p> <p>視聴しながら、カウントダウンの間にその場所を探す→再度視聴し答えを確認→key sentences の確認</p> <p>絵の意味を確認し英語を読んでみる→英語の音声を確認→聞いて解答→答え合わせ→Key sentences 確認</p> <p>→4人のうち自分の好きな夏休みを選んで答える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A: What did you do in your summer vacation? B: I (enjoyed hiking on a mountain. It was fun).</p> </div> <p>絵をヒントに英語を読む→正しい語順を児童から引き出す→音声で確認→色分けの意味を考え、主語・動詞等の働きを意識させる→正しい語順で言う</p> <p>動画を視聴し気づいたことを児童から引き出す</p> <p>d(dog/donut/desk)~f(fan/fox/five)</p>
<p>Watching</p> <p>Key sentences やり取り</p>	<p>【4-3】</p> <p>Let's Say It Together</p> <p>Let's Watch-1 (2つ) (pp. 44-45)</p> <p>Review (p. 47)</p> <p>好きな夏休みで答える</p> <p>Activity-2 (p. 49)</p> <p>*やり取りの前に既習の過去形や使えそうな動詞</p>	<p>最初から一緒にゆっくりの速さで言う</p> <p>残りの動画を視聴し、カウントダウンの間にその場所を探す→再度視聴し答えを確認→key sentences</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A: What did you do in your summer vacation? B: I (enjoyed hiking on a mountain. It was fun).</p> </div> <p>動画を視聴し使われている表現を引き出す→意味を推測→音声を聞いて繰り返し意味を確認→自分の思い出を既習表現や PC で確認しながら考える</p>

Alphabet	<p>の 過去形を確認</p> <p>①HRT/ALT 等モデル</p> <p>②HRTと Class</p> <p>③児童同士</p> <p>(4人以上に尋ねよう)</p>	<p>(HRT/ALT 支援)</p> <p>A/B: Hello.</p> <p>A: What did you do in your summer vacation?</p> <p>B: I (saw a movie). It was (fun).</p> <p>A: Cool!/Nice!/Great! /Me, too. 等 *AB 交代</p>
	Phonicsと単語	g (goat/gorilla/dog)~i (ink/pig/piano)
【4-4】 やり取り	<p>Let's Say It Together</p> <p>Activity-2 復習</p> <p>・前時と異なる友だち</p> <p>3人に尋ねよう</p>	<p>最初から一緒に普通の速さで言う</p> <p>A/B: Hello.</p> <p>A: What did you do in your summer vacation?</p> <p>B: I (saw a movie). It was (fun).</p> <p>A: Cool!/Nice!/Great!/Me, too. 等 *AB 交代</p>
Reading	<p>Let's Read and Write</p> <p>(p. 50)</p>	<p>絵を見て内容を推測→音声を聞く→各文の意味を引き出す→意味確認→音声の後に指しながら読ませる→HRT/ALT の後について読ませる→児童だけで読む→英文の構成を知る(4文で一つのストーリー)</p>
発表準備	<p>Final Activity 準備</p> <p>(p. 51)</p>	<p>HRT/ALT 等のモデル提示(思い出を4文で話す)</p> <p>児童に友達に伝えたい夏休みの思い出を考えさせる</p> <p>(PCで調べたり、巻末の Word Bank を参照する)</p> <p>(HRT/ALT 支援)</p>
Phonics	<p>次回の予告</p> <p>Sounds and Letters</p>	<p>次回までに絵日記の内容を考えてくる</p> <p>i (p. 52)</p>
【4-5】 発表準備	<p>Let's Say It Together</p> <p>Final Activity 準備</p> <p>①HRT/ALT 等モデル</p> <p>②HRTと Class</p> <p>③児童同士</p> <p>・伝わる工夫を考える</p>	<p>最初から一緒に普通の速さで言う</p> <p>巻末ワークシートに発表内容を作成(HRT等支援)</p> <p>完成した英文を使って発表練習(クラス→個人・ペア)</p> <p>S I: Hello.</p> <p>Class: Hello. What did you do in your summer vacation?</p> <p>S I: On (July 27th, I enjoyed the summer festival. I ate yakisoba. I saw bon-odori. It was great!)</p> <p>Class: That's nice! / Cool! / Great!等</p> <p>S I: Thank you.</p>
Alphabet	Review (p. 53)	単元の単語のつづり
【4-6】 発表	<p>Let's Say It Together</p> <p>Final Activity 発表</p>	<p>最初から一緒に普通の速さで言う</p> <p>発表前練習→伝わる工夫(確認、協調、繰り返し、間を</p>

Alphabet	・発表後:友だちの良かった点を発表 ・HRT 等:全体評価 児童の振り返り Phonicsと単語	置く等前時の学習を思い出させる)→評価のポイントを共有 *評価基準を決めルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を行う 教科書 p. 53や巻末ワークシート裏面に記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる j (jam/jet/juice)~l (lion/lemon/lunch)
----------	---	---

Lesson 5 行きたい国を紹介しあおう

Lesson 5 (6回)	
行きたい国やその国でできることの表し方を知って旅行案内を作り、その国の良さを紹介できる。また、行きたい国の良さを分かりやすく伝えようとしたり、世界の様々な国について知ろうとしたりする。	
学習内容	言語材料
・行きたい国とその国でできることや行きたい理由の表現 ・国名・地名	What country do you want to visit? I want to visit (Spain). Why? I want to (see Sagrada Familia). (America, Australia, Brazil, China, Egypt, Finland 等)

*太字は新出語句(表現)や重要表現

【5-1】 復習	【単元のゴール】 5年時の「行ってみたい都道府県」を思い出させる	行きたい国を紹介しあおう! HRT: I want to go to (Okinawa) this winter vacation. Where do you want to go? Class: I want to go to (Tokyo).
Watching	Let's Watch-1 (2つ) (pp. 54-55)	2つの国の写真等から児童の知っていることを引き出す→動画視聴→聞こえた表現や映像から内容を推測→再度視聴して確認→Key sentences 確認
Chant	Let's Say It Together (p. 54)	聞かせ表現を引き出す→意味を確認→ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う→Key sentences
Quiz-1	Activity-1 (p. 58)-1 ①かるた ②国旗・国名クイズ	巻末の国旗カード使用(実態に応じて二人組で行う) 読まれた国名の国旗をとる What country is this? (Answer: France) (Three colors; blue, white, and red. No stars are on it.)

<p>興味・関心 Listening やり取り</p>	<p>Let's Think-1 (p. 55) Let's Listen-1 (p. 56) 行きたい国を尋ね合う ①HRT/ALT 等モデル ②HRTと Class (個人)</p>	<p>どんな国で何をしたいか話し合う 国旗をヒントに国名を読む・絵をヒントに内容を引き出す→聞いて解答→答え合わせ (key sentences)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello. A: What country do you want to visit? B: I want to visit (Egypt).</p> </div>
<p>【5-2】 Watching Quiz-2 Listening やり取り Alphabet</p>	<p>Let's Say It Together Let's Watch-2 (2つ) (pp. 54-55) Activity-1 (p. 58)-2 (時間があれば①かるた) ③行きたい国クイズ Let's Listen-2 ・児童が知らない場所は地図や写真を準備 ・日本のお勧めを伝える ①HRT/ALT 等モデル ②HRTと Class (個人) Phonicsと単語</p>	<p>ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う 写真等から児童の知っていることを引き出す→動画視聴→内容推測→再度視聴して確認→Key sentence 巻末の国旗カード使用(実態に応じて二人組で行う)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I want to visit this country. I want to (see Koalas and kangaroos). What country is it?</p> </div> <p>国旗・国名や写真から内容推測→聞いて解答→答え合わせ→Key sentences→日本のお勧めを考える You can enjoy (watching many wild animals).</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Staff: Hello. What country do you want to visit? Customer: I want to visit Japan. Staff: You can enjoy (visiting Tokyo Skytree).</p> </div> <p>m (milk/monkey)~o (orange/octopus)</p>
<p>【5-3】 Watching Listening 知識 やり取り</p>	<p>Let's Say It Together Let's Watch-2 (3つ) (pp. 54-55) Let's Listen-3 ・補足説明の写真等準備 Let's Think-2 ・異文化理解につなげる Activity-2 (p. 59) ・クラスの人気の国とその理由を知ろう!(目的) ①HRT/ALT 等モデル ・理由表現を復習 ②HRTと Class ③児童同士</p>	<p>ゆっくりの速さで最初から一緒に言う 写真等から児童の知っていることを引き出す→動画視聴→内容推測→再度視聴して確認→Key sentence 国旗国名から写真が何か推測→聞いて解答→ペアで相談→答え合わせ→HRT/ALT 等の補足説明 海外旅行で必要なこと(準備する事、マナー等気を付ける事等児童から引き出す+HRT/ALT 等の経験等) 動画を視聴し内容を引き出す→自分の行きたい国とその理由を考える (Word Bank や PC 活用)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A/B: Hello. A: What country do you want to visit? B: I want to visit (Spain). A: Oh, (Spain). Why? B: I want to see (the Sagrada Familia).</p> </div>

Read	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに伝わるように ・終了後 HRT 等の評価 <p>Let's Read and Write (p. 60)</p> <p>次回予告</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">A: I see./Good!/Me, too.等 *AB 交代</div> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな国が人気だったかその理由と合わせて確認 各文の音声を聞かせ表現を引き出す→音声について言わせる→意味確認→HRT/ALT 等の後について読む→児童のみで読む→構成に注目(順番や語順) 次回までに行きたい国とその理由を考えておく
Alphabet	Phonics と単語	p(pen/pig/piano)~r(racket/rabbit/ruler)
【5-4】 Reading 発表準備	<p>Let's Say It Together</p> <p>Let's Read 復習</p> <p>Final Activity 準備 (p. 61)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい表現は友だちに伝わる工夫を! 	<p>普通の速さで最初から一緒に言う</p> <p>音声の後について読ませる→児童のみで読ませる</p> <p>動画を視聴しイメージを持たせる→HRT/ALT 等モデル提示(理由表現を復習)→考えてきた「行きたい国」の情報を PC 等で集める(調べ学習)→巻末ワークシートの作成(HRT/ALT 等が個々の児童を支援)</p>
Phonics	Sounds and Letters	o (p. 62)
【5-5】 発表準備	<p>Let's Say It Together</p> <p>Final Activity 準備 (p. 61)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちに伝わる工夫を考えさせる ・ペア・グループで発表し合い、アドバイスさせる 	<p>普通の速さで最初から一緒に言う</p> <p>巻末ワークシート完成(HRT/ALT 等の支援)→再度動画視聴(発表のポイント確認)→発表練習(ペア・グループ等)</p>
Alphabet	Review (p. 63)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Hello. I want to talk about (Fance).</p> <p>In (France), you can (see the Eiffel tower).</p> <p>It's (beautiful).</p> <p>You can (eat French bread). It's (delicious).</p> <p>Thank you.</p> </div> <p>単元の単語のつづり</p>
【5-6】 発表	<p>Let's Say It Together</p> <p>Final Activity (p. 61)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表後:友だちの良かった点を発表 ・HRT 等:全体評価 <p>児童の振り返り</p>	<p>普通の速さで最初から一緒に言う</p> <p>発表前練習→伝わる工夫(確認、強調、繰り返し、間を置く等前時の学習を確認)→評価のポイントを共有</p> <p>*評価基準を決めルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を行う</p> <p>教科書 p. 63や巻末ワークシート裏面に記入</p> <p>*「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる</p>
Alphabet	Phonics と単語	s(sun/star/spider)~u(up/umbrella)

Lesson 6 世界で活躍するスポーツ選手を紹介しよう!

Lesson 6 のゴール (5 回)	
スポーツ選手を紹介する表現を知って、好きなスポーツ選手について紹介することができる。世界で活躍するスポーツ選手をわかりやすく伝えようとしたり、様々な選手について知ろうとしたりする。	
学習内容	言語材料
・オリンピック・パラリンピックの競技名 ・選手の紹介表現	What sport do you want to try? I want to try (fencing). This is (Nishikori Kei). He/She can (play tennis well). He/She is (great/wonderful/cool).

*太字は新出語句(表現)や重要表現

【6-1】	【単元のゴール】	世界で活躍するスポーツ選手を紹介しよう!
Watching	Let's Watch-1(3つ) (pp. 64-65)	動画を3つ選ばせ内容を推測→視聴→聞こえた表現を引き出す→視聴し意味を確認→Key sentences
Chant	Let's Say It Together (p. 64)	聞かせ表現を引き出す→重要表現確認→ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う
興味・関心	Let's Think-1 (p. 65)	紹介したいスポーツ選手について話し合う
Listening (競技名)	Let's Listen-1 (p. 66) ・Pointing Game	ピクトグラムの競技名を引き出す→英語表現を練習 HRT/ALT が言う競技名を“Point and say”(素早く指して言うルール)で、ペアで競う
やり取り	・3色の色分けの理由 やってみたいスポーツ ①HRT/ALT等モデル ②HRTとClass ③児童同士	さらに様々なスポーツのルールなど児童と話し合う
Alphabet	Phonicsと単語	A/B: Hello. A: What sport do you want to try? B: I want to try (fencing). A: I see. / Nice! / Good! / Me, too.等 *AB交代
【6-2】	Let's Say It Together	ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う
Watching	Let's Watch-2(3つ) (pp. 64-65)	動画を3つ選ばせ内容を推測→視聴→聞こえた表現を引き出す→視聴し意味を確認→Key sentences
Listening	Let's Listen-2 (p. 67)	写真から競技名を引き出し、英語表現の音声を聞かせ練習→視聴・解答→答え合わせ→重要表現確認
やり取り	Activity-1 (p. 67)	動画視聴し内容を引き出す→ピクトグラムを参考に児

	<p>・応援の仕方を練習</p> <p>①HRT/ALT 等モデル</p> <p>②HRTと Class</p> <p>③児童同士</p>	<p>童がやってみたいスポーツを考える</p> <p>A/B: Hello. A: What sport do you want to try? B: I want to try (archery). A: Oh/Wow, (archery). Exciting!/Cool!/Go for it!/Wonderful!等 B: How about it? *AB 交代</p>
Listening	Let's Listen-3 (p. 68)	写真と名前から競技名を引き出す→聞いて解答→答え合わせ→She/He can/is good at の表現を確認
Alphabet	Phonicsと単語	y (yo-yo/yacht/yogurt), z (zebra/zero)
【6-3】 Watching 表現復習	Let's Say It Together Let's Watch-3(2つ) (pp. 64-65) Let's Listen-2 の復習 (p. 68)	<p>普通の速さで繰り返しの箇所を一緒に言う</p> <p>残りの動画の内容を推測→視聴→聞こえた表現を引き出す→視聴し意味を確認→Key sentences 確認</p> <p>Key sentences の復習(写真を見ながら確認)</p> <p>She/He can (run fast). She/He is good at (skiing).</p>
Small Talk	Activity-2(p. 69) ①HRT/ALT 等モデル ②HRTと Class ③児童同士 ペアで紹介したい選手の 写真を指して伝え合う	<p>ピクトグラムを参考に写真から競技名と名前を確認→例を視聴→紹介表現を引き出す→音声を聞き練習</p> <p>This is (Nishikori Kei) He/She is a (tennis player). He/She can (play tennis well). } どちらか He/She is good at (receiving). } を選択</p>
Reading	Let's Read and Write (p. 70) 次回予告	各文の音声を聞かせ表現を引き出す→音声に続いて言わせる→意味確認→HRT/ALT 等の後について読む→児童のみで読む→構成に注目(順番や語順)
Alphabet	Sounds and Letters	次回までに紹介したいスポーツ選手を考えておく u (p. 72)
【6-4】 発表準備	Let's Say It Together Final Activity 準備 ・ワークシート作成 (2022年:クイズ形式、 2023年:発表形式) ・発表練習 eye-contact, gesture,	<p>普通の速さで最初から一緒に言う</p> <p>動画を視聴しイメージを持たせる→HRT/ALT 等モデル提示(できる事の表現を復習)→考えてきた「紹介したい選手」を巻末ワークシートにまとめる(文章を増やしてもOK)+HRT/ALT 等が個々の児童を支援 伝える工夫を考えさせ練習させる(ペア・グループで見合いアドバイスし合う)+HRT/ALT 等のアドバイス</p>

知識 Alphabet	smile, clear vice の他に 伝わる工夫を考え(確認、 強調、繰り返し、間を置く 等)を試す	(クイズ形式の場合発表の*箇所を変更する) SI: Hello.*(写真を見せる) Class: *Who is he/she? SI: *She is (Takanashi Sara) She is a (ski jumper). She can (jump far). She is (wonderful). *Thank you for listening. Class: *Good!/Sound nice!/Cool!/Great!等
	Let's Think-2 (p. 70) Review (p. 73)	スポーツ選手を支える人たちのことを知る 単元の単語のつづり
【6-5】 発表	Let's Say It Together Final Activity 発表 ・発表後:友だちの良かった点を発表 ・HRT 等:全体評価 児童の振り返り	普通の速さで最初から一緒に言う 発表前練習→伝わる工夫(確認、強調、繰り返し、間を置く等前時の学習を確認)→評価のポイントを共有 *評価基準を決めルーブリックを作成し、パフォーマンス評価を行う 教科書 p. 73や巻末ワークシート裏面に記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項目を設けて振り返らせ、次回につなげる

Lesson 8 将来の夢を発表しよう!

Lesson 8 のゴール (5 回)	
将来就きたい職業の表現を知って、風船シートを作り、将来の夢を発表することができる。自分の夢を気持ちを含めて伝えようとしたり、友だちの夢を聞いて応援しようとしたりする。	
学習内容	言語材料
・何になりたいか尋ね合う表現、職業名 ・応援の表現	What do you want to be? I want to be a (scientist). Why? (I like my science classes). Good luck!/Fantastic!/Perfect job for you!/Great!/Nice dream!

*太字は新出語句(表現)や重要表現

【8-1】 Watching Chant	【単元のゴール】 【プロジェクトのゴール】 Let's Watch-1(3つ) (pp. 86-87) Let's Say It Together	「将来の夢を発表しよう!」共有 「留学生と将来の夢を発表しあう」を確認 動画を3つ選ばせ内容を推測→視聴→聞こえた表現を引き出す→視聴し意味を確認→Key sentences 聞かせ表現を引き出す→重要表現確認→ゆっくりの
----------------------------	---	--

<p>興味・関心 Listening</p> <p>Alphabet</p>	<p>(p. 86) ・応援の表現を練習</p> <p>Let's Think-1 (p. 87) Let's Listen-1 (p. 88) ・理由を表す表現練習</p> <p>単語の発音とつづり</p>	<p>速さで繰り返しの箇所を一緒に言う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: What do you want to be in the future? B: I want to be (an artist/a soccer player). A: Good luck!/Nice dreams!/ I hope your dreams come true!</p> </div> <p>文集作成で考え始めている将来の職業について話す 絵や英語表現から内容を推測→視聴し解答→答え合わせ→重要表現確認(職業選択の理由表現)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I want to (visit many countries). I like (playing video games/computers). I'm good at (cooking/teaching).</p> </div> <p>apple~fan (phonics の音と単語の発音とつづり)</p>
<p>【8-2】 Watching</p> <p>やり取り</p> <p>表現練習</p> <p>Listening</p> <p>Alphabet</p>	<p>Let's Say It Together Let's Watch-2(3つ) (pp. 86-87) Activity-1 (p. 89) ①HRT/ALT 等モデル ②HRTと Class ③児童同士</p> <p>Let's Think-2 (p. 89) ・応援の仕方を練習</p> <p>Small Talk ・HRT/ALT 等の子供時代の夢を話す ・児童の夢を考えるヒントを提示する 次回の予告 Phonicsと単語</p>	<p>ゆっくりの速さで繰り返しの箇所を一緒に言う</p> <p>動画を3つ選ばせ内容を推測→視聴→聞こえた表現を引き出す→視聴し意味を確認→Key sentences 巻末カードを使ったかるた形式(ペア・グループ)</p> <p>①表面(職業名)を読まれたらそのカードをとる ②裏面(関連単語)を読まれたら表面のカードをとる ③英文に当てはまる表面のカードをとる ex. They are good at making cake. (pastry chef)</p> <p>Chant や Let's Watch の応援の表現を思い出させる→音声を聞いて練習→動画に合わせて言う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Please listen to my dream when I was an elementary school student. I want to be a (flight attendant). I (like English). I (want to visit many countries). What do you want to be?</p> </div> <p>今考えている将来の夢を次回友だちと伝え合う goat~lion (phonics の音と単語の発音とつづり)</p>
<p>【8-3】 Watching</p>	<p>Let's Say It Together Let's Watch-3(2つ) (pp. 86-87)</p>	<p>普通の速さで繰り返しの箇所を一緒に言う</p> <p>残りの動画の内容を推測→視聴→聞こえた表現を引き出す→視聴し意味を確認→Key sentences 確認</p>

やり取り	Activity-2 (p. 90) ①HRT/ALT 等モデル ②HRT と Class ③児童同士	動画を視聴しイメージを持たせる→やり取りの表現を引き出し、意味を確認→やり取りの練習 A/B: Hello. A: What do you want to be? B: I want to be (a scientist). A: I see. / Cool! / Nice!等 Why? B: I (like my science classes). A: Nice dream!/Perfect job for you!等 *AB 交代
Alphabet	次回予告 Phonics と単語	次回までに将来の夢の考えをまとめておく milk~sun (phonics の音と単語の発音とつづり)
【8-4】 Reading 発表準備	Let's Say It Together Let's Read and Write (p. 91) Final Activity 準備 (p. 91) ・ワークシート作成 ・発表練習 eye-contact, gesture, smile, clear vice の他に 伝わる工夫(確認、 強調、繰り返し、 間を置く等) を試す	普通の速さで最初から一緒に言う 各文の音声を聞かせ表現を引き出す→音声に続いて 言わせる→意味確認→HRT/ALT 後について読む→ 児童のみで読む→構成に注目させる(順番や語順) 動画を視聴しイメージを持たせる→HRT/ALT 等モデル 提示→考えてきた「将来の夢」を巻末ワークシートに まとめる(Word Bank や PC を活用)+HRT/ALT 等 が個々の児童を支援 伝わる工夫を考えさせ練習させる(ペア・グループで 見合いアドバイスし合う)+HRT/ALT のアドバイス SI /Class: Hello. SI: I want to talk about my dream. I want to be (a vet). I (like animals). I (want to help sick animals). It's my dream. What do you want to be? Class: Good luck!/Perfect job for you!等
Phonics	Sounds and Letters	th and s (p. 92)
【8-5】 発表	Let's Say It Together Final Activity 発表 ・発表後:友だちの良かった点を発表 ・HRT 等:全体評価 児童の振り返り	普通の速さで最初から一緒に言う 発表前練習→伝わる工夫(確認、強調、繰り返し、間を 置く等前時の学習を確認)→評価のポイントを共有 *評価基準を決めルーブリックを作成し、パフォーマンス 評価を行う 教科書 p. 93や巻末ワークシート裏面に記入 *「頑張ったこと」「次回頑張りたいこと」等具体的な項

Alphabet	Review (p. 93)	目を設けて振り返らせ、次回につなげる 単元の単語とつづり
----------	----------------	---------------------------------

【23回目】 交流会準備 (昼休み等 の時間も活 用)	【プロジェクトのゴール】 留学生への発表内容 ・どんな工夫が必要か ・発表練習 ・留学生のことを知る (昼休み等の時間も活用) ・留学生への質問 ・留学生と行う活動 ・留学生への招待状	プロジェクトのゴールを再確認する 交流会で自己紹介と将来の夢を発表する Lesson 4, 5, 6, & 8の振り返りや1学期の交流会の 経験をもとに発表の工夫を話し合う 個人→ペア→グループでPCを使って練習し、留学生にわ かりやすくなるよう、アドバイスし合う 留学生の自己紹介を読んで、留学生の出身地をグルー プごとに調べ、クラスで共有する 興味を持ったことを質問できるよう各自準備する 児童に人気の活動の説明方法を話し合う 留学生との交流会の内容をもとに招待状を作成
【24・25回 目】 (2時間) 交流会 (帰りの会)	【発表と交流】 交流会後振り返り	・児童が自己紹介し、将来の夢を発表する ・留学生の自己紹介(英語・母語・日本語)と出身地紹介 と将来の夢の発表を聞く→Q & A Time ・留学生と行う活動(留学生の母語を使ったフルーツバス ケット→児童が教える人気のゲーム) ・最後に感想を伝え合う ゴールの発表や交流内容について振り返る
【26回目】	2学期のまとめ	聞くことクイズ・アルファベットクイズ・個別インタビュー、英 語学習アンケート、Can-Do 自己評価アンケート他

*オリジナルワークシート(5年生: Lesson 3, Lesson 4, Lesson 6)は、付録を参照してください。

- ・5年生 Lesson 3 オリジナルワークシート: 付録-5
- ・5年生 Lesson 4 オリジナルワークシート: 付録-6
- ・5年生 Lesson 6 オリジナルワークシート: 付録-7

おわりに

小学校高学年の外国語が教科化になり、中学・高校の外国語とつながることで、児童・生徒の英語力向上が期待される一方、中学生や小学 6 年生の英語嫌いの増加が懸念されている(朝日新聞, 2024 年 3 月 19 日)現状に鑑みると、小学校の英語学習を通して認知的満足感や達成感を自信につなげ、その後の英語学習で待ち受ける困難に立ち向かう原動力を育成していくことが大切だと考える。そこで、「プロジェクト重視の英語指導」は、まさに小学校英語の指導に適した指導法であると言えるだろう。4 技能・5 領域を育成する学習指導要領(平成 29 年告示)に基づいて作成された7社の検定教科書(2020 年)やその修正版となる6社の検定教科書(2024 年)は、デジタル教材が豊富で非常に工夫された高学年用教材であるが、使い次第では座学中心の指導となり、3, 4 年生の外国語活動で培ってきた体験的学びが活かされなくなるといった懸念もある。その一方、プロジェクト型の 4 技能統合型の活動が学期毎に配置されるなどの工夫も見られる(白土, 2022a)。小学校英語を支える指導者の方々には、このプロジェクト型の活動を本報告書の指導年間計画と指導概略(実践編 II)で示した方法を基に、ぜひ目の前の児童に合わせてアレンジした「プロジェクト重視の英語指導」をして頂きたい。

「教科書で教える」と言われる通り、今大切にされるべきは、教科書をいかに使うかである。本報告書の小学校におけるプロジェクト重視の英語指導(研究編 II)で述べた通り、「プロジェクト重視の英語指導」は、教科書の言語材料と学習内容を使ったプロジェクトを設定することができる。プロジェクト達成の過程で、児童は選択や決定の機会を与えられ、ゴール達成に向けて様々な活動を行うことができる。英語学習だけでなく、例えば観察したり、絵を描いたり、本やインターネットで調べたり、インタビューしたり、さらに他教科で学習した知識を活かして、意欲的に協働で学習に取り組める。その結果、ゴール達成により、満足感や達成感を得られるであろう。そのため、児童の英語学習への動機づけを高めることも期待できる。特に、学習指導要領で重視される「外国語を使って何ができるようになるのか」の問いに、具体的な成果物の達成を目指すプロジェクト重視の英語指導は十分答えることができる。まさに、「プロジェクト重視の英語指導」は、小学校英語に有効な指導法の一つであると考えられる。3年間の実践に基づく本研究結果が、その可能性を十分証明してくれた。本研究報告書が、小学校英語教育の一助となることを切に願っている。

英語学習アンケート

1. 英語は好きですか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

2. 英語の授業は楽しいですか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

3. 授業中、先生や友達の英語をすすんで聞こうとしていますか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

4. 授業中、友達や先生と英語ですすんで話そうとしていますか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

5. 授業中、黒板や教科書、プリントなどに書いてある英語をすすんで読もうとしていますか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

6. 授業中、教科書やプリントなどにすすんで英語を書こうとしていますか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

7. 授業中、先生や友達の英語を聞いて意味がわかりますか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

8. 授業中、先生や友達と英語で話すことができますか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

9. 授業中、黒板や教科書、プリントなどに書いてある英語を読むことができますか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

10. 授業中、教科書やプリントなどに英語を書くことができますか。

(4)とてもそう思う (3)まあまあそう思う (2)あまりそう思わない (1)まったくそう思わない

Can-Do アンケート・6年生 | 学期

*1～16の番号の中で、当てはまる番号すべてを○で囲みましょう。(○は、いくつでもいいです。)

1. 今日の天気が英語で言えます。
2. 今日の曜日が英語で言えます。
3. 今日の日いち(●月○日)が英語で言えます。
4. 自分の好きなことを「～が好きです」と英語で言えます。
5. 自分ができることを「～ができます」と英語で言えます。
6. 自分たちの町にある施設(図書館、公園、病院、駅、学校、本屋など)のうち3つ以上英語で言えます。
7. 町にある大好きな場所や施設を「自分の大好きな場所は～です」と英語で言えます。
8. その場所や施設で楽しめることを「～をして楽しめます」と英語で言えます。
9. 春・夏・秋・冬をすべて英語で言えます。
10. 味の表現(甘い、にがい、すっぱい、しょからい)のうち、2つ以上英語で言えます。
11. おすすめの日本の食べ物や行事を「○○の季節(△△月)には、～ができます」と英語で言えます。
12. アルファベットの大文字(A～Z)をすべて読むことができます。
13. アルファベットの大文字(A～Z)を何も見ないですべて書くことができます。
14. アルファベットの小文字(a～z)をすべて読むことができます。
15. アルファベットの小文字(a～z)を何も見ないですべて書くことができます。
16. 自分の姓名(名字と名前)をローマ字で4線に正しく書くことができます。

☆これで終わりです。(^O^)



6年生1学期・聞くことクイズ

3人がそれぞれクイズ形式で自己紹介を通して2回言います。よく聞いて内容に当てはまる絵の●を線で結びましょう。聞いた後、3人について分かったことを口の中に日本語で書きましょう。



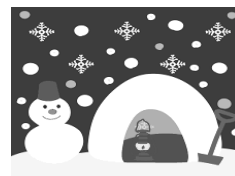
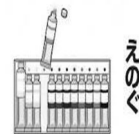
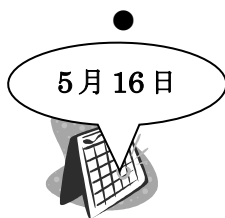
Akane

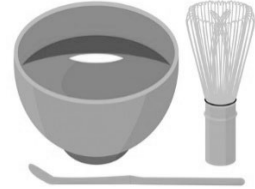
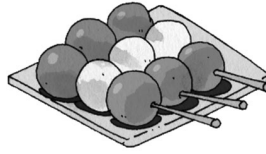
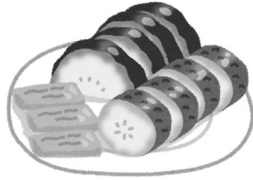
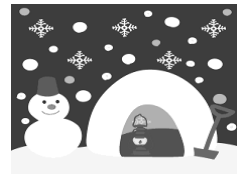


Kenta



Ayumu





Midori City



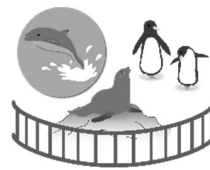
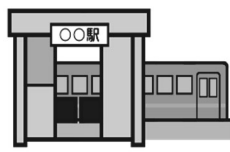
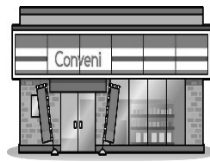
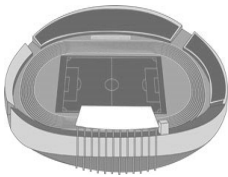
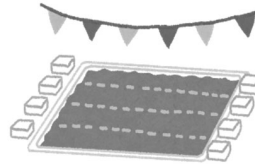
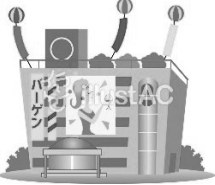
Minami City



Kodaira City



Sakura City



* Akane について分かった事

* Kenta について分かった事

* Ayumu について分かった事

聞くことクイズ・スクリプト

*各話し手の英語を2回繰り返した後、「分かったことを日本語で書きましょう」と指示し、分かったことを書く時間を2分程度とる。(3人とも同様に行う。)

No. 1

Hello, I'm Akane. My birthday is May 16th.

I like science. I can swim.

I like Japan very much. In spring, we can enjoy cherry blossoms.

I like Japanese food, too. I like pickles. It's salty.

I live in Sakura City. I like my city.

We have a big department store. We enjoy shopping.

We have a nice library, too. I like reading books there.

Please come to my city.

Thank you for listening.

No. 2

Hello, I'm Kenta. My birthday is March 6th.

I like P.E. I can play soccer.

I like Japan very much. In summer, we can enjoy fireworks festivals.

I like Japanese food, too. I like matcha. It's bitter.

I live in Midori City. I like my city.

We have a beautiful park. We enjoy seeing many flowers.

We have a nice aquarium, too. I like looking at the fish there.

Please come to my city.

Thank you for listening.

No. 3

Hello, I'm Ayumu. My birthday is February 26th.

I like arts and crafts. I can skate.

I like Japan very much. In autumn, we enjoy colored leaves.

I like Japanese food, too. I like tempura. It's delicious.

I live in Minami City. I like my city.

We have a big swimming pool. We enjoy swimming in all seasons.

We have a nice convenience store, too. We can buy obento there.

Please come to my city.

Thank you for listening.

6年生 1学期・アルファベットクイズ

1.これから6つアルファベットの名前をそれぞれ2回ずつ読みます。

聞こえたアルファベットを○で囲みましょう。

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| (1) | A | Q | K | E | J |
| (2) | P | F | S | G | X |
| (3) | L | U | H | M | N |
| (4) | k | i | r | a | j |
| (5) | f | m | q | h | s |
| (6) | d | c | g | e | b |

2.これから(1)～(3)で、それぞれ大文字と小文字のアルファベットセットの音とそれから始まる言葉を1つずつ、2回言います。聞こえたアルファベットセットを○で囲みましょう。

- *練習: Gg Jj Mm Pp Qq
- | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|
| (1) | Bb | Rr | Zz | Dd | Vv |
| (2) | Ee | Oo | Ii | Aa | Ww |
| (3) | Kk | Hh | Ss | Cc | Ff |

3.これから4つの季節を読みます(2回繰り返します)。聞こえた順番に、①から④の番号を英単語の上の()に書いてください。また、[]の中に上の英語の季節名を日本語で書きましょう。

- | | | | | |
|----|----------|----------|----------|----------|
| 番号 | () | () | () | () |
| | summer | winter | autumn | spring |

季節名 [] [] [] []

4.これから3つの季節の行事を表す言葉を2回繰り返して言います。聞こえた順番に、①から③の番号を英単語の上の()に書いてください。また、[]に上の英語の意味を日本語で書きましょう。

番号 () () ()

New Year's Day Children's Day Star Festival

意味 [] [] []

5.これから(1)から(10)の英語の施設の名前を読みます(2回繰り返します)。(1)から(10)に当てはまる日本語を□から選んで()にその番号を書きましょう。

(1) park () (2) library ()

(3) bookstore () (4) swimming pool ()

(5) convenience store () (6) station ()

(7) amusement park () (8) hospital ()

(9) department store () (10) aquarium ()

- | | | | | |
|---------|-------|------|--------|------|
| ① 水泳プール | ② 水族館 | ③ 公園 | ④ デパート | ⑤ 駅 |
| ⑥ 図書館 | ⑦ 遊園地 | ⑧ 本屋 | ⑨ コンビニ | ⑩ 病院 |

5. 自分の名字と名前をひらがなで()に書き、ローマ字で4線に書きましょう。

名字()

.....

.....

.....

.....

名前()

.....

.....

.....

.....

*アルファベットクイズの感想を書きましょう。

Lesson 3 My Dream Schedule

Name: _____

1		_____ _____ _____ _____
2		_____ _____ _____ _____
3		_____ _____ _____ _____
4		_____ _____ _____ _____
5		_____ _____ _____ _____

*上の4線に英語で自分の名前と教科書 p. 36 を見ながら夢の時間割の教科名を書きましょう。

*下の英語を使って自分の言いたいことを伝えられるよう発表練習をしましょう。

Hello. I'm _____.

This is my dream schedule.

I have _____, and _____.

I study _____ with _____.

I want to be a/an _____.

Thank you.



My Dream Day



Hello. My name is _____

*名前だけローマ字で書きましょう。

This is my dream day.

I get up at _____ .

*数字を書きましょう。

In the morning.

.....
.....
.....

日本語: 午前中 _____

In the afternoon,

.....
.....
.....

日本語: 午後 _____

Thank you.

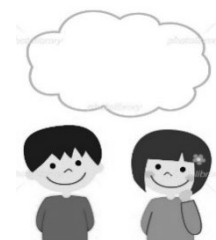
*名前をローマ字で、起きる時間を数字で書きましょう。

最初にしたいことを二つ(午前と午後)日本語で書きます。

次に、教科書を見ながら4線に英語の文章を書きましょう。

書き終わったら、先生に見てもらいます。

その後、相手に伝わるように、英語の表現をしっかり練習し、伝えるくふうも考えましょう。



Where do you want to go?

.....
.....
.....



*自分の名前をローマ字で書きましょう。

• Hello.

(Class: Hello)

• I want to go to

.....
.....
.....

「～へ行ってみたいです」 *教科書 p. 66～p.69 を見ながら、都道府県名をローマ字で書きましょう。

in

.....
.....
.....

*行ってみたい季節を書きましょう。

(Class: Why?)

• We can (see/eat/buy/enjoy)

.....
.....
.....
.....
.....

• We can (see/eat/buy/enjoy)

.....
.....
.....
.....
.....

(Class: I see. / Me, too. / Good! / Sounds nice! / Great! / Wonderful!)

• Thank you.

著者略歴

白土厚子(しらど あつこ)

学習院大学文学部英米文学科卒業後、中学校英語講師や塾講師を経て、津田塾大学学芸学部英文学科に社会人学生として入学。在学中アメリカ、ランドルフ大学に留学し ESL Education を学ぶ。帰国後、同大学院文学研究科修士課程、博士課程で初等英語教育の研究を続け、博士号を取得。津田塾大学学芸学部英文学科助教、東洋大学文学部教育学科助教を経て、東京学芸大学特命准教授として勤務し、現在も同大学で教員養成に関わっている。専門は第二言語習得研究、英語科教育法、初等英語教育法。特に初等英語教育におけるプロジェクト重視の英語指導を研究している。著書：『生きる力を育む初等英語教育—津田塾大学からの提言—』（共著、朝日出版）、『Project-Based Approach to Elementary School English Education』（単著、大学教育出版）、『創造的な学びを育む初等英語教育』（共著、朝日出版）。主な論文：「プロジェクト・ベースド・カリキュラムに基づく英語活動の長期実践報告」『JASTEC 研究紀要』、「We Can!を使ったプロジェクト重視の英語学習の実践」『JES JOURNAL』、「Project-Oriented Instruction and Evaluation Using the Certified Textbook: Through Two-Year Practice for Sixth-Grade Students」『The Tsuda Review』など。

評価と一体化したプロジェクト重視の小学校英語指導法の構築と普及

2021 年度～2024 年度日本学術振興会科研費 若手研究

課題番号：21K13067

研究代表者：白土厚子（東京学芸大学）

発行：2024 年（令和 6 年）10 月

印刷：有限会社サンプロセス

